

**米子工業高等専門学校
リベラルアーツセンター
事業報告書 2016-2019**

2020（令和2）年3月

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター

米子高専リベラルアーツセンター事業報告書 2016-2019

【目次】

1. 規則およびスタッフ	2
米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター規則	2
スタッフ	4
2. 業務日誌	6
3. リベラルアーツセンター設立式	7
4. 活動状況	20
(1) 全国高専フォーラム・オーガナイズドセッション	20
(2) リベラルアーツ講演会	29
(3) リベラルアーツ特別講演	142
(4) リベラルアーツ談話会	143
(5) 研究会／講演会	145
(6) 高専リベラルアーツ教育研究会	146
(7) 高専リベラルアーツ教育研究交流会	149
(8) 日本高専学会	155
(9) その他	158
5. “KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ	160
6. 広報・情報発信	162
(1) 『リベラルアーツセンターだより』	162
(2) ホームページ	162
(3) 新聞記事	162
(4) 学校要覧	162
7. 刊行物	187
8. 論文発表	188
9. リベラルアーツ図書	189

1. 規則およびスタッフ

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター規則

(設置目的)

第1条 米子工業高等専門学校に、リベラルアーツ（アクティブ・リベラルアーツ）を實踐し総括する校内活動拠点としてリベラルアーツセンター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第2条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産業を担う技術者に必要な教養教育の研究に関すること。
- (2) 高専教育と学生の活動の地域・社会への発信に関すること。
- (3) その他センターに関し、前条の設置目的達成に必要な業務に関すること。

(職員)

第3条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター員若干名

2 前項の職員は、次の者をもって組織する。

- (1) 図書館長
- (2) 情報教育センター長
- (3) 広報室長
- (4) 教務主事補若干名
- (5) 教養教育科教員若干名

3 前項第4号及び第5号の職員は校長が指名し、併せて前項各号の者からセンター長、副センター長を任命する。

(職務)

第4条 センター長は、センターを総括する。

2 副センター長は、センター長を補佐する。

3 センター員は、センターの業務を行う。

(任期)

第5条 第3条第2項第4号及び第5号の職員の任期は、1年とし再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター会議)

第6条 センター長は、センター会議を定期及び臨時に召集し、議長となる。

2 センター会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター員

3 センター会議が必要と認めたときは、センター会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 センターの事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、センターの管理運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附則（平成28年3月2日規則第19号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

スタッフ

【2016年度】

役職	氏名	所属	兼職
センター長	熊谷 昌彦	建築学科教授	図書館長
副センター長	加藤 博和	教養教育科准教授	広報室長
センター員	松本 正己	電気情報工学科教授	情報教育センター長
	竹内 彰継	教養教育科教授	教養教育科長
	川邊 博	教養教育科教授	
	中島美智子	教養教育科准教授	
センター事務	福間 久光	学生課長	
	濱田 泰之	総務課学術情報係長	

【2017年度】

役職	氏名	所属	備考
センター長	布施 圭司	教養教育科教授	図書館長
副センター長	加藤 博和	教養教育科准教授	広報室長
センター員	松本 正己	電気情報工学科教授	情報教育センター長
	竹内 彰継	教養教育科教授	教養教育科長
	川邊 博	教養教育科教授	
	中島美智子	教養教育科准教授	
	辻本 桜介	教養教育科助教	
センター事務	福間 久光	学生課長	
	濱田 泰之	学生課学術情報係長	



【2018年度】

役職	氏名	備考
センター長	布施 圭司	図書館長・教養教育科教授
副センター長	加藤 博和	教養教育科教授
センター員	松本 正己	情報教育センター長・電気情報工学科教授
	田中 晋	広報室長・物質工学科教授
	竹内 彰継	教養教育科長・教授
	青砥 正彦	教養教育科准教授
	原田 桃子	教養教育科助教
職員	景山 修司	学生課長
	角田 真理	学生課学術情報係長

【2019年度】

役職	氏名	備考
センター長	川邊 博	図書館長・教養教育科教授
副センター長	加藤 博和	教養教育科教授
センター員	田中 晋	広報室長・物質工学科教授
	松本 正己	情報教育センター長・電気情報工学科教授
	布施 圭司	教養教育科長・教授
	竹内 彰継	校長補佐(教務)補・教養教育科教授
	青砥 正彦	教養教育科准教授
	原田 桃子	教養教育科助教
職員	景山 修司	学生課長
	角田 真理	学生課学術情報係長

2. 業務日誌

年月日	内容	会場
(2016年度)		
2016年4月7日	研究会第1回	米子高専
2016年5月6日	研究会第2回	米子高専
2016年5月21日	米子高専リベラルアーツセンター設立式	米子高専
2016年5月21日	研究会第3回	米子高専
2016年7月7日	研究会第4回	米子高専
2016年7月28日	研究会第5回	米子高専
2016年8月26日	全国高専フォーラム・オーガナイズドセッション	岡山大学津島キャンパス
2017年2月11日	日本高専学会第19回連続シンポジウム	神戸研究学園都市・ユニティ
2017年3月1日	講演会第1回	米子高専
2017年3月21日	リベラルアーツセンター・ホームページ開設	
2017年3月31日	『リベラルアーツセンターだより』第1号発行	
(2017年度)		
2017年5月31日	第1回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2017年6月21日	第2回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2017年7月25日	第3回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2017年9月2日	日本高専学会第23回年会講演会(～3日)	米子高専
2017年11月7日	「身近な植物画」展(～12日)	米子高専
2017年12月4日	2017年度第1回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2017年12月14日	第4回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2017年12月14日	「簿記講座」(全12回、～2018年2月2日)	米子高専
2017年12月15日	2017年度第1回 高専リベラルアーツ教育研究会	米子高専
2017年12月26日	第1回 高専リベラルアーツ教育研究交流会	津山高専
2018年1月22日	2017年度第2回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2018年1月29日	2017年度第2回 高専リベラルアーツ教育研究会	米子高専
2018年2月20日	2017年度第3回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2018年2月22日	2017年度第4回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2018年3月9日	2017年度第3回 高専リベラルアーツ教育研究会	米子高専
2018年3月26日	『リベラルアーツセンターだより』第2号発行	
(2018年度)		
2018年4月24日	第5回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2018年5月8日	リベラルアーツ特別講演	米子高専
2018年10月26日	2018年度第1回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2018年11月9日	リベラルアーツ特別講演	米子高専
2018年11月19日	第6回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2018年11月20日	2018年度第1回 高専リベラルアーツ教育研究会	米子高専
2018年12月12日	2018年度第2回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2018年12月13日	2018年度第2回 高専リベラルアーツ教育研究会	米子高専
2018年12月17日	第7回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2018年12月19日	ピブリオバトル	米子高専
2019年1月23日	2018年度第3回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2019年2月20日	2018年度第4回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2019年3月8日	第2回 高専リベラルアーツ教育研究交流会	米子コンベンションセンター
2019年3月29日	『リベラルアーツセンターだより』第3号発行	
(2019年度)		
2019年5月27日	第8回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2019年7月19日	第9回 リベラルアーツ談話会	米子高専
2019年9月13日	第3回 高専リベラルアーツ教育研究交流会	岡山コンベンションセンター
2019年10月7日	2019年度第1回 高専リベラルアーツ教育研究会	米子高専
2019年12月11日	2019年度第1回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2020年1月16日	2019年度第2回 高専リベラルアーツ教育研究会	米子高専
2020年1月23日	2019年度第2回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2020年1月31日	2019年度第3回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2020年2月14日	2019年度第4回 リベラルアーツ講演会	米子高専
2020年3月27日	『リベラルアーツセンターだより』第4号発行	

3. リベラルアーツセンター設立式

標記設立式を、2016年5月21日（土）午後1時から、本校図書館情報センターを会場に開催し、本校を含む16高専から約60名、本校学生約80名、中学校、図書館、マスコミ関係者の参加がありました。

最初に、氷室昭三校長より開会挨拶があり、高専の教養教育の制度的変遷などの紹介もなされました。前校長の齊藤正美名誉教授が基調講演を行い、高専でリベラルアーツが求められる時代状況などについて述べられました。

続くトークセッションでは、石川高専建築学科の道地慶子教授から“デザコン”指導やイギリス留学などの体験に基づく提案が、教養教育科の川邊博教授から自身の専門の物理学の考えを応用した提案がそれぞれなされ、参加の学生、教職員らと議論を深めました。

一昨年度改修された図書館情報センターを、建築学科の高増佳子准教授の案内で施設見学しました。その後、研究会、会場を移しての情報交換会も盛り上がりました。

【プログラム】

開会挨拶

米子工業高等専門学校校長 氷室 昭三

基調講演：「いま、何故リベラルアーツか」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

トークセッション：「リベラルアーツとは何か」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

石川工業高等専門学校建築学科教授 道地 慶子

米子工業高等専門学校教養教育科教授 川邊 博

コーディネータ：米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター

副センター長 加藤 博和

閉会挨拶

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター長 熊谷 昌彦

施設見学

説明：米子工業高等専門学校建築学科准教授 高増 佳子

研究会

情報交換会

米子工業高等専門学校 リベラルアーツセンター 設立式

2016（平成28）年5月21日（土）

会場：米子工業高等専門学校図書館情報センター

開会挨拶（13：00～13：15）

米子工業高等専門学校校長 氷室 昭三

基調講演（13：15～14：00）

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

「いま、何故リベラルアーツか」

トークセッション（14：00～14：55）「リベラルアーツとは何か」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

石川工業高等専門学校建築学科教授 道地 慶子

米子工業高等専門学校教養教育科教授 川邊 博

コーディネータ：米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター
副センター長 加藤 博和

閉会挨拶（14：55～15：00）

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター長 熊谷 昌彦

施設見学（15：00～15：30）

説明：米子工業高等専門学校建築学科准教授 高増 佳子

研究会（15：30～）

情報交換会（17：30～）

【開会挨拶】

米子工業高等専門学校校長 氷室 昭三

<プロフィール>

1980年3月熊本大学大学院理学研究科修士課程修了、同年4月持田製薬株式会社東京研究所研究員採用（83年3月まで）。博士（工学）。

1983年4月有明高専採用、2004年4月同校教務主事（08年3月まで、12年4月から16年3月まで）、16年4月米子高専校長。

1999年4月水環境技術研究会会長（2003年3月まで）、2007年1月上級教育士（工学・技術）取得、同年4月大牟田市環境審議会会長（16年3月まで）、同年8月日本高専学会会長（11年7月まで）、13年8月日本混相流学会理事（15年7月まで）、15年4月ファイナブル学会連合副理事長（現在に至る）。

受賞：2002年11月国立高等専門学校協会・奨励賞、05年8月日本混相流学会・技術賞、09年3月文部科学大臣賞、11年8月平成23年度全国高専教育フォーラム優秀発表賞。

高専における教養教育の充実について

高専の目的は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」で、この中にある“学芸”であるが、それは“学術”と“技芸”の意である。高専において實際上中心的に教授される内容に則して言えば、学術およびその応用技術を意味しているということである。また、“職業に必要な能力”には、職業に必要な各種の能力を含み、単に特定分野の職業に必要な専門的、技術的能力のみならず、一般職業人として、また、社会人として必要な知的、道徳的能力も含まれていると考えたい。

このことに関し、昭和46年の中教審答申が参考になる。「高等専門学校は、おおむね現行の高等専門学校に相当するものであるが、現行の工業、商船関係以外にも、このように早くから専門教育を施すことが適当な職業教育の分野への拡充が考慮されるべきである。また、今後、たとえば、大学入学試験の好ましくない影響から解放され、青年期における人間形成に重点をおくという目的をもって義務教育修了者に5年程度の一貫教育を行うことも検討する必要がある。」と述べられ、高専は、このときから「専門職養成の目的」と「人格養成の目的」をもつことになったようである。

このような背景から高専では若年技術者教育の観点から丁寧な授業、生活指導、課外活動の指導など、きめ細かい教育が行われてきた。ここに高専教育の優位性を見ることができるといえる。しかしながら、平成23年1月に出された中教審答

申「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、「高専の入学者は、技術やものづくりへの関心が高く、比較的目的意識が明確であるが、そのような中でも入学者の意識は多様化してきており、15歳からの5年一貫教育の中で勉学に対する動機付けを維持・向上させていくことには困難が伴う。また、高専の卒業者は、企業からその専門的知識やコンピュータ活用能力、誠実さなどが評価されている一方で、コミュニケーション能力については期待値に比べて評価が低い。」ことが指摘されている。

一方、平成21年（社）日本経済団体連合会「競争力人材の育成と確保に向けて」によると、企業が求める「人材像」の要素は、「自主性・積極性」「進取の精神」「柔軟な発想と深い考察力」「コミュニケーション力」「国際的な視野と多様性の受容」などである。また、学生時代に若者が身につけておくことが望ましい資質としては、外国語能力（特に英語力）を含む国際的な視野、物事を考察する際の基礎となる思考力、それを支える深い教養、自主性・積極性を促す多様な知識・経験などが挙げられる。これらを考慮すると、国際化対応能力を含めた教養教育の充実は、これから社会に出る若者を教育する上で重要な柱とすべきである。

【基調講演】

「いま、何故リベラルアーツか」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

<プロフィール>

1968年鈴鹿高専卒業、70年山梨大学工学部機械工学科卒業、72年名古屋大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了。工学博士（名古屋大学、1989年）。

1972年東京芝浦電機株式会社入社。生産技術研究所に所属し、ウラン遠心分離機の研究開発等に従事。「ウラン濃縮装置の開発」により社長賞（1978年）。

1981年より鈴鹿高専機械工学科、電子制御工学科に所属し、教育研究等に従事。専門は、塑性加工、バイオメカニクス（人間医工学）。国立高等専門学校機構理事長賞（2008年）。

2010年4月米子高専校長（16年3月まで）。一般社団法人全国高等専門学校連合会デザコン専門部会長（14～16年）。16年4月米子高専名誉教授。

現在、我が国の政治、経済、教育等のあらゆる分野にわたって解決すべき大きな問題や課題が横たわっている。国レベルでは財政再建、経済・産業のグローバル化への対応、高等教育改革等があり、地方では少子高齢化対策や地方創生等が重要課題となっている。

このような問題や課題の発生は、戦後我が国が歩んできた高度経済成長時代の思考法や各種法制度・政策などの限界が顕在化してきていると考えることもできる。中でも高等教育の問題に関しては、20年以上も前から教育内容、教育制度、財政問題、社会貢献等の面からの改革が求められており、平成16年には国立大学法人化、及び高等専門学校については独立行政法人化が進められた。

このような社会情勢の中で、平成20年12月24日付けの中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」では、とくに教養教育の重要性の観点から、「創造力の涵養のためには、専門的な知識や技術はもちろん、リベラルアーツや幅広い総合知識の修得が重要であり、そのような面にも配慮した教育カリキュラムと教育環境の整備が重要である」という答申がなされた。このような答申の背景には、戦後の我が国の社会、文化、価値観等の変化や国際的な経済産業の構造と枠組みの変化などがその根底にあることが認識されている。

本基調講演では、まさに今日本の工学教育・技術者教育の根源的な変革が求められているという観点から、その一翼を担う高専教育のあり方を問うとともに、今後の50年間に通用する教育体系を創り上げていくことを目標とし、また今後の議論と研究の基盤とするために、以下の視点からの問題点と課題、及び広く研究対象とすべき事柄を提起する。

- (1) 科学技術成熟化社会と経済産業グローバル化時代における技術者や工学者に求められる資質と能力は何か、またそのような人材を育成するための教育は如何にあるべきか
- (2) 若者の理工系離れと日本の工学教育・技術者教育の危機及びその克服の必要性
- (3) 高等教育機関としての高専における教育および教育制度の特徴と社会的使命－教育制度と教育課程に関する学術的研究の必要性（教育学や教育社会学者の参加が必要）
- (4) 地方創生時代における高専の工学教育・技術者教育（職業人・産業人としての人材育成教育を含む）の役割、社会がそれに期待するところは何かの究明
- (5) 高専におけるリベラルアーツ教育－内容と方法論の確立の必要性和重要性、西欧の大学の教育制度と諸概念（**liberal arts, sciences, arts and humanities** など）、日本社会に根差した **liberal arts** や **arts and humanities** 教育の模索、技術と技能の違いの究明 など

【トークセッション】

「リベラルアーツとは イギリス教育の仕組みからみえるもの」

石川工業高等専門学校建築学科教授 道地 慶子

<プロフィール>

The University of Manchester

M.A. (Master of Arts) in Urban Design and Regeneration

1級建築士。株式会社住環境学研究所を経て、2009年から石川高専勤務。

福岡市都市景観賞 特別賞、日本都市計画家協会 最優秀賞 日本まちづくり大賞等。

建築だけでなく環境とともに快適に暮らせる仕組みづくりの研究を行っている。

リベラルアーツとは、西洋世界の学術・学問の基礎で、生きるための力や自らを開放するための知識を身につける古代ギリシアで生まれた概念である。リベラルアーツ教育は基礎的な教養を形づくり、人としての根幹部分をつくる学びで、リベラルアーツ教育を通して異なるものへの理解を持ち、自身のアイデンティティを確立していくグローバルな人材を育成する基礎となるものである。

イギリスでは義務教育は11年間で、初等教育（5歳～11歳）と中等教育（12歳～16歳）に分かれる。15歳～16歳の2年間は、GCSE（General Certificate of Secondary Education）課程といわれ、修了時にGCSE 全国統一試験をうけ修了認定としての評価を受ける。義務教育終了後の生徒の進路は、就職、職業資格取得、高等教育進学に大別できる。職業資格は主に継続教育カレッジでその教育訓練が行われる。高等教育に進学するものは、さらにシックスフォームと呼ばれる課程で2年間の高等教育を受け、いわゆる大学入試にあたるGCE-Aレベル（General Certificate of Education, Advanced Level）によりA～Eのグレードで評価され、その評価に見合った大学へ入学する。この2年間は、日本でいう大学入学後の一般教育課程に相当すると考えられ、イギリスでは大学入学前に基礎的な教養課程を習得しているといえるだろう。

この仕組みの違いから、一般的に、日本からのようなイギリスのカリキュラム以外で学習してきた留学生がイギリスに大学進学を望む場合、必ずファンデーションコースを受講し大学の学部専攻課程に進む。カリキュラムの違いから生まれるギャップを埋め、学生の英語力を伸ばし、イギリスの生活や文化に慣れる時間を設けることで、イギリス大学入学に備えるためである。また、イギリスの学校の教育は知識教育ではなく、得た知識でものを考える訓練を重んじ、さまざまな答を導き出し正解に至るプロセスを通して個人の能力を養う教育をおこなうため、試験方法も記述式で授業も発言することが求められる双方向の

形式であることも大きな違いであるからである。

大学の学部における専攻の編成も日本とは違い、‘A アート’（アンドヒューマニティーズ）と‘S サイエンス’の2学部で大別される。リベラルアーツが‘A’と‘S’の「入り口」と考えられており、これらの科目を履修した後にメジャー（専攻）を決める仕組みになっている。

イギリスの大学院においては、専攻を横断して学生が学ぶ環境‘T字型’に留まらず、‘ Π パイ型（ダブルメジャー）’や‘ Δ トライアングル（トリプルメジャー）型’教育が確立されている。実際、さまざまな学部専攻から大学院に進学し共に学び、いくつもの学位を横断的に取得している学生が少なくない。また、現役や社会人と年齢層も幅広く、フルタイム、パートタイムそしてデイズタンスと学び方もさまざまである。

「創造」のためには、異分野との融合による相乗効果や分野横断的な発想が必要不可欠で複数の専門分野に精通し、かつ全体の調整もできることが必要である。多様性が増している社会に対する理解の幅と深さの両面が求められている現代、一般教養教育の基礎により「幅広い知識」を備えた「高い専門性」をもつグローバル人材の育成が実現できる整備が日本の教育環境においても必要ではないだろうか。

【トークセッション】

「高専の目指す教養」

米子工業高等専門学校教養教育科教授 川邊 博

<プロフィール>

1994年金沢大学大学院自然科学研究科修了、同年米子高専着任。

専門分野は、素粒子論。博士（理学）。

現在、教務主事補、リベラルアーツセンター員。物理・応用物理（本科）、現代物理（専攻科）を担当。

高専教育を取り巻く環境の中で、教養教育の重要性がにわかに取り上げられている。高校や大学等他の学校に対する、高専の特色をいよいよ外見からは見えにくい内面の部分に求めるようになった。高専の教養科目が、大学の教養科目に比べてより基本的であるために、最低限その立場が保たれていたのは事実であり、これまで批判的な観点で改善を求められることもなかった。高専教養教育は高校の教科や大学の教養科目とは似て非なるもので、課されるものではなく、また決してそれ自身で独立した純粋な教養であってはならない。そのあり方を再確立するこの機会を逃すと、教養教育は最大限果たせる役割と期待を永遠に放棄することになり、これを生かせない高専にとっても計り知れない損失となることを覚悟しなければならない。そして、この改革が外部から課されるものでなく、高専内部から自発的になされるものであることが大きな意味をもつのである。

教科書や学ぶ内容の共通部分が多いとはいえ、事実上大学入試のみを目的とする高校教育と、学びの継続を上位の教育機関に委ねない高専の教養教育のあり方が同じであるのは有効性の観点から問題である。高専教育において、教養科目は課程としての人間教育の最終機会であるため、それを学ぶことが学ぶ者の思考様式、人格、社会や技術への関わり方に確実に影響を及ぼすという確信をもって教える必要がある。高専入試の経験のためか学生は、放置すれば大学入試型の勉強をしてしまう。高専教員は教育者・研究者として自らの「学び方」の経験を生かし、「いかに学ぶか」という自発的発展システムをそれぞれの科目を通じて学生に伝える使命をもつ。一方では、我々が学生の立場で経験した大学教養に課題を見出すならば、それを高専に持ち込んでもいけない。

学ぶ過程を2つに大別すると、「記憶する、真似る」という近距離的な蓄積する進歩の方向と、「類推する、活用する」というやや遠距離的で飛躍する理解の方向があり、いかなる教育もこれら2つの座標軸がなす2次元面内の方向で特

徴づけられると考えてみよう。その中で、多くの成功した高専生が共通して示すであろう、創造性を発揮させる方向こそが、2つのバランスのとれた目指すべき方向である。伸びる学生は、教え方によらず、適度なバランスの方向を手探りで進むのであろうが、教える側がその方向に適った教育を実践することにより、多くの学生を伸ばす効率的な望ましいあり方を実現するに相違ない。そして、「学ぶ」方向性に関する共通認識をもつことこそが、高専カリキュラム検討の出発点であると思われる。



氷室校長による開会挨拶



齊藤名誉教授による基調講演



トークセッション（左から、川邊教授、道地教授、齊藤名誉教授、加藤副センター長）



施設見学（手前左が高増准教授）



研究会の様子（中央は熊谷センター長）

4. 活動状況

(1) 全国高専フォーラム・オーガナイズドセッション

2016年8月26日（金）に岡山大学津島キャンパスでオーガナイズドセッション「高専におけるリベラルアーツ教育について」（オーガナイザー：熊谷昌彦・リベラルアーツセンター長）を開催しました。参加者は56名（本校23名、他高専等全国から33名）でした。

【プログラム】

■挨拶 氷室 昭三・米子工業高等専門学校校長

■基調講演

齊藤 正美・米子工業高等専門学校名誉教授

「高専におけるリベラルアーツ教育—本格的研究の必要性について」

■パネルディスカッション

三谷 知世・宇部工業高等専門学校校長

角 正樹・株式会社 NTT データユニバーシティ 取締役

村澤 昌崇・広島大学高等教育研究開発センター准教授

齊藤 正美・米子工業高等専門学校名誉教授





【参加者アンケート結果】

◎参加者：56名 → アンケート回答者：34名（回収率 60.7%）
 （他、資料のみ持ち帰り：3名）

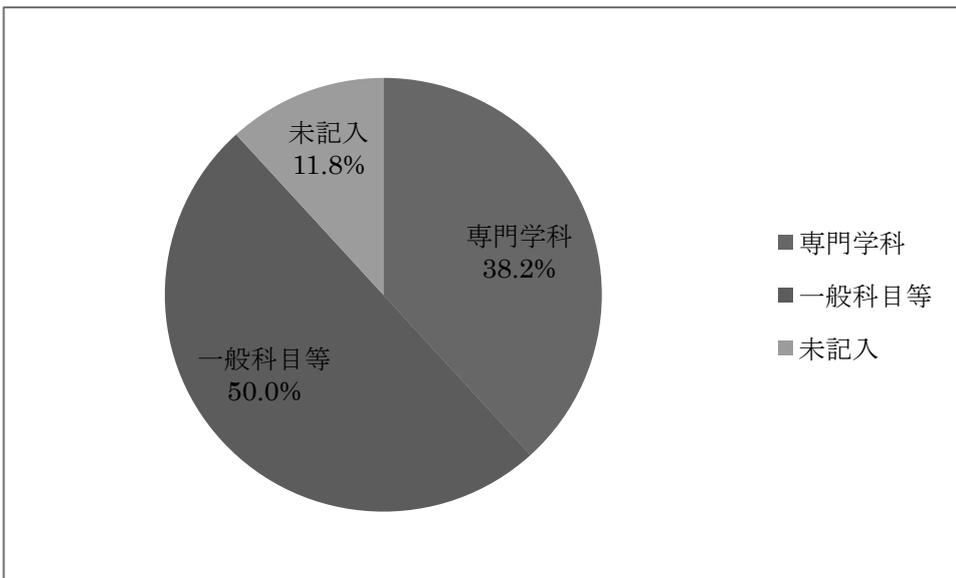
問1 回答者について

所属高専

米子高専以外	22
米子高専	12
合計	34

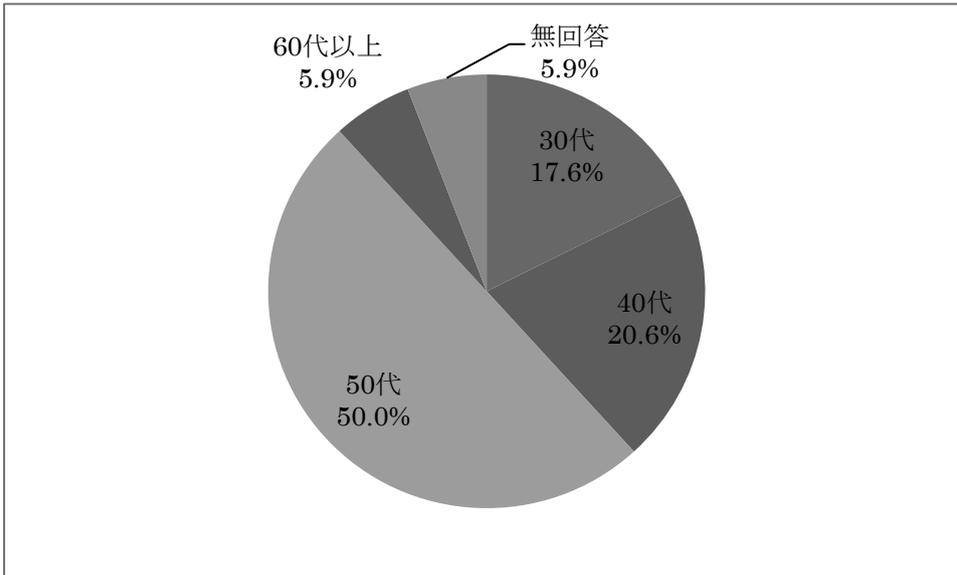
所属学科等

	合計	専門 学科	一般科目等							記入 なし
			国語	英語	数学	物理	体育	自然 科学	記入 なし	
米子高専 以外	22	7	0	1	4	3	1	1	2	3
米子高専	12	6	1	0	2	2	0	0	0	1
合計	34	13	1	1	6	5	1	1	2	4



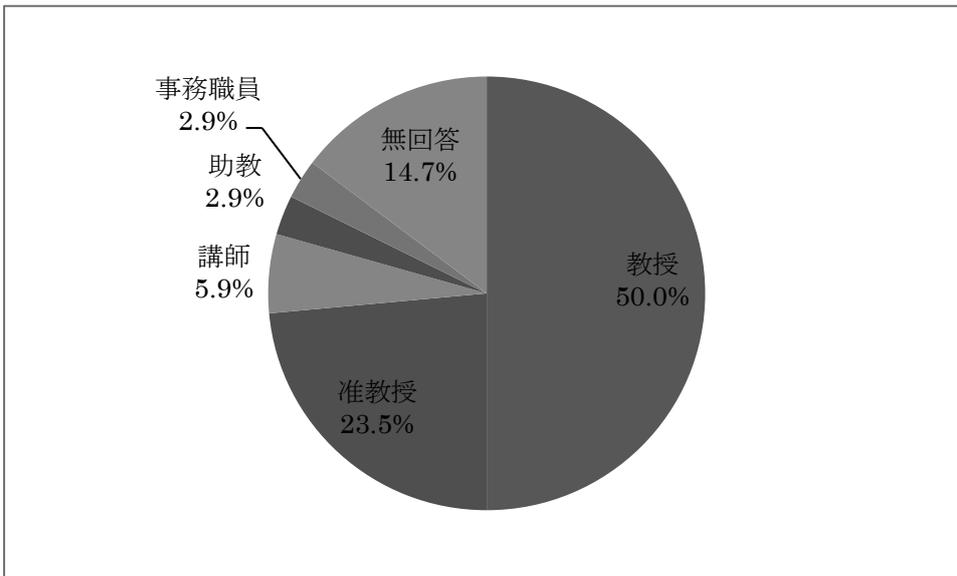
年齢

	30代	40代	50代	60代以上	無回答	合計
米子高専以外	3	4	11	2	2	22
米子高専	3	3	6	0	0	12
合計	6	7	17	2	2	34



職階

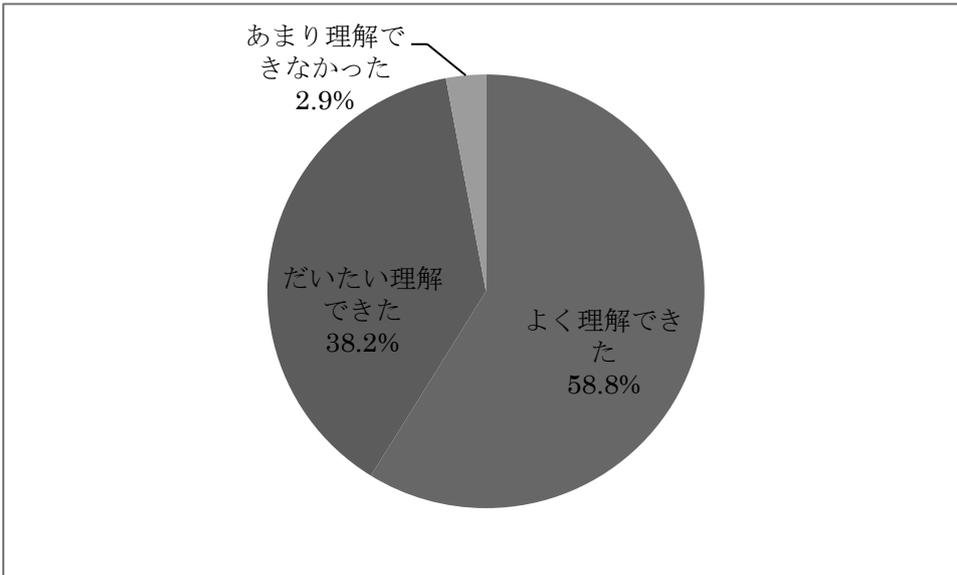
	教授	准教授	講師	助教	事務職員	無回答	合計
米子高専以外	11	6	0	0	1	4	22
米子高専	6	2	2	1	0	1	12
合計	17	8	2	1	1	5	34



問2 基調講演・各パネリストのプレゼン内容

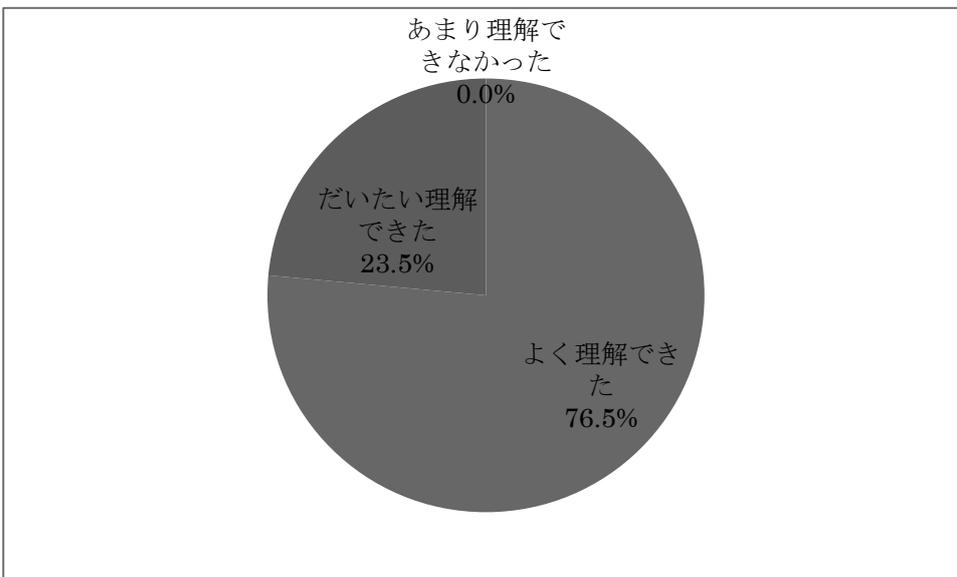
(1) 基調講演 (齊藤名誉教授)

	よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	合計
米子高専以外	12	9	1	22
米子高専	8	4	0	12
合計	20	13	1	34



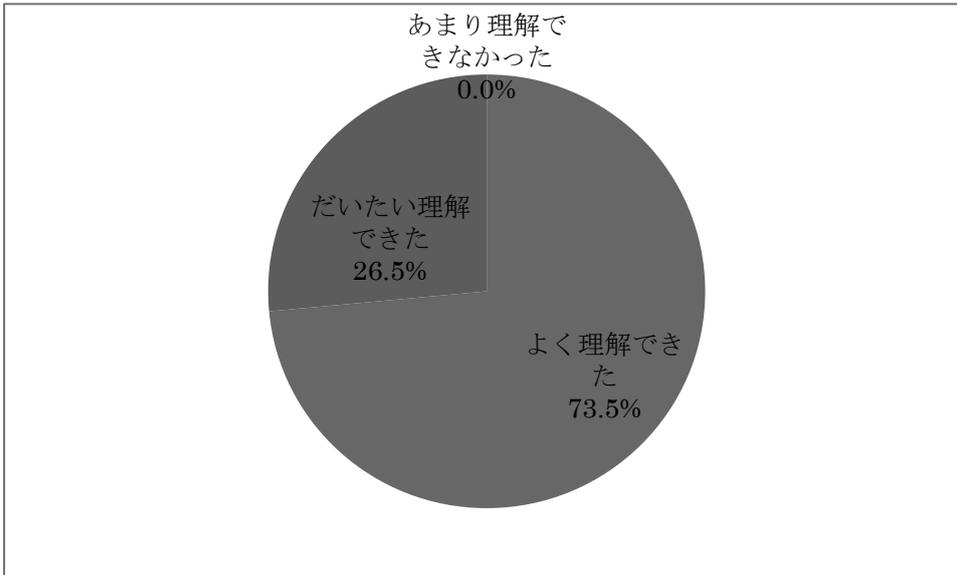
(2) 三谷・宇部高専校長

	よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	合計
米子高専以外	16	6	0	22
米子高専	10	2	0	12
合計	26	8	0	34



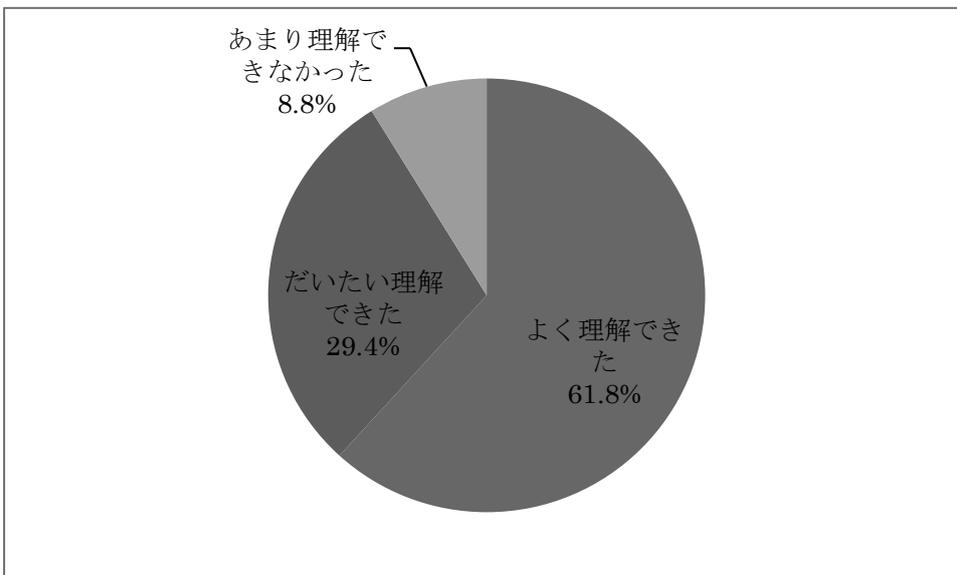
(3) 角・NTT データユニバーシティ取締役

	よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	合計
米子高専以外	16	6	0	22
米子高専	9	3	0	12
合計	25	9	0	34



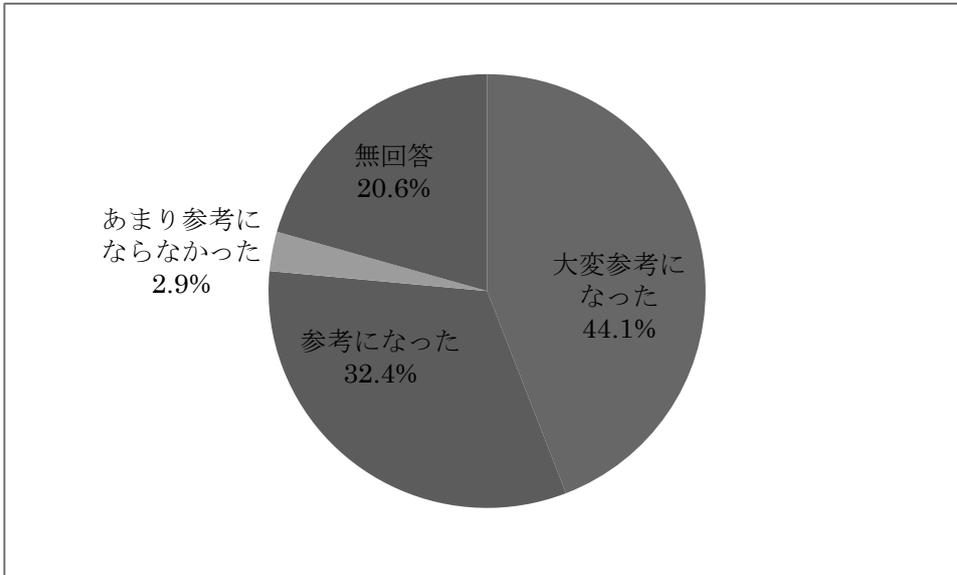
(4) 村澤・広島大学高等教育研究開発センター准教授

	よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	合計
米子高専以外	13	6	3	22
米子高専	8	4	0	12
合計	21	10	3	34



問3 セッション全体

	大変参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	無回答	合計
米子高専以外	7	8	1	6	22
米子高専	8	3	0	1	12
合計	15	11	1	7	34



問4 基調講演者・パネリスト、セッションに対する質問・意見等

- ・参加者同士のワークショップ的なものがないのはもったいない。
今の多くの学生に寄り添った話に焦点を当ててもらいたかった。教員が学生に「教え込む」「詰め込む」という時代ではない。(木更津)
- ・ディスカッションを是非実現していただければと思った。(福井)
- ・大変勉強になった。(鈴鹿)
- ・パネリスト 1 人ずつの内容が分かりやすく充実していた。それぞれの内容についてもう少し時間をかけて聴きたいと感じた。(松江)
- ・特に企業の方の話が聴けて良かった。(有明)
- ・かつての企業内教育の中にリベラルアーツに相当するものがあったのか？(有明)
- ・内容は分かりやすかったが、論旨としてどのように話を結論付けたいのか明確にしていただけと、より聴きやすかった。(熊本)
- ・特に高専以外のお二方の講演は、多様な観点から極めて有益であった。(米子)
- ・角氏の話はイメージしやすく、参考になった。(米子)
- ・時間が足りない。
具体化の手法がなかなか見えない。
目標とする人材像はどんな人なのか、問いたいところがあった。(米子)
- ・パネル討論の時間が短い。(米子)
- ・非常に興味深い話ばかりだった。特に村澤氏の話はもっと時間を取って聴きたく思った。(米子)
- ・「技術者としては優秀だが、リーダーになると壁にぶち当たり乗り越えられずに辞めていく若者をたくさん見てきた」という角氏の話がとても気になった。具体的な事例を知り、学生の段階で何かできることがないか考えたい。(米子)
- ・「教養」と言っても、視点によっていろいろな定義があり、またそれぞれに納得する点があった。(米子)

問5 高専におけるリベラルアーツ教育についてどのようにお考えですか？

- ・リベラルアーツは人類共有の財産としてシェアできると、人生が楽しくなる。学生には、

学ぶのは楽しいということを伝えたいと思う。(旭川)

- ・リベラルアーツ云々よりも、「学ぶこと」は「楽しい」ことであるというような取り組みができるかどうか。(木更津)
- ・高専の中で一般教養(特に体育や芸術など)は軽視されているように感じるが、人間力、社会人基礎力を培う上でとても大切な教育だと思っている。(富山)
- ・リベラルアーツ教育を担当する教員それぞれの研究は基礎にあるべき。地域を巻き込む必要性。工学系の視点からの「教養」の再定義と提言。15歳からのリベラルアーツ教育(受験なし)。(福井)
- ・重要であると考えている。(鈴鹿)
- ・人員、予算の制約の中での実質的な教育効果の確保。(松江)
- ・高専にとって大切な問題で、具体的な教育内容をどうするかの解を導くのが難しいと思われる。(松江)
- ・今年度、ソーシャルデザイン工学科をスタートさせた。リベラルアーツ教育の充実も改革の柱の1つだが、ソーシャルデザイン力の育成により、地域社会への貢献やグローバルに活躍できる人材育成を進めていきたいと考えている。リベラルアーツ教育を充実させることは今後の社会変化に対応していくためにも必要だと考えている。(高知)
- ・リベラルアーツ=単なる教養という考えが多いと思う。エンジニアリングデザイン、ソーシャルデザインに繋がる重要なものであることが分かった。(北九州)
- ・不十分だと思う。(熊本)
- ・一般教育の中でもっと充実すべきと思うが、授業時間や人財確保の点で課題がある。(記入なし)
- ・大学 or 専門職業大学(仮)におけるリベラルアーツ教育との差別的優位性をいかに確保するのか?(米子)
- ・成績を付けない科目が作れるなら、多様な内容を行うことができる。「職人以上」を目指すのか、高専の方向性によるので、多くのコースがあると良い。(米子)
- ・早期技術者教育の就職後の「伸びしろ」の度合いを調べる必要性。(米子)
- ・高専が、高校、大学と差別化するための最大の武器であると考えている。(米子)
- ・「何をどう教えるか」については議論も研究もされているが、その土台となる学生の学習習慣の形成・継続、また読書習慣の形成をどうしたら良いかを、高専の学生の実態を踏まえて考えることが必要だと思う。(米子)
- ・素直な心⇨リベラルアーツを育む教育。(米子)
- ・専門の土台としての教育、並びに生きることへの土台としての教育。(米子)

問6 今後、高専におけるリベラルアーツ教育に関してどのような企画を希望されますか?

- ・そもそも「学校とは何のためにあるのか」ということを扱う。学生や卒業生、保護者を巻き込んだ企画を。(木更津)
- ・是非「高専リベラルアーツ研究」の組織を立ち上げよう。(福井)
- ・勉強会。(鈴鹿)
- ・現段階では問題意識の提示であるが、様々な制約の中で実際どのような教育内容にしていくかを提起していくことについても必要となっていくと思う。(松江)
- ・教育全体に関わることになるので、これまでの概念にこだわらない教育実践例の研究会。(松江)
- ・リベラルアーツ教育の高専バージョンとは? また、その具体化。(米子)
- ・高専生を採用している中小企業の方の話、若い高専卒業生の意見が聴きたい。(米子)

- ・まず学生の実態の把握が必要だと思う。家庭学習の有無・程度、読書習慣、また、ゲームや SNS にどれだけ時間を費やしているかなど、リベラルアーツの前提となる学生の実態を把握する調査報告が、企画の 1 つとしてあっても良いのではないかと思う。(米子)
- ・具体的に何をすれば教養を育むことができるのかという企画。(米子)
- ・企業の方の意見をもう少し聴けたらと思う。(米子)

以 上

(2) リベラルアーツ講演会

【2017年度】

技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、学生を対象に、国際・経営などに関する講演会を下表のように開催しました。

回	日時	講師・演題	参加者数
第1回	2017年12月4日(月) 16時10分～17時40分	花田 昌宣・熊本学園大学水俣学研究センター長 「技術者/科学者の役割と反省：水俣病事件から学ぶこと」	学生 49名・ 教職員 15名
第2回*	2018年1月22日(月) 16時10分～17時40分	河合 康明・鳥取大学医学部長特別補佐 「宇宙医学への招待」	学生 78名・ 教職員 14名
第3回	2018年2月20日(火) 10時30分～12時00分	吉田 高文・公立鳥取環境大学経営学部教授 「経営学の基礎を学ぶ」	学生 52名・ 教職員 3名
第4回	2018年2月22日(木) 12時50分～14時20分	山下 清吾・豊田高専環境都市工学科教授 「エンジニアにとって大切なもの」	学生 60名・ 教職員 3名

*第2回は、医工連携研究センターと共催。

第1回では、「水俣病は、なお終わっていないこと」、「初期の失敗が、今日の歴史につながっていること」などについて理解を深めました。

第2回では、宇宙医学（宇宙空間における医学）とは何かについて興味深いお話を伺いました。リベラルアーツ教育の重要性や能動的学習の大切さについても示唆を受けました。

第3回では、経営は経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を管理することで、経営戦略やマーケティングも重要であることを具体的な事例を交えて講義していただきました。

第4回は、電子制御工学科4・5年の補講と連携して開催し、これからのエンジニアが備えておくべき能力についてご自身の経験も踏まえた講演でした。



(第1回)



(第2回)



(第3回)



(第4回)

【2018年度】

技術者としての視野を広げ、技術者に必要な教養を身につけ、人間性を涵養する、高専生のキャリア形成に役立つために、学生向けの講演会を、国際・経営などのテーマで下表のように開催しました。

回	日時	講師・演題	参加者数
第1回	2018年10月26日(金) 16時10分～17時40分	川野 徳幸/広島大学平和センター 長・教授 「原爆被爆（被ばく）被害とは何か—科学でわかったこと、わからないこと」	学生20名・ 教職員14名
第2回	2018年12月12日(水) 16時10分～17時40分	宮重 徹也/富山高専国際ビジネス 学科教授 「技術者と企業」	学生32名・ 教職員4名
第3回*	2019年1月23日(水) 講演会：16時10分～17 時10分 座談会：17時20分～18 時20分	白波瀬佐和子/東京大学副学長・大 学院人文社会系研究科教授 「少子高齢社会のリーダーとリベ ラルアーツ」	講演会：学生 47名・教職員 11名 座談会：学生 26名・教職員 9名
第4回	2019年2月20日(木) 8時50分～10時20分	藤原 辰史/京都大学人文科学研究 所准教授 「トラクターの世界史」	学生101名・ 教職員5名

*第3回は、男女共同参画推進室、キャリア支援室、国際交流支援室と共催、FD研修会（男女共同参画）と併催。

第1回（平和学）では、原爆被爆被害とは被爆直後から現在まで継続する身体的・精神的・社会的被害の総称で、これらの被害は相互に深く関連し合っているため、原爆被爆被害の全体像の解明には諸研究分野の学際的協力が不可欠であると述べられ、残された課題を提示されました。受講者は、「今の科学でも分からないことの方が多ということに驚いた。内容が難しかったが、難しいからこそその興味が湧いた」（3D）、「科学的に説明できる身体的被害を重視しがちだが、被災者の不安などの精神的な被害、差別などの社会的な被害も含め判断していく必要があると理解できた」（3C）、「いろいろな角度から考えることができたので、自分のためになった」（3A）、「平和について考えていく上でもっと詳しく知りたいと思った」（4C）などの感想等を持っていました。

第2回（経営学）では、技術者も多くが企業（組織）で働くことになるが、世の中には

様々な企業（組織）があり、企業（組織）における様々な経営方法（従業員の管理方法）について話されました。講師の宮重教授は広島商船高専流通情報工学科を卒業後、信州大学経済学部へ編入学され、製薬会社勤務を経て富山商船高専（現・富山高専）に着任されているユニークな経歴を持った方で、「トークが面白くて、聞いていて楽しかった」という感想が多く寄せられ、「初めて聞いた内容で、とても興味深かった。経営学も学んでみたい」（3M）、「自分自身とりあえず大企業に就ければいいと思っていたが、考え直してみようかと思った」（3D）、「自分のマインドをシフトする勇気が生まれた」（3E）。

第3回（社会学）では、少子高齢化、ジェンダー格差、「リーダーシップとリベラルアーツ」などが論じられました。受講者の感想に、「変化や少数への敏感さを身につけていきたい。想像力、発想力を鍛えて自ら発信していける人になりたい」（4M）とありました。

今回は講師を交えた座談会も企画し、3年・4年担任のご協力で女子学生を中心に26名が講演会を聴講後参加しました。4つの問いに対する事前アンケート結果の集計データや個別の意見を取り上げて意見交換を行い、「とても良かった」11名、「まあ良かった」10名という結果でした。

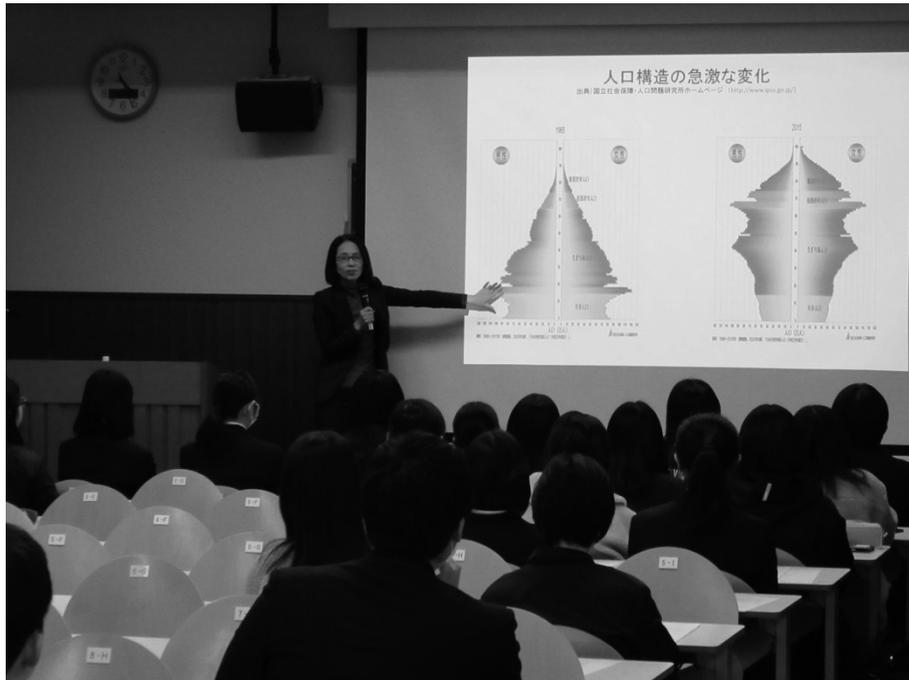
第4回（農業史）では、1年生の受講者が多く、「トラクターが人間の生活を大きく変化させていることや、戦争とトラクターの密接な関係も分かった」（1E）、「技術の発達が生の中に及ぼした影響に興味を引かれた」（1D）、「トラクターと同じように歴史に深く関わったものや機械などももっと知りたい」（1M）、「文系も理系には必要だと思った」（1A）など興味・関心を深めることができました。貴重な写真を多数提示され、また「日本での開発には地元である安来のたたら製鉄が関わっていた」（3M）ことなどを紹介され、身近に感じられたようです。演題と同名の著書を中公新書より2017年に刊行されていて、同書は図書館に配架してあります。



(第1回)



(第2回)



(第3回・講演会)



(第3回・座談会)



(第4回)

【2019 年度】

技術者に必要な教養を身につけ、豊かな人間性を涵養するとともに、技術者としての視野を広げ、キャリア形成に役立つよう、学生向けの講演会を下表のように 4 回開催しました。

回	開催日時	講師／演題	参加者数
第 1 回	2019 年 12 月 11 日 (水) 15 時 40 分～17 時 10 分	鳥取大学乾燥地研究センター教授 坪 充氏 「世界の乾燥地と食料生産」	学生 51 名 教職員 9 名
第 2 回	2020 年 1 月 23 日 (木) 15 時 40 分～17 時 10 分	島根大学法文学部准教授 浜田 幸絵氏 「メディアの変遷からみるオリンピッククーラジオ、映画、テレビ、インターネット」	学生 46 名 教職員 7 名
第 3 回*	2020 年 1 月 31 日 (金) 15 時 40 分～17 時 10 分	鳥取大学医学部副学部長・教授 岡田 太氏 「がん研究と人間力」	学生 101 名 教職員 11 名
第 4 回	2020 年 2 月 14 日 (金) 12 時 50 分～14 時 20 分	東京工業大学リベラルアーツ研究 教育院講師 多久和 理実氏 「科学者たちが残した言葉を読む」	学生 72 名 教職員 7 名

*第 3 回は、医工連携研究センター・地域共同テクノセンター並びに鳥取大学地(知)の拠点大学による地方創生推進室との共催。

今年度、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(男女共同参画推進室)による支援を受けて、講演会を 4 回にわたり開催できました。地域に根差しつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し輩出する仕組みを構築する一環として、女子学生・女性教職員も多数参加しました。約半数の学生が「自分の将来の進路の一つに研究者(大学教員等)も考えてみようと思った」と回答しています(第 2～4 回のアンケート結果)。



(第1回)



(第2回)



(第3回)



(第4回)

2017年度 第1回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、
国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。

誰でも受講できますので、当日会場に来てください。

「技術者/科学者の役割と反省 ：水俣病事件から学ぶこと」

花田 昌宣・熊本学園大学
水俣学研究センター長

日時：2017年12月4日（月）

16時10分から

会場：合同講義室



主催：米子高専リベラルアーツセンター

熊本学園大学水俣学研究センター (<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/>)

2017年度 第2回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるための講演会や講座などを開催します。

誰でも受講できますので、当日会場に来てください。

「宇宙医学への招待」

河合 康明・

鳥取大学医学部長特別補佐

日時：2018年1月22日（月）

16時10分から

会場：合同講義室

主催：米子高専リベラルアーツセンター
米子高専医工連携研究センター



「リベラルアーツ講演会」(2018年1月22日):出席カード&アンケート

「宇宙医学への招待」

河合康明・鳥取大学医学部長特別補佐

学科:M・E・D・C・A・S 学年:[]年 学籍番号:[] 名前:[]

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか?(複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

〔理由: 〕

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった
3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

〔理由: 〕

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか?

1. 大いに役立ちそう 2. だいたい役立ちそう
3. あまり役立ちそうにない 4. 全く役立ちそうにない

〔理由: 〕

Q5. あなたにとって「教養」とは何ですか?(複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. その他()

講演会終了後、提出してください。

2017年度

リベラルアーツ講演会

第3回（3・4・5年生の希望者対象）

「経営学に関する講演」

吉田 高文・

公立鳥取環境大学経営学部教授

2018年2月20日（火）[3・4限]

10時30分～12時00分

合同講義室

第4回（4・5年生の希望者対象）

「エンジニアにとって 大切なもの」

山下 清吾・

豊田高専環境都市工学科教授

2018年2月22日（木）[5・6限]

12時50分～14時20分

オープンシアター

主催：米子高専リベラルアーツセンター

「リベラルアーツ講演会」(2018年2月20日):出席カード&アンケート

「経営学の基礎を学ぶ」

吉田高文・公立鳥取環境大学経営学部教授

学科:M・E・D・C・A・S 学年:[]年 学籍番号:[] 名前:[]

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか?(複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

〔理由: 〕

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった
3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

〔理由: 〕

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか?

1. 大いに役立ちそう 2. だいたい役立ちそう
3. あまり役立ちそうにない 4. 全く役立ちそうにない

〔理由: 〕

Q5. あなたにとって「教養」とは何ですか?(複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. その他()

講演会終了後、提出してください。

2018年度 第1回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

演題：原爆被ばく被害とは何か

—科学でわかったこと、科学でわからないこと—

講師：川野 徳幸 氏

(広島大学 平和センター長)

日時：2018年10月26日（金）

16時10分から

会場：合同講義室



広島大学平和センター <https://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/>

主催：米子高専リベラルアーツセンター

「リベラルアーツ講演会」(2018年10月26日): 出席カード&アンケート

「原爆被ばく被害とは何か: 科学でわかったこと、科学でわからないこと」

川野徳幸・広島大学平和センター長・教授

学科: M・E・D・C・A・S 学年: [] 年 学籍番号: [] 名前: []

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか? (複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他 ()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

理由:)

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった 3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

理由:)

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか?

1. 役立ちそう 2. やや役立ちそう 3. あまり役立たない 4. 全く役立たない

理由:)

Q5. 本日の講演内容のようなテーマについて学習する授業があれば受講したいですか?

1. 受講したい 2. やや受講したい 3. あまり受講したくない 4. 受講したくない

Q6. あなたにとって「教養」とは何ですか? (複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. その他 ()

問1 本日の講演内容を要約してください

学科	学籍番号	内容
M		原爆調査の内容、原爆で亡くなった人の人数、そのわけ・理由、放射線による心身の被害、科学的の定義
M		原爆による身体的被害では、主な症状が3つの時期で分けられる。また、科学と同時に人々の声も歴史を解くのに重要である。
M		原爆の被害や実際の症状(1期、2期、3期、4期)について。放射線が身体にもたらす害や、精神的な被害など。それらを医学的観点などからくわしく見ていった。
M		原爆被害は精神的、社会的、科学的な被害があり、その被害の大きさを測るには総合的な視点から見ることが難しい。また放射線影響についてもわかっていないことが多い。
E		原爆によりどのような被害が出たか、原爆被害とは何か、原爆は人体にどんな影響があるか、DNAへの影響、精神面への影響等を、資料を用いながら解説していた。アンケートによる調査で、被ばく者の心状についても解説していた。
D		原爆による後障害、死因、精神的被害について。被爆による差別、自殺願望を持つ人の割合など。
D		科学的なことと非科学的なこと調査しても分からないことがまだまだたくさんある。
D		原爆被ばくとは、精神的、社会的被害。精神的被害は測れない。
D		精神面での影響やデータ不足により原爆研究はまだわからないことも多い。
D		原爆被ばくについて
C		原爆被ばく被害とは、身体的、社会的、精神的被害のことである。身体的傷害は熱傷、損傷、放射線の三者が密接に関係している。精神的被害はもともと後発的な領域、しかし継続する深刻な被害である。フラッシュバックなどがある。社会的被害としては差別などが挙げられる。今後10～20年の調査が必要である。
C		かつてのデータの焼失、不足などによって、原爆の被害を明確化することは難しい。また、被爆による被害は、身体的、精神的、社会的なものなどの総称であるため、諸研究分野の協力が必要である。特に、精神的、社会的被害は科学で証明することは難しく、被災者の声が必要である。「いのち」、「くらし」、「こころ」の被害を総合的に判断していくことが重要である。
A		原爆被害被害は、熱線や爆風や放射線による身体的な被害はもちろん、被ばく者のこころの傷もあり、今でも影響がある。
A		原爆の被ばく被害について科学でわかったこと、わからなかったことをデータから考察、解明する。被爆した方のその後の被害、病気に
A		ついて。
A		原爆被ばく被害がどんな被害であったかは、健康・精神・社会面を科学で説明するだけでは足りず、被災者の声からも解明しないといけないことがある。
A		原爆被害を解明するには、科学の力だけではなく、人々の協力、声が必要。原爆被害は短期的なものだけでなく、長期的なものもある。身も心も生活もおびやかされる。被爆者の子世代にも負担が残る。結局のところ(現在も)科学だけでは分からない。
A		原爆での被爆被害には、科学で証明できるものもあるが、心の被害、精神の被害は化学では解明出来ないため、被爆への定義の確立が必要である。
A		被害は放射線量を測るだけでは分らず、原爆を体験した方々に寄り添い、たくさんの熱傷を受けると1週間で多く亡くなった。他には被
D		即死者は圧死もしくは全身の外傷、焼死、即死は逃れても体表面積20%以上の熱傷を受けると1週間で多く亡くなった。他には被
D		爆によって様々な後遺症によって亡くなったたり、今もお苦しんでいる。
C		原爆被ばく被害は身体的被害、精神的被害、社会的被害の3つに分類される。それぞれの被害状況を科学的に判断することは非常に難しい。例えば身体的被害はどこからが原爆の影響なのかは判断し難い。科学以外の視点から分かることも多いので、被爆者の「声」を聞くことが重要である。
C		原爆の被害について。放射線照射が細胞そのもののDNAを傷害し、後障害として悪性腫瘍を誘発する。

問2 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください

学科	学籍番号	内容
M		放射線などによって身体的ダメージもあれば、心へのダメージも大きいと分かった。科学の定義を何にするか、どこまでにするかというのは非常に難しいと思った。人の脳や心について何か人の科学や考察などではどうも説明できないような気がした。
M		原爆については、小学校6年生の頃に平和学習で知っていましたが、その原爆による身体への被害がどれほどのものか、詳しく知ることができました。また、精神的にも数値化してみても、改めて多くの人が苦しんでいることが分かりました。
M		今日まで、原爆については日付ぐらいいろい分かんなかったが、今回の講演で新たに知ることがあった。特に被害に（1期～4期）あることや、染色体が誤った所で治される（転座）などが印象的だった。
M		科学的には安全だとされていても、わずかでも被害の可能性があると人々は不安を感じてしまう人もいて、その不安という精神的な苦痛を被害と見なすかは科学ではわからないことだと思う。
E		「ただちに健康に害はありません」とテレビで報道しているのを聞いて、その時の自分は、福島も思ったより放射線の被害はないのかと思っていただけで、潜伏期間があるからすぐ症状が出ないという事だったと分かって驚いた。
D		キュウリの輪切りをなぜ食べるのか。被爆地の放射線は自分もなかなか抜けないと思っていたが、すぐ取れたのだと聞いて驚いた。
D		今の科学でもわからないことが多いということに少し驚いた。もう何十年も前のことだが、すぐ身近な事に感じた。
D		原爆についてよく知らなかったけど、精神的にも深い傷を受けているんだということがわかりました。
D		原爆を理解することに対する科学的アプローチは非常に難しいことがわかりました。
D		知らなかったことをたくさん知れた。
C		小、中学校と原爆についての勉強を行ってきたが、今回の講演会では、様々なデータがあり、より高度な内容で興味深かった。これから10年、20年と実験や考察議論を続け、未だ解明されていないことが解明され、また原爆の恐ろしさ等を伝えてほしい。
C		科学的に説明できる肉体的な被害を重視しがちだが、被災者の不安などの精神的な被害、差別などの社会的な被害も含め、原爆被害を判断していく必要があると理解出来た。工業高専の学生として、物質的な被害を重視しがちである私達も、その他の被害を理解しようとする心を心がけたいと思う。
A		原爆の被害は、当時だけではなく、現在でも差別やトラウマなどの形で残っていることがわかった。放射線が染色体におよぼす影響がどんなものなのかわかった。
A		今までは、原爆が広島に落ちて大勢の方の命が奪われたという知識しかなかったけど、今回の講演を聴いて、より深いところの知識を得ることができ自分にとってプラスになったと思います。とてもわかりやすい講演で、来てよかったです。
A		原爆については、小・中学校の時に学んだつもりでしたが、知らないことがたくさんあり、科学などでもまだわかっていないこともたくさんあることを知りました。まだ証明できないこともたくさんあるし、被害はまだ続いているということを覚えておきたいです。
A		今日の講演は8割くらい理解できたが難しかった。正直、原爆というものが過去のものであるという認識があったため、改めて原爆について考える良い機会になった。
A		放射線で被爆した人から全く被爆していない人への空気、もしくは体内感染というものはあるのか。
A		原爆とは、投下された時だけでなく、それ以降も被害は増えていくということを感じた。
D		広島や長崎の原爆の話は今の自分は想像することもできないほどのがあったと思う。しかしもうこのことが起きないように世界から原爆をなくしてほしいと思った。被爆者もまったく関係のないことではないので少しでも多くを知っておきたいと思った。
C		原爆被害の正確な実態は未だ分かっていない部分が多いことに驚いた。科学では分からない部分を、被害者が伝えられるうちに明らかにし、原爆被害に関する問題を風化させないことが大切だと感じた。
C		科学的な話を聞くことができると思っていたが、精神的な被害についての話を聞くことができたので勉強になった。フラッシュバックが津波で起きるといったのが驚いた。

アンケート

Q 1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？ (複数回答可)

- 回答 1：講演内容に興味があったから
- 回答 2：教養を深めようと思ったから
- 回答 3：幅広い知識を得たいから
- 回答 4：友達に参加するから
- 回答 5：先生に勧められたから
- 回答 6：成績に加点されるから
- 回答 7：その他

学科	学籍番号	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7 (その他)
M		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			
M			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
M			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
M								知っておくべきだと思ったから
E						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
D					<input type="radio"/>			
D				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
C					<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
C		<input type="radio"/>						
A			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
A					<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
A						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
A							<input type="radio"/>	
A		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
C		<input type="radio"/>						
C		<input type="radio"/>						

6 6 1 5 4 14

アンケート

Q 2. 本日の講演内容は理解できましたか？

回答 1：よく理解できた

回答 2：だいたい理解できた

回答 3：あまり理解できなかつた

回答 4：全く理解できなかつた

学科	学籍番号	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	理由
M		<input type="radio"/>				被書の内容、その理や研究内容、その研究方法、結果の内容やその理由が示されていたり、図などがあったため。
M		<input type="radio"/>				より原爆被書について理解できた
M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			スライド、写真があったから。
M		<input type="radio"/>				
E		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			少し難しい単語が多かつたため。
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			被爆の影響など知れたが、少し難しいところが多かつた。
D				<input type="radio"/>		少し内容が難しかつたが、難しいからこそその興味がわいた。
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			P T S Dがどういふ意味かわからなかつた
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			詳しいデータはわからなかつたが図や表がありわかりやすかつた。
D		<input type="radio"/>				
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			話の大筋はとらえられたが、自分の知らない単語があつたため。
C		<input type="radio"/>				スライドに表やグラフ、図が良く使われており、補足的な説明もしつかりなされてい
A			<input type="radio"/>			から。
A			<input type="radio"/>			わかりやすかつたけど、内容が難しかつた。
A			<input type="radio"/>			わかりやすく話して下さつたから理解できた
A				<input type="radio"/>		科学的な話をあまり理解できませんでした。
A			<input type="radio"/>			思ったより難しい言葉を使われなかつた。
A			<input type="radio"/>			良く分からな単位が出て来たため、そこは分からなかつた
A			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			時間が少し短かつたために理解をしきることができなかつた。
C			<input type="radio"/>			原爆被書には具体的にどのようなものがあるか分かつた。
C			<input type="radio"/>			

5 14 2 0

アンケート

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

回答1：深まった

回答2：やや深まった

回答3：あまり深まらなかった

回答4：深まらなかった

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M		<input type="radio"/>				元からあり、知識が増えた。
M		<input type="radio"/>				日本の戦争の歴史について、深いところまで知ることができた。
M			<input type="radio"/>			新しく知ることがあったから。
M		<input type="radio"/>				
E			<input type="radio"/>			近くに原発があるので、有事の時を考えると、少し興味が出た。
D		<input type="radio"/>				今まで被爆者の写真や被爆物しか見た事なかったから、データなどで説明して頂けて興味が増えた。
D		<input type="radio"/>				Q2の理由と同じ(少し内容が難しかったが、難しいからこそその興味がわいた)
D		<input type="radio"/>				原爆に対する関心が高まった。
D		<input type="radio"/>				知識が増えた
C			<input type="radio"/>			初めて聞く被害やデータ等があったから。
C		<input type="radio"/>				原爆被爆被害は物質的なものだけで説明しきれないと知れたから。
A			<input type="radio"/>			原爆の被害について考えてみようと思った
A			<input type="radio"/>			自分で考えるより、専門的な観点からの内容でおもしろかったから
A			<input type="radio"/>			科学では分からないような、被害者の声など、被害は測り知れないと思ったから。
A			<input type="radio"/>			科学的見解が聞けて印象が変わった
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		良く分からない点が多々あった
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>			被ばくは今までは知っていたかと思っていたが新たに知ることが多かった
C		<input type="radio"/>				自分の原爆に対する知識は不足していると感じたので、平和について考えていく上でもっと詳しく知りたいと思った。
C			<input type="radio"/>			推定であって、実際の数値は分からないことがこんなにあることに驚いた。

9 11 1 0

アンケート

Q 4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか？

- 回答 1：役立ちそう
 回答 2：やや役立ちそう
 回答 3：あまり役立たない
 回答 4：全く役立たない

学科	学籍番号	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	理由
M		<input type="radio"/>				例えば、福島 の 地 産 品 に つ い て、ど う そ の 品 を 判 断 す る か。
M		<input type="radio"/>				科 学 で は 分 か ら な い 人 の こ ころ に つ い て、も っ と 学 ん で い き た い。
M			<input type="radio"/>			今 ま だ 分 か っ て い な い こ と が あ り
M		<input type="radio"/>				
E				<input type="radio"/>		被 ば く 者 を、被 ば く 者 と し て と ら え る 事 自 体 が 失 礼 に 当 たり そ う だ し、自 分 に こ の よ う な 事 が 起 こ っ て 役 に 立 つ の は 最 悪 な 状 況 だ か ら。
D		<input type="radio"/>				放 射 線 に 対 す る 間 違 っ た 認 識 を し な い よ う に な る と 思 う。
D		<input type="radio"/>				原 爆 被 ば く の こ と は 忘 れ て は い け ない 事 だ と 思 う か ら で す。
D		<input type="radio"/>				
D			<input type="radio"/>			役 に 立 つ か は わ か ら な い が 話 を 聞 く こ と が で き て よ か っ た。
D		<input type="radio"/>				危 険 さ を 知 っ た か ら
C				<input type="radio"/>		自 分 は 放 射 線 に 関 係 す る 職 な ど に 就 く つ も り が な い か ら。
C		<input type="radio"/>				日 本 の 学 生 と し て、原 爆 被 爆 被 害 を 考 え る こ と は 重 要 で あ る と 思 う か ら。
A			<input type="radio"/>			教 養 が 深 ま っ た か ら
A			<input type="radio"/>			日 本 の 大 切 な 歴 史 の 1 つ の 原 爆 の こ と を 知 っ て お い て 役 立 た な い こ と は な い と 思 う。
A		<input type="radio"/>				い ろ い ろ な 角 度 か ら 考 え る こ と が で き た の で、自 分 の た め に な っ た と 思 い ま す。
A				<input type="radio"/>		教 養 ・ 知 識 に は な る と 思 う が、役 に 立 つ、使 え る か と い う と そ う は 言 え な い よ う に 思 う。
A			<input type="radio"/>			放 射 線 の 被 害 と い う の は 永 遠 で は な い こ と が わ か っ た か ら。
A				<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>			被 ば く は 原 爆 が 近 く に あ る た め も し 原 爆 に 何 か あ っ た と き に は 役 に 立 ち そ う だ か ら。
C			<input type="radio"/>			核 兵 器 に 関 す る 問 題 な ど を 考 え て い く と 役 立 つ と 思 う。
C		<input type="radio"/>				知 ら な い 情 報 や 考 え 方 を 知 る こ と が で き た。

10 7 4 0

アンケート

Q5. 本日の講演内容のようなテーマについて学習する授業があれば受講したいですか？

- 回答1：受講したい
- 回答2：やや受講したい
- 回答3：あまり受講したくない
- 回答4：受講したくない

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4
M			○		
M			○		
M		○			
M		○			
E			○		
D		○			
D			○		
D			○		
D			○		
D				○	
C				○	
C		○			
A			○		
A			○		
A		○			
A				○	
A			○		
A				○	
D			○		
C		○			
C		○			

6 11 4 0

アンケート

Q 6. あなたにとって「教養」とは何ですか？（複数回答可）

- 回答 1：豊かなころ
- 回答 2：幅広い知識
- 回答 3：文化・芸術への理解
- 回答 4：知的好奇心
- 回答 5：社会常識
- 回答 6：他人に対するマナー
- 回答 7：物事を批判的にとらえる能力
- 回答 8：問題解決能力
- 回答 9：その他

学科	学籍番号	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	回答 8	回答 9（その他）
M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				
M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
E		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
D		<input type="radio"/>								
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
D		<input type="radio"/>								
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>								
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
A		<input type="radio"/>								
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					

6 16 4 6 13 6 2 2

2018年度 第2回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

演題：「技術者と企業

－ 企業(組織)における様々な経営方法」

講師：宮重 徹也 氏

(富山高等専門学校国際ビジネス学科 教授)

日時：2018年12月12日(水)

16時10分から

会場：アガミックスター(図書館2階)



主催：米子高専リベラルアーツセンター

「リベラルアーツ講演会」(2018年12月12日):出席カード&アンケート

「技術者と企業」

宮重徹也・富山高等専門学校国際ビジネス学科教授

学科:M・E・D・C・A・S 学年:[]年 学籍番号:[] 名前:[]

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか?(複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

理由:)

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった 3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

理由:)

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか?

1. 役立ちそう 2. やや役立ちそう 3. あまり役立たない 4. 全く役立たない

理由:)

Q5. 本日の講演内容のようなテーマについて学習する授業があれば受講したいですか?

1. 受講したい 2. やや受講したい 3. あまり受講したくない 4. 受講したくない

Q6. あなたにとって「教養」とは何ですか?(複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. 地域の理解 10. その他()

講演会終了後、提出してください。

問1 本日の講演内容を要約してください

学科	学籍番号	内容
M		好きな仕事と、給料の良い仕事必ずしも比例するわけではなく、どちらかという反比例しやすい。リーダーになるタイプの人間とならないタイプの人間もお金で動く人間もいれば、自分の好きな仕事をしたい人間もいる。まずは自分は何のタイプか見分ける。
M		経営学の主要3分野は経営管理論、経営組織論、経営戦略論とある。企業によって組織は異なり、システムも十人十色。
E		先生の身の回りの方々や、実際に行った企業の話や、面白く説明して、色々な組織の体勢や、考え方について解説していた。
E		両極端の事例を示し、自分に合った道を探してみる。自由なこと推し。
E		自分にとって、居心地の良い会社に入るべき。
D		宮重先生の体験や知人、友人の体験談をもとに自分にあった将来を自分で選んだほうがいい。学問的な視点を用いて企業、組織経営を説明している。また機械的組織と有機的組織の比較をわかりやすく紹介。
D		普段考えたことのない経営学の観点から見た社会。技術者と企業について。
D		企業、人、経済学と経営学について、またその学問の発生した理由、企業の多様性。
D		選択に絶対の正解はない。人間に普遍性や再現性はない。自分が欲しいものが得られる企業に行くべき。大企業とベンチャー企業とで得意なことが異なる。
D		経営学は、社会現象が発生した事によって生まれた。経営学の主要3分野は、管理、組織、戦略。企業は機械的企業、有機的企業の2つある。
D		宮重さんの周りにはユニークな人が多い。企業も人間も多様、自分に合った仕事をするといい。
D		世の中の選択に正解はない。自分がおもしろくないと思えばやめてもいい。
D		正解は一つじゃない。ストレスでハゲる。
D		企業の経営学について。先生の経験などについて。
D		お金の価値は人それぞれ。チャレンジすることは大事。極端に2パターンあり、だいたい中間ぐらいだが、勤づく。
D		人の生き方は多様でその生き方が正解か不正解かは分からないように企業にも様々な業界がある。自分の性格と企業の性格が合うようにする。(人に従いたくないなら企業を起こしてみるなど)
D		人には人の生き方がある。自分自身の正解を見つけること。人間には普遍性も再現性もない。
C		人にも企業にも性格があり、十人十色である。企業の組織感として、企業を無機質なものと捉えるものと生命体として捉えるものがあり、環境によって利権価値観が定まる傾向がある。また、企業倫理にはコンプライアンス型と価値共有型のアプローチがあり、それぞれ利権が異なっている。
A		報酬や方針が自分に合った企業に就職することが大切。機械的組織と有機的組織は社会環境によって向き不向きがある。世の中には、たくさんのシステムがある。
A		固定概念にとらわれないこと。自分の生きたい様に生きるべきである。何を「大事」にするか。「前提」にするか。出来る事は自分です。出来ない事は出来る人達にやってもらう。(変に無理して会社に不利を出さない様にする)
A		1人1人に違う考え方があり自分が選んだ道が正解。自分にあう選択をすることが大切。幅広い教養を身につけることで色々な状況で対処することができる。会社も自分にあうものを選ぶ。企業は機械観と生命体観との2つあり人によって見方がちがう。自分で考え行動する。
A		自分のやりたいように生きるべき。企業と人にも相性がある。組織感は2つあり、どちらも正しい。安定-戦略経営モデル、不安定-エクセレント・カンパニー。ベンチャー→研究、大企業→開発。できる会社ができることをする。
C		社会科学について。経営学の主要3部門とテーマ。戦略経営モデル。「エクセレント/ビジョナリーカンパニー」について。コンプライアンス型と価値共有型の比較
D		自分が行動を起こすには必ず何かの目的があり、その方法は人それぞれ。逆もあって、人を働かせようと思ったらその人が納得のいく方法、条件が必要。専門的なことは対応する所に任せた方がよい。
D		大企業に視点を置くだけでなく、別の視点に目を向くことが大事
C		自分に合う企業かを見きわめるために、企業研究をすることは大切。成功している会社の共通点。自分が納得する選択をする。
A		経済のシステムについて、組織の体制などについての説明、自分が後悔しないような生き方を選ぶこと、納得のいく仕事をしていくことの重要性等。
A		自分の性格、特技などをしっかりと理解して、それに合った職を見つけることが大事。
A		両極端なケースがあるがどちらが正しいというわけではなく自分が良いというものがあるということ。
A		社会や組織においてのそれぞれの考え方。正しいシステムはなく、両極端な考え方がある。自分にとって自分がいいと思えることをするべき。
A		人も企業も十人十色で、自分に合った企業、働き方を見つけることが大切である。結局最後は自分の価値観が大切。
A		世の中、正解のシステムや、企業はない。自分に合ったものを考え、見つけてほしい。

問2 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください

学科	学籍番号	内容
M		ロシュの研究開発戦略の転換についてで、1から1000、100000を作るのは大企業、0から1をつくるのは、ベンチャー企業にすることで、作業を効率化する。このことは、今の大企業の主流なのだと思います。
M		トーク力が高い方で、とても聞きやすかったです。高専卒業後は大学編入を考えておりますが、ぜひ経営学も学んでみたいと思いました。
E		トークが面白くて、聴いていて楽しかった。色々な考え方がある事がわかって、これからの進路の考え方について、すごく影響をうけて、講演会に行ってよかったと思った。
E		話し方が面白かった。
E		自分のマインドをシフトする勇気が生まれた。人に迷惑をかけない範囲で自由に行きたいと思った。
D		実例や表などを用いていただいたのでおもしろくわかりやすかったです。今回は有機物的組織の利点について話されていたのですが、機械的組織の利点はこういった物があるのか気がなっています。
D		知らない経営の世界を知れて良かった。楽しく社会科学について学ぶことができた。
D		企業は多様で向き、不向きがあり、その企業が自分に合う合わない、などもあるのだと知れた。自分自身とりあえず大企業に就職したいと思っていたが、考え直してみようかと思った。
D		宮重先生はすごい面白い人だなと思いました。自分も楽しい人生を送りたいです。
D		これからの進路を決定するのにとても参考になる講演でした。会社に入ると、つらい状態になることも多いと思いますが、自分をマネージメントをして、楽しく生活できるようにしたいです。
D		経験や身近な人の話をまじえたおもしろいお話でした。僕も自分の望むものを見つけ好きに生きていきたいと思った。
D		とても共感できた。自分の好きなように生きていこうと思えた。
D		苦手なタイプの人だった。つかれた。大変だった。
D		自分の知らなかったこと、思わなかったこと、想像もしなかったことを聞いてよかった。おもしろかった
D		人によって、お金や物の価値は全然変わってくるので、価値観にしばられずに、自分にあった行動をしていきたいと思った。
D		いろいろな企業があって、事前に自分の興味があるかどうかなどはあくすることも必要だが、最初からその企業が自分にとって正解かどうかは分からないので、選んだ道をどう正解にするかも大事だと思う。
D		講師の方の行ってきたことがおもしろかった。
C		企業には性格があり、組織感、価値観、戦略全て異なり、自分にあった企業選びが重要なのだと感じた。また、医薬品会社の経営戦略の例も示して頂き、少し、自分でも調べてみたいと感じた。
A		自分に合った企業に就職したいと思った。組織にはいろんな形態があってそれぞれに特徴があることがわかった。わかりやすい説明で、よく理解できた。
A		「企業とは何か?」「自分とは何か?」「何がしたいか?」を考え、知ることが出来たとても素晴らしい講演でした。奥が深い講話で、これから生きていく中で、大切にしたいなと思いました。
A		自分も命令されることのない自分で考え行動できるような会社に入りたいと思いました。挑戦することを求められる会社は楽しそうだなと思いました。お金も大事だと思うけど自分のやりたい仕事や意味のある仕事ができる会社、企業で働きたいと思いました。
A		最初はあまり興味がなかったが、自分の将来と関わるものが多くあり、大変興味深かった。知らなかったことも多くあり、就職にうまく使えていけばいいなと思った。
C		米子高専にも、このようなビジネスに関係する授業を取り入れるべきだと思った。納得できるものが多数あったときに、自分がいいと思えるものは何だろうと感じた。単純に比較するだけでは納得できないなと思った。
D		確かに就活の時に、自分がどんなことをしたいか等、目的を持って企業を選びました。経済的な流れとかを数式にしているのは面白いと思った。
D		経営工学を大学で学ぶんですけど、これからの経営工学の分野で新しい事業や活躍できる事業は教授の見解はどうですか?
C		どこの企業に就職されたか気になります。
A		資料が分かりやすく、講演自体もひきこまれるような話し方で楽しかった。組織や経営、仕事に対する意識が学べて、来年から社会の一員となる上でとてもためになったと思った。
A		経営学を分かりやすく教えて頂き、良い講演でした。
A		社会人になる前に話が聞いて良かったです。
A		今日の講演で大事なことはまわりがこう言っているからとかではなく、自分のやりたいことを探す、自分の目標を達成することだなと思いました。講演の後半は少し難しい内容でしたが、前半の内容で、宮重さんが、自分は新しいことをやるのが好きだと言われていて、好きなことをつらぬくことができていると凄いなと思いました。
A		内定をいただいている企業がエクセレント・カンパニーの共通点に多く当てはまるので来年の春が少し楽しみになりました。
A		とても面白いお話しでした。ありがとうございました。

アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？（複数回答可）

- 回答1：講演内容に興味があったから
- 回答2：教養を深めようと思ったから
- 回答3：幅広い知識を得たいから
- 回答4：友達に参加するから
- 回答5：先生に勧められたから
- 回答6：成績に加点されるから
- 回答7：その他

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7（その他）
M		<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
M				<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
E			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
E					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
E				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
D			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
A							<input type="radio"/>	
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
A							<input type="radio"/>	
A							<input type="radio"/>	
C		<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D			<input type="radio"/>					
C					<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
A					<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
A							<input type="radio"/>	
A					<input type="radio"/>			
A								無回答
A				<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
A							<input type="radio"/>	

10 7 7 6 4 28

アンケート

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか？

回答1：よく理解できた

回答2：だいたい理解できた

回答3：あまり理解できなかった

回答4：全く理解できなかった

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			○			聞き取りやすく、分かりやすかった
M			○			内容が少々難しかったですが、とても分かりやすく話して下さいました。
E			○			面白く例を解説していたので、難しい話もなんとなく理解できた。
E			○			
E			○			
D			○			何点か説明をはぶいてある所があった。
D			○			新たな知識を取り入れ楽しめたから
D			○			スライドに図・表が多かったから
D			○			話が分かりやすく頭に入ってきやすかった。
D				○		少し難しかったが、また、機会があれば聴きたいと思う
D			○			計量分析の話が少しむずかしかった
D			○			そんな気がした。
D				○		意味の分からない単語があった
D			○			
D			○			最後が難しかった
D			○			講師の方の話が面白かった。
D		○				講演の仕方がよかったから
C			○			講師の方の講演が分かりやすかったから
A			○			具体的な例をあげて説明されたから
A		○				凄く面白い話し方でお話しされていたので、ずっと頭に入ってきたから。
A			○			話し方にとてもひきつけられてよく聞くことができたから
A			○			たとえ話しが多く、聞きやすかった。
C		○				分かりやすい具体例を多く出していたので、よく理解することができた
D			○			例えが多くわかりやすかった
D			○			
C		○				とてもユニークでした。
A			○			資料がわかりやすかった。
A		○				聞き取りやすく、資料も見やすかったから
A		○				
A			○			前半の内容はとても分かりやすかったですが、後半の組織の門題は少し難しかったです。
A		○				
A			○			

7 23 2 0

アンケート

Q 3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

- 回答1：深まった
- 回答2：やや深まった
- 回答3：あまり深まらなかった
- 回答4：深まらなかった

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			<input type="radio"/>			結果を重視しているか、過程を重視するか、自分は結果を重視する人間に近いので、分かりやすかった
M		<input type="radio"/>				初めて聞いた内容だったので、とても興味深かったです。
E			<input type="radio"/>			
E			<input type="radio"/>			
E		<input type="radio"/>				
D		<input type="radio"/>				
D		<input type="radio"/>				社会についてもっと知りたいと思えた
D		<input type="radio"/>				そろそろ就職について考える必要があると思っていたから
D		<input type="radio"/>				経営も面白い分野だと思った。
D			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			
D		<input type="radio"/>				起業もおもしろそう。
D				<input type="radio"/>		面白いと思わなかったから
D			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			自分も自身に合った場所で仕事をしたいから
D			<input type="radio"/>			自分のことにあてはまるが多かったから
C			<input type="radio"/>			企業について調べてみたいと感じたから
A		<input type="radio"/>				企業のたくさんのシステムがよくわかった
A		<input type="radio"/>				経済の仕方、人間の心理、概念を客観的に見ることができたから。
A			<input type="radio"/>			自分では考えないような考え方を聞いて面白かったから
A			<input type="radio"/>			聞きやすかったから。面白かったから。
C			<input type="radio"/>			
D				<input type="radio"/>		経済学は自分に向いていないと思った。
D			<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>				興味を持てた。
A			<input type="radio"/>			講演内容が興味深かった。
A		<input type="radio"/>				経営学は初めてだったから
A		<input type="radio"/>				
A		<input type="radio"/>				世の中には様々な考え方があることが分かり、ほかにも知識として知りたいなと思います。
A			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			

13 17 1 1

アンケート

Q 4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか？

- 回答1：役立ちそう
- 回答2：やや役立ちそう
- 回答3：あまり役立たない
- 回答4：全く役立たない

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			○			究極の損得主義だと思った。利があるからする、ないならしないというのは、楽しいことだと思った。
M		○				今後就職する上で、企業について他の面から見ようと思った。
E		○				進路の考えに役立ちそうだった。
E			○			
E		○				
D			○			
D		○				新しい知識で人生がもっと楽しくなりそう
D		○				職業を決める時、参考になりそうだから
D		○				将来の参考になったから。
D		○				
D			○			
D		○				決意が固まった。
D				○		活用しようと思わなかった。
D		○				
D		○				価値観にしばられないようにしようと思った。
D			○			自分もそろそろどこに就職したいかを考えないといけないから
D			○			これから先のことに必要だと思ったから
C		○				企業選択の参考になったから
A		○				就職する時役に立ちそう
A		○				固定的な概念にとらわれずに生きることの大切さを知れたから。
A		○				社会についての知識は役立つと思う。
A		○				就職する時に役に立ちそう。
C			○			これからの進路選択に役立ちそうだった。
D			○			就職するのでその後に。
D			○			
C		○				来年からがんばります！
A			○			就職するので、自分の身に置き換えて聞けた。
A		○				仕事で悩んだときに参考になりそうだから
A		○				
A		○				自分のやりたいことをしっかり考えることが1番大事だと思いました。
A		○				
A		○				

21 10 0 1

アンケート

Q 5. 本日の講演内容のようなテーマについて学習する授業があれば受講したいですか？

回答1：受講したい

回答2：やや受講したい

回答3：あまり受講したくない

回答4：受講したくない

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4
M			○		
M		○			
E		○			
E			○		
E		○			
D		○			
D		○			
D		○			
D			○		
D			○		
D		○			
D			○		
D					○
D		○			
D			○		
D					
D				○	
C			○		
A			○		
A		○			
A			○		
A			○		
C			○		
D			○		
D			○		
C		○			
A			○		
A			○		
A		○			
A			○		
A		○			
A			○		

宮重先生がやってくれるなら

無回答

12

17

1

1

アンケート

Q6. あなたにとって「教養」とは何ですか？（複数回答可）

- 回答1：豊かなこころ
- 回答2：幅広い知識
- 回答3：文化・芸術への理解
- 回答4：知的好奇心
- 回答5：社会常識
- 回答6：他人に対するマナー
- 回答7：物事を批判的にとらえる能力
- 回答8：問題解決能力
- 回答9：地域の理解
- 回答10：その他

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7	回答8	回答9	回答10（その他）
M			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>								
E		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				
E		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
E		<input type="radio"/>									
D			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
D			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>					
D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>							
D						<input type="radio"/>					
D			<input type="radio"/>						<input type="radio"/>		
D											話せば長くなる
D			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
D			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
D			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>					
D		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>						
D		<input type="radio"/>									
C			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
A				<input type="radio"/>							
C					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
D					<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
C						<input type="radio"/>					
A			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
A									<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>								
A						<input type="radio"/>					
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
		11	18	11	11	13	7	2	9	3	

2018年度 第3回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

**演題：「少子高齢社会における女性
リーダーとリベラルアーツ」**

講師：白波瀬 佐和子 氏
(東京大学大学院人文社会系研究科 教授)

日時：2019年1月23日(水)
16時10分～17時10分

(引き続き17時20分～白波瀬教授との座談会を開催します)

会場：合同講義室

主催：米子高専リベラルアーツセンター

共催：男女共同参画室、キャリア支援室、国際交流支援室

「リベラルアーツ講演会」(2019年1月23日): 出席カード&アンケート

「少子高齢社会におけるリーダーとリベラルアーツ」
白波瀬佐和子・東京大学人文社会系研究科教授

学科:M・E・D・C・A・S 学年:[]年 学籍番号:[] 名前:[]

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか?(複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

理由:)

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった 3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

理由:)

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか?

1. 役立ちそう 2. やや役立ちそう 3. あまり役立たない 4. 全く役立たない

理由:)

Q5. 本日の講演内容のようなテーマについて学習する授業があれば受講したいですか?

1. 受講したい 2. やや受講したい 3. あまり受講したくない 4. 受講したくない

Q6. あなたにとって「教養」とは何ですか?(複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. 地域の理解 10. その他()

講演会終了後、提出してください。

問1 本日の講演内容を要約してください

学科	学籍番号	内容
M		少子高齢化になる問題と、少子高齢社会を終わらせるための案について。男女間の進学率、昇進率などの格差について
E		少数派を知るためには多方面の知識が必要
D		少子高齢化社会、また男と女の様々な差について。進学、職業などでの差
D		ジェンダーギャップ。日本のリーダーに見える格差(働き方の違い)
D		少子高齢化による人口の減少、そして、その減少の中での働き方と女性の仕事をするときの立ち位置(管理職の格差)
D		少子化問題、男女での賃金の差の問題
D		少子高齢化、出生力の低下、ジェンダーギャップの改善。ジェンダーによる働き方の多様化、原因は様々 個人の意思の尊重 個人の多様化 意志の多様化
D		少子高齢化について、少数派への感受性
D		少子高齢化に関すること、リベラルアーツについて
D		男女とは？そのうち女性が異性に並みに働いたら平均寿命下がるか？出生率は低下し続けている。出生率と経済は関連する？しない？女性の管理職の伸びが増えている
D		"女性"という存在のあり方について
C		少子高齢化社会について、人口の移り変わり、ジェンダーによって働き方が大きく異なり、性別で役割が分業され、女性の継続就労を促すことが難しい。女性に管理職が少ない理由。固定的なジェンダー規範について。
C		少子高齢化は今後も進み、さらに女性が長生きするだろう。しかし、予測ではなく現代の投影であるが、今変わると変えられる。出生率の考えから、人口規模は縮小化することが予想される。
C		少子高齢化社会についての話が半分を占めていた。男女間の賃金の違いについても話していた。昇進機会の違いについて、家庭内の仕事について。
C		少子高齢化について。ジェンダーによって働き方が大きく異なり、女性の高学歴化が進行しても、労働市場における男女格差を縮小できなかった。自由で斬新な発想は同質的集団からは生まれにくい
C		少子高齢化について。女性が働くときの格差や違いについて。リーダーには変化への感受性など必要である。リベラルアーツが大切。
C		日本においても、出生率の低下は問題であり、これを解決するためには、ジェンダーギャップを解決する必要がある。日本において働き方はジェンダーによって大きく異なり、それによって男女格差が生じている。斬新な発想や技術革新には、多様な構成員による集団であることが重要であり、そのために、男女格差の是正が重要である。
C		少子高齢化が進んでいる中で、自分たちや世の中はどのように成長していけば良いか
C		大学進学率や理系の大学卒業数、賃金にジェンダーギャップが生じていることについて。また少子高齢化が進んでいる中で、女性が長寿化していることについて。
C		少子高齢化が進んでいる今の時代でも、女性の社会進出や男女での違いがまだ残っている。そのための政策が必要だということ。女性にも機会があれば活躍できるし、男性優位の時代を変えていくことが必要なこと。教養が大切なこと。
A		例として、少子化を解決するには「子供手当をすればいい」「生めばいい」等、安易な考えをしてはいけない。「もっと客観的に考え、自分の専門だけでなく、どれだけ多様に考え、その他のことに敏感になれるか」が重要。
A		原因と結果は決めにくい。何が正しいか正しくないかは分からない。
A		女性の社会進出の話やリーダーとは何か、少子高齢化のこれからの話と対策への問題について
A		社会問題は、全て相対的に起きていて、原因、結果がはっきりわからないもの。その中で、少子高齢化、様々な格差の問題を中心に、見ても、将来的解決に向けての政策なども一つの側面からのアプローチでは意味がない
A		男・女と人間を2種類に分けるのは、あまりに乱暴なことだということ。
A		女性は社会でリーダーになりにくいけど最近と同じくらいレベルの人だったら女性をとりがち。多様性を求めているから。
A		少子高齢化問題が社会全体で深刻な問題だということ。性別によって賃金の差など、違いがあることはこれからの日本にとってもいかなるものかということ。
M		少子高齢化、人口構造の急激な変化、出生率は継続的低下、日本の女性管理職は極めて低い、ジェンダーによって大きく異なる働き方
M		女性管理職が少ないと自由で斬新な発想は生まれにくい。多様性が必要。想像力の幅を広げたり想像力を鍛えるためにリベラルアーツが必要
M		女性は自由で斬新な発想は同質的集団からは生まれにくい、キャリアを続けるのは少子と比例な関係があるなどの理由で社会的な管理者になるのは少ない。また、実利が即時的に見えないからこそ、想像力等が求められるため、リベラルアーツを得る必要がある
E		ジェンダーギャップについて、多様性の問題
E		少子高齢化、ジェンダー間の格差について
E		少子高齢化について、ジェンダーや格差について
C		想像力を鍛え、想像力の幅を広げるためには教養が必要である。
A		教養とは何か。少子高齢化と女性の働き方。
A		女性が羽ばたけないこの世の中について
A		日本の男女間の働き方による格差を国際社会と比較しながら、その格差が影響を与える社会問題(女性の社会進出、少子高齢化等)を見つめ直す。
A		女性のリーダー、可能性について
A		働く女性。職業について。ジェンダーギャップ。男性と女性の賃金の違い。学歴について。
C		少子高齢化とは何か。また、少子高齢化の背景にあるジェンダー格差とは何か。
C		男女の格差は、現代もあり、少子高齢化も進んでいるが、少数派である"私たち"(若年層)の想像力や、社会の変化に対する感受性が大切になってくる。KYよりもKK(空気をこわす)ことが大切である時代、女性にも発言権はある。
A		①長い前置き → ②グラフを用いて少子高齢化について説明 →③女性管理職が少ない →④リベラルアーツと目的 →⑤何のために勉強するの？何のための教養？ →⑥求められるリーダーとは？
A		①人口構造の急激な変化(人口ピラミッド) →②50年後の私たち(女性が長寿) →③人口規模の縮小と高齢化の進展(出生率が継続的に低下) →④出生率が低いわけ(未婚・晩婚化と結婚しても子供を生まない、もしくは生む人数が少ない) →⑤男性と女性を比べたグラフ →⑥ジェンダーによって大きく異なる働き方 →⑦違うことが悪いことではない →⑧想像力を広げていくためにリベラルアーツが必要 →⑨想像力大事 →⑩人々が支えあうため教養
A		少子高齢化と日本のこれから。日本のあるべき姿
A		少子高齢化社会である日本の現状、とそれに対する意見。求められるリーダーは少数派への感受性
A		社会は多様。今を変えると未来が変わる。時差はあれど必ず変えることができる。
A		少子高齢化社会について リベラルアーツ 社会経験を積み、教養を深めること

問2 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください

学科	学籍番号	内容
M		最後の方の斬新な発想は多様な人から生まれることについて、多様過ぎると意見がまとまらないことがあったりするので、一長一短ではないかなと思いました。
E		
D		進学については女性の方も多くなるようになったのだなぁと思ったが、職場においては、"女性"ということで評価されにくいことがあるのはおかしし、悲しいことだと思った。
D		日本全体の考え方が変わらなければ、何も変わらない。格差があることは当たり前ではない。
D		少子高齢化でさまざまな影響がある中で、女性の働き方の問題など初めて聞く内容でとても新鮮な話だった。
D		人間の発想の自由度をつぶしているのは社会なんだと知った。
D		話の筋が見えなかった。結局何だったのか分からない。結論が分からない。少数をひききしても何にもならない。矛盾する2つのことを同時にはできないから多数派を取ることになる。
D		
D		自分が考えなかったことを聞いてよかった。
D		男女の壁は難しいと思った。バランス調節がとってても下手だと思った。
D		"女性"について多面から話をされていて、聞きごたえはあった。だけど、(時間が短かったからかもしれない)主な主張したいところが分からなかった。
C		少子高齢化社会については以前から問題視されていてLGBTが増えると少子化も増えるのかなとそのようなことは考えてはならないと思うが、考えてしまいました。東大の先生に話を直に聞くことができよかったです。
C		きれいごとだと思った。「女性」という言葉をなぜ演題から消したのか。男女間の偏見は無くていい。平等は無理だと思う。違うものだから、分けなくてはならないと思う。
C		話し方が非常に良く、眠くなるどころかもっと話を聞きたいと思うような話だった。月5000円もらって子供なんか産まないでしょ、という言葉に共感をした。
C		少子高齢化において、今を変えれば将来も変わって行くというのが印象的であったなと思った。たくさんの人との関わりをもって自分の中のカテゴリーを増やしていけたらいいなと思った。
C		話の内容が多すぎて難しくあまり理解できなかった。今後の社会の中で女性が少しでも活躍できるように自分もいろんなことを考えながら生活したいと思った。
C		社会集団において、多様性はとても重要であり、そのために、男女格差は是正されるべきものだと感じた。リベラルアーツを獲得することは、社会的想像力をたくましくすることにつながり、平等な社会の実現にリベラルアーツは重要なのだと感じた。
C		少子高齢化などの問題に対して前よりも興味をもつことができ、これから社会人になるときに世の中の力になれる人になろうと思いました。
C		女性の高学歴化が進行し、子供が産まれると継続就学が少ないことについては、やはり産休などの制度をもっと設ける必要があると思った。
C		将来働くと思うけど、社会での女性の立場とか、将来の生活とか考えたことがなかったので考えさせられることがたくさんありました。また、教養をつけることの大切さを知りました。
A		とても興味のある部分だったので、お聞きしていてとても面白く興味深かったです。自分がとらえてしまっていた固定観念を取り除くことが出来ました。「ジェンダー」についてさらに教養を深め、もっと社会について考えたいと思いました。
A		難しい内容だったと思いました。でも、社会をいろいろな角度から見ると様々な問題があり核心的なことを言うことは難しいということが分かりました。
A		日本の人口が少しだけ増えていたのが意外だった。年をとるのは平等だという話がおもしろかった。確かにそうだなーと感じた。英語の発音がすごく良かった。
A		どんなことでもそうだけど、問題は一つのことだけでなく複数のことが複雑に関係して起きるので、社会問題に限定せず、いろんな日常的問題も、多方面から見て解決方法を探していくようにしたいと思いました。
A		今日聴いた内容は、とても興味深い部分も多くありました。しかし、話しておられたことは、多くが事実であり世論だと思っています。先生の個人的な意見が聞きたいと思いました。
A		社会のことに関して考えるきっかけになった気がします。難しいなーとは思ったけれどお話を聞くのは楽しかったです。
A		女性と男性とどちらにも当てはまらない人を無意識の中で区分してしまっていたりすることがあるというのを改めて実感した気がします。多様化することは大切なことだと思いました。
M		リーダーは特に変化と少数への敏感さが必要だということにとても納得した。就職してから何かの仕事やプロジェクトのリーダーになることがあるかもしれないので今回の講演会はとてもためになった。
M		変化や少数への敏感さを身につけていきたい。想像力、発想力を鍛えて、自ら発言していける人になりたい。
M		変化への敏感さ、少数への敏感さを通して、自分アイディアルタイプの新しいモデルを作っていきたい！！
E		男女の格差が改善されてきてはいるけど、まだ埋まっていない部分も多いとわかった。また、高学歴だとしても管理職になれる割合は少なかったのが印象に残った。
E		様々なデータとあわせてとても分かりやすかった。自分はまだ社会的な格差を実感することは少なく、今まであまり関心がなかったが、話を聞いて少し興味を持った。
E		興味のある話が聞いてよかった。
C		少子高齢化について考える良い機会になった。
A		難しい講演でした。
A		私も進学を考えた時に、自分が男だったら大学編入して大手で働くだろうという思考がある時点で間違っていた。女性の社会進出が進み、自由で斬新な発想が出たからといって問題が解決するとは限らないと思うから。日本人は自由な発想を受け入れましょねといながら新しさを白い目で見る国民性があるからまず根底から考えて限界があると思う。また新しさを支える支援などがないとその少数は生かせないと思った。
A		これから社会に出ていく時に、今日の講演での内容を活かしていきたいと思いました。
A		働く女性の考え方が少し分かりました。女性の将来の働く姿について少し理解できました。
C		自分の発想を大切にすること、さまざまな人の話をよく聞き、発想を広げていきたいと思った。
C		今後、社会で働く女性の1人として、私は多様な価値観を持ち、私だからできることを大切にしながら生きたい。先入観(女だから…男だから…という)を持たないことが大切。
A		どこかで聞いたことがある話なので新しく得た知識自体は少なくなった。
A		50年前の日本の人口ピラミッド、50年後の日本の予想人口ピラミッドにかなり興味があった。女性が家事をして男性は仕事して帰ってきたら何もしないという考えは古いと思った。でも、仕事を遅くまでして帰ってきて家事をするとなるとかなりしんどいと思うから働き方改革が大切だなと思った。
A		聞いていて楽しかった。日本に改善が必要があると思った。
A		専門分野である少子高齢化については難しい内容がよりよく理解できました。現状少数意見→KYはまわりから浮いてたりいじめの対象とされていたりしているように感じます。そういう人がリーダーとなるには…?
A		米子高専には聞くことのできない話題だと思いました。私のクラスは男女半半ずつなのですが、男女別に座ったり、そういうことはあまりありません。来年からは地元で設計士として働きます。まだまだ女性の設計士は少数なので、がんばりたいと思います。
A		女性が圧倒的に少ない職種に就職するので、とてもためになった。リーダーになるというのは自覚はないが、少数派だという事は心に留めておきたい。

アンケート

Q 1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？（複数回答可）

- 回答 1：講演内容に興味があったから
- 回答 2：教養を深めようと思ったから
- 回答 3：幅広い知識を得たいから
- 回答 4：友達に参加するから
- 回答 5：先生に勧められたから
- 回答 6：成績に加点されるから
- 回答 7：その他

学科	学籍番号	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7 (その他)
M							<input type="radio"/>	
E		<input type="radio"/>						参加しないといけなかったから
D							<input type="radio"/>	
D					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	東大の先生に興味があるから
D							<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
D						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
D							<input type="radio"/>	
D								強制だったから
C					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
C							<input type="radio"/>	女性の意見に耳を傾けようと思ったから。
C							<input type="radio"/>	
C						<input type="radio"/>		
C					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
C		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
C						<input type="radio"/>		
C				<input type="radio"/>				
A		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
A						<input type="radio"/>		
A					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
A						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
A						<input type="radio"/>		
A						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
M						<input type="radio"/>		
M						<input type="radio"/>		
M						<input type="radio"/>		
E						<input type="radio"/>		
E							<input type="radio"/>	
E		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
C				<input type="radio"/>				
A								強制的に参加させられたから
A								強制的に参加させられた
A								強制参加
A								強制参加
A						<input type="radio"/>		
C							<input type="radio"/>	
C		<input type="radio"/>						
A		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			
A					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
A		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
A					<input type="radio"/>			
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	

8 4 6 9 19 21

アンケート

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか？

回答1：よく理解できた

回答2：だいたい理解できた

回答3：あまり理解できなかった

回答4：全く理解できなかった

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M				○		話の内容を自分の中でつなげることができなかったから
E			○			
D				○		スライドが少なかった
D			○			
D			○			
D			○			
D		○				
D			○			少数派への考え方についてたくさん聞けたから
D			○			
D			○			
D			○			問2の感想のとおりです。内容としては元々から興味あった。
C			○			自分でも考えてみるとジェンダー規範が固定的だということがあった。
C				○		女性がリーダーになることに反感があるから
C			○			分からない言葉の説明が分かりやすかったから
C			○			少し難しい内容のものもあったが、女性の世の中での位置づけなどが詳しく知れた
C				○		社会学の専門用語が多くて難しかった。
C			○			社会における男女格差の現状を知れたから
C				○		難しい言葉や考えもあったから。
C			○			話の流れは理解できたが、言葉が少し難しく感じた。
C				○		情報量が多すぎて途中から分からなくなりました。すみません。
A		○				
A				○		難しい言葉や実例が出てきたから
A			○			分かりやすい言葉で話してもらえたから。
A			○			先生が言われたことと、実際自分が見聞きしたことは、だいたい同じだと感じたから
A			○			自分が興味のある分野は楽しく聞きました。
A			○			難しいところがあったけれど、ぼんやり入ってきたから。
A			○			
M			○			就職してからも大事な話だった
M		○				KYOK!ということがとても心に響いたから
M			○			
E			○			講演者の方の話したい内容は理解できたように思ったから
E			○			先生の意見を理解できた
E		○				白波瀬先生のお話が面白かったから。
C			○			分かりやすい内容だったから。
A				○		話しが少し難しかった。
A			○			脱線が多くて(例え話が多くて)何が言いたいのかわからなくなることがあった。
A			○			パワーポイントが分かりやすかったから。
A			○			
A			○			
C		○				わかりやすかった。
C			○			
A			○			
A		○				ちょっと分からない英語もあったけど、パワポのグラフや話していることが分かりやすかったから理解できた
A			○			
A			○			
A			○			
A			○			

6

33

8

0

アンケート

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

回答1：深まった

回答2：やや深まった

回答3：あまり深まらなかった

回答4：深まらなかった

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			○			おもしろいと感じたから
E				○		
D			○			最近の地理の授業と内容が少しかぶったから
D			○			
D			○			KYの論文に少し興味が出てきた
D			○			
D			○			
D			○			KYで良いという言葉に驚いたから
D			○			
D			○			
D				○		深まらない、というより、変わらない、です。
C			○			女性で管理職が少ないのは疑問だったので関心が深まった。
C			○			少し考えが影響されたから
C		○				実際のデータをもとに話していたから
C			○			女性の働き方がこれからどのようなようになるのか興味を湧いた
C			○			今後の社会の中での女性のあり方を少し考えることができたから。
C			○			社会問題は相互に作用しているため、問題点が分かりにくいことを興味深しと感じたから
C			○			求められるリーダーと違う部分があると思ったから
C			○			少子高齢化についてあまり知らなかったから。
C			○			今までそういうことについて考えてこなかったから。
A		○				
A				○		頭が少しついていなくて全て理解できなかった。
A			○			面白かったから。
A		○				これから自分たちが直面するであろう問題についての内容だったし、より具体的な内容だったから。
A		○				
A			○			きっかけになったと思うから。
A			○			
M			○			就職してからプロジェクトのリーダーになったりするかもしれないのでそれに必要な大事な講演会だった
M		○				少子高齢化についてもっと慎重に考えなければならぬと思ったから。
M		○				
E				○		働き方とかあまり興味がわかなかった
E			○			社会に出る上でやや興味を持った
E		○				新しい情報も得られたから。
C			○			
A			○			普段考えないような内容だったから
A				○		TVでも言っているような内容だった
A				○		問題を考えるきっかけにはなっても自分にとってその問題が等身大ではないので興味が薄れていく。
A			○			
A			○			
C		○				
C			○			
A			○			
A			○			男性・女性・生まれた時代関係なくしなければいけないことが分かったから関心を持った。
A			○			
A			○			
A		○				
A			○			

9 32 6 0

アンケート

Q 4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか？

- 回答1：役立ちそう
- 回答2：やや役立ちそう
- 回答3：あまり役立たない
- 回答4：全く役立たない

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			<input type="radio"/>			自分の倫理感が変わってくると思うから。
E			<input type="radio"/>			
D				<input type="radio"/>		共感できなかったから
D			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			個人の主張は大切にしていこうと思う
D			<input type="radio"/>			学ぶことは何かを説明してくれたから。
D				<input type="radio"/>		
D		<input type="radio"/>				
D			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			
D					<input type="radio"/>	これ聞いたから、こうなろう、こうしよう、とはなりそうにない。
C			<input type="radio"/>			出世するときの糧にしたい。
C				<input type="radio"/>		女性に対する考えは、変わりそうにないから。
C			<input type="radio"/>			直接的に関係ないが、知っていて損はないと思う。
C			<input type="radio"/>			これからの自分の生き方などに役に立つなと思った。
C				<input type="radio"/>		未来に向けての実感が湧かないし、どうなるかわからないから。
C			<input type="radio"/>			男女格差の是正は、日本社会において重要なテーマであると思うから
C			<input type="radio"/>			知らなかったことに興味をもってみようと思ったから
C			<input type="radio"/>			もっといろんな役職に目を向けてみようと思ったから。
C		<input type="radio"/>				これから社会に出るに当たって勉強になったから。
A		<input type="radio"/>				
A			<input type="radio"/>			どのような機会を体験すればいいかが分かったから。
A		<input type="radio"/>				役立たないことはないから。
A		<input type="radio"/>				これから決断していくときに役立ちそうだから
A		<input type="radio"/>				知識を得られたということは、私にとってそれだけで成果。
A		<input type="radio"/>				これから必要な内容だから。
A		<input type="radio"/>				
M		<input type="radio"/>				これから就職して役立ちそうな内容だった
M		<input type="radio"/>				自分の理想像が描けたから
M		<input type="radio"/>				
E				<input type="radio"/>		地位とかお金とか男女の格差とかあまり気にしないから
E			<input type="radio"/>			やや役立ちそうだった
E		<input type="radio"/>				これから人生の選択がたくさん待っているから。
C			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			ネットで調べたら出てきそうな内容
A				<input type="radio"/>		問題が等身大でないから。
A			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>				
C			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			
A		<input type="radio"/>				男性・女性関係なくリーダーになっていかないといけないという考えが身についたので役立ったと思った。
A			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			
A		<input type="radio"/>				
A			<input type="radio"/>			

15 25 6 1

アンケート

Q 5. 本日の講演内容のようなテーマについて学習する授業があれば受講したいですか？

- 回答 1：受講したい
- 回答 2：やや受講したい
- 回答 3：あまり受講したくない
- 回答 4：受講したくない

学科	学籍番号	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4
M			○		
E			○		
D		○			
D			○		
D			○		
D			○		
D					○
D			○		
D			○		
D			○		
D			○		
C				○	
C				○	
C			○		
C			○		
C					○
C			○		
C			○		
C			○		
C			○		
A		○			
A				○	
A			○		
A			○		
A			○		
A		○			
M			○		
M		○			
M		○			
E					○
E					○
E		○			
C			○		
A				○	
A					○
A				○	
A			○		
A			○		
C		○			
C			○		
A				○	
A		○			
A			○		
A			○		
A			○		

もっと深い内容であれば

無回答

8 28 6 4

アンケート

Q 6. あなたにとって「教養」とは何ですか？（複数回答可）

- 回答1：豊かなこころ
- 回答2：幅広い知識
- 回答3：文化・芸術への理解
- 回答4：知的好奇心
- 回答5：社会常識
- 回答6：他人に対するマナー
- 回答7：物事を批判的にとらえる能力
- 回答8：問題解決能力
- 回答9：地域の理解
- 回答10：その他

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7	回答8	回答9	回答10（その他）
M			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>		
E					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
D						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
D		<input type="radio"/>									
D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>					
D						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
C			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
C						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
C		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>								コミュニケーション^u^
C			<input type="radio"/>								絆
C		<input type="radio"/>	勇気▽'								
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>						<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
M			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>								
M		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
E						<input type="radio"/>					
E				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
E		<input type="radio"/>									
C							<input type="radio"/>				
A			<input type="radio"/>								
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>								
A				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>					
C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>								
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
A			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
A			<input type="radio"/>								
A		<input type="radio"/>									
A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				

18 36 17 16 27 24 10 17 3

2018年度 第4回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

演題：「トラクターの世界史」

講師：藤原 辰史 氏

(京都大学人文科学研究所准教授)

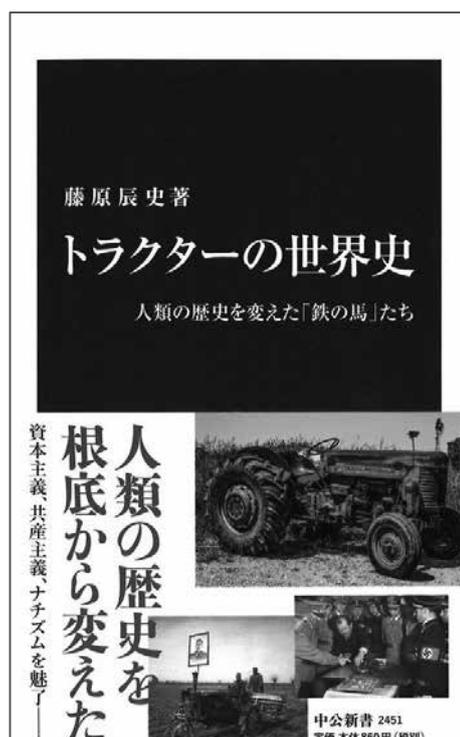
日時：2019年2月20日(水)

8時50分～10時20分

(補講期間中・希望者対象)

会場：合同講義室

**主催：米子高専リベラル
アーツセンター**



問1 本日の講演内容を要約してください

学科	学籍番号	内容
M		トラクターのすばらしさと、その歴史。
M		トラクターは人々を重労働から解放しただけでなく、生産量の上昇などをもたらした。さらに進化し、現代の社会を形作った。
M		トラクターレース 日本は手押しが主流だった。
M		トラクターは文化に溶け込みながら普及している。トラクターが開発されたから、ファシズムや軍国主義などの出来事が生まれた。
M		戦争と深い関わりをもちながら広まっていったトラクター。便利だが短所も多い。
M		トラクターとは生活に必要な 技術は政治をかえる。トラクターの歴史
M		トラクターの前夜は、蒸気するまで長かったり、出力あたりの重量が重かったり、燃料と水の補給するのに手間がかかったりするが、作業の効率がとても向上する。
M		トラクターの長所、短所、問題点に対して、改良がされていった。戦争や文化にも深く関わっている。
M		ジョン・フロリッチが内燃機関革命を起こした。最初はトラクターが危険で反対する人が多かった。トラクターを元にして戦争を作った。
M		トラクターの歴史と時代背景が大きく関わっていることを話していました。
M		トラクターと世界史との深い関係。トラクターの発展における大衆と技術者との摩擦。「美術」と「技術」の同化。
M		トラクターの歴史
M		トラクターの歴史と長所と短所、普及していくまでの流れ。
M		トラクターは、はじめは悪いイメージと性能との戦いだった。次第に時代が戦争に傾いていくと、戦力として注目されていく。そして日本はトラクター大國。
M		ジョン・フロリッチが1892年に初の灯油のトラクターを開発。初期のトラクターはとても事故が多い。トラクターが戦車のモデルにされた。日本にはコンパクトなトラクターが普及。
M		トラクターを使うことで夜でも動かせた。しかし、音がうるさいとか振動など問題点もあった、タイヤを鉄からゴムを使って振動を減らしていった。トラクターと戦車は似ている。20世紀には文化に溶け込みながら普及していった。
M		トラクターについての歴史、製造の苦悩、事故の歴史など、トラクターに関する光と影の部分を説明し、今の生活にどのように関わってきたかを学習した。
M		トラクターの進歩の歴史と、それに関連して技術や戦争についての話だった。
M		農業と技術者と文化の関係、農家から見たトラクター、エンジンの発展と事故、農業と戦争の関係など。
M		トラクターは開発されてから少しずつ発展していき、フォードソンを皮切りに普及していった。一方でナチスの再軍備や共産主義のプロパガンダなどにも利用され、戦車の原形となった。
E		トラクターを別の言語から見てみたり、その長所・短所やトラクターの元になったものから最近の出来事までをまとめられていた。
E		20世紀の歴史には戦車などの形でトラクターが色濃く関わっている。
E		トラクターにより、技術が発展していき、さまざまな歴史が展開していく。過去のトラクターから時代背景が分かるようになっていく。良いことも悪いことがある。
E		トラクターが少しずつ進化して、生活を変えてきた。トラクターは人間や動物、植物と大きく関わっている。機械と生命の相克。
E		トラクターの沿革、トラクターの長所と短所、トラクターがもたらした事故例、歴史研究とはこんなもの、広告も技術、トラクターをよりよくするための努力、トラクターが自然界に与えた影響
E		トラクターの歴史には、人々の生活や社会の状況などさまざまな展開へとつながっている。トラクターの歴史は、主にヨーロッパ（ドイツなど）の歴史とともに動いた。
E		その時の、時代背景などによって大分違っている。トラクターに対する批判がかなりあった。
D		トラクターは約100年前にできたけど、その当時は悪魔の機械と呼ばれるほど、人が死んでいったのに、今では運転している人が注意をしている限り安全だからすごいと思う。
D		トラクターの特徴や歴史
D		トラクターの時代によっての変化や、発明の重要性について。
D		トラクターがどのように進化してきたか、昔の人たちの発明など
D		トラクターにも初代や最新型などたくさんの種類があり、戦争や時代の流れにそって進化してきた。（ノーマルタイヤ・ゴムタイヤ）など。時の流れはすごい。
D		トラクターはその国にあった時代の流れで進化してきていてすごいと思う。トラクターは今となっては、トラクターなしでは生活が困難になっている。
D		トラクターなしで人間の食料歴史は語れない。機械=動物 だめなところも意識していかないと技術者は×
D		トラクターの作られ方や、時代につれての変化などだった。トラクターが使われることによる人々の普及率が高くなり発展していった。日本では、戦後に普及して今に至ることがわかった
D		トラクターを通して人々のその時代における技術の発展や、過去を知ってその過去からより良いものを作るための考えが大切で、物は時代に合った形で普及していくことである。
D		牛などの動物の代わりとして生まれたトラクターは、農民の反対も受けながら、世の中に普及し、社会や生活や戦争を変えていった。
D		トラクターはさまざまな事故や改良を経て現在のような機械となった。
D		トラクターはもともと事故が多かったが、フロリッチやフォードによって改良を重ねられ、現在のように、女性でも操作できるものに進化し、戦時中の農村を支える機械となった。
D		トラクターの歴史や特徴
D		トラクターとは何かということからトラクターの普及や変身の歴史についての内容について様々な資料を使って分かりやすく説明された。
D		トラクターは様々な歴史の背景であり、世界を動かしてきたということ
D		トラクターの技術が発展していくにつれて生活が変化していった。事故などをきっかけに何度も改良していき人々の生活を支える機械になっていった。
C		トラクターの歴史から今に至るまでの発展。最初の馬や牛で耕しているところから、トラクターになり、トラクターでもいろいろな種類があり、今では無人トラクターになるというトラクターの進化。
C		トラクターはドイツで発達した。トラクターは良い事も多いが悪い事も。昔はトラクターを作らう事は賛否両論があった。
C		今では便利で当たり前存在しているトラクターだが、普及し始めた頃は賛否が分かれていた。それでも現在まで残っているのは、多くの技術者の努力と世界の歴史の流れに大きく関係しているからだった。
C		トラクターについて知識を深めることで、そのときの事についてくわしく知ることができる。戦争などとの関係性や良いことや悪いことを知れる。
C		トラクターという単語は引きつけるという意味。トラクターはベンツやボルシェなどの車のメーカーも作っていた。事故が起こることが多かったので反対する人が多かった。日本はトラクター大國だった。
C		人々に批判されながらも、どうすれば人々が乗りやすくなるかを見ていた。トラクターを扱う人はさらに技術を発達させ、周りの人々はトラクターの仕組みをしっかり理解する必要がある。
C		トラクター技術の背景や当時のトラクターへの反感、戦争技術への利用
C		トラクターとは何か。どうしてトラクターができて、トラクターができたことにより、人々の生活はどうなったか、人々のトラクターに対する思い。
C		トラクターは世界に良い影響だけでなく、悪い影響も与えた。人々は、科学技術に対して良い意見、悪い意見を持っている人がいることが分かった。
C		・トラクターは苦役からの解放のシンボル ・フォードという人が重要 ・時代や文化に溶け込みながら普及した
C		人の暮らしは変化していくけど、今日でも残っている機械達を見ることでその頃のことがわかってくる。文化を大切にしなければいけない。
C		トラクターが発明されて、人々の生活が変わっていき今がある。今の人たちが快適に過ごせるのはすべて昔の大発明があったから。

C	・何ものにもやはり長所と短所があるし、事故も起こってしまう ・GPSで操作されるトラクターの開発 ・蒸気機関のトラクター→ヨーロッパで(でもお金持ちしか使えない) ・エンジン(自然電球) ・ライト 兄弟(飛行機) ・ベル(電話) ・フォード(車) ・トラクターは歴史とともに改善・普及してきた
A	トラクターは世界にとっても大きな影響を与えた。
A	長所や短所、デザインなどや、トラクターの歴史について学んだ。変化していく利点などについても理解できた。
A	トラクターが開発され、普及していく様子を話していった。その後、トラクターが、日本の歴史・世界の歴史との関わりがどのような感じだったのかを講演していた。
A	トラクターは重労働である農作業をしている人々の負担を減らした。その反面、事故や燃料費などの問題も出てきた。その中で、「技術が世界を変える」という考え方も広がり、内燃機関などの新しい技術で、トラクターが普及し始めた。
A	トラクターには、長所と短所があり文化に溶け込みながら普及した。悪い面では、戦車の開発につながっていた。
A	トラクターと世界史との関係性、技術者の強い思い、歴史 時代とともに変化するトラクターの機能
A	トラクターは苦役から解放されるため便利な道具だったけどさまざまな短所が見つかった。J. ワットなどが改良をほどこしていった。女性もトラクターを扱うことができるようになった。フォードのミスからまた改良されさらに改善された。
A	トラクターの歴史とそれに関わる世界の歴史、時代背景
A	歴史を学べば今のことをより深く理解できる。トラクターが発明され、農業が楽になったが、トラクターは田舎のイメージがあった。そこで、広告やレースなどで最先端技術であることをアピールし、広めていった。
A	トラクターについての話だけでなく、その時代における歴史的背景についても詳しく触れていた。トラクターは発明された当初から良い評価が多いわけではなく、様々な課題を解決していくことで世界中に広がった。
A	トラクターの歴史を知ること、トラクターに関する知識は、産業の歴史を語る上で、大切な位置にある。
A	ドイツのトラクターなどの農業機械の長所、短所、過去などから、人々に心の余裕を与えたり、将来が見えるようになったり、昔を知ることで考えられる未来があることを話されていた。
A	トラクターの歴史を見ることで、産業の歴史を見ることが出来る。ボルシェなどの歴史も絡めて知ることができた。
A	トラクターを初めて作った際、賛成・反対に分かれたり、トラクターが普及した時構造が甘かったために亡くなる人が出てくるなどいろいろと問題もあった。
A	ドイツが戦時に農家の人々の労働軽減のためにトラクターが発明された。トラクターが普及されたばかりのときは、住民は危険だということから批判されたが少しずつ改善をし、人々の労働を今でも手助けしている。
A	トラクター博物館にある古いトラクター、トラクターが使われるようになってからについて(批判なども) トラクターから見える歴史(広告など)、トラクターを通じた歴史(戦車のモデルはトラクターなど)
M	トラクターの歴史と世界史の結びつき。トラクターのメリット、デメリット。トラクターの普及の仕方(広告、価格、かっこよさ)、トラクターの評価
M	ドイツ、アメリカの技術者たちが長年トラクターの開発や改良を重ねてきたが、その度に問題が発生してきた。しかし、だんだんと良くなっていき女性が扱えるようになっていたり、安価になったために民衆が手にすることが簡単になっていったりした。そして、世界に負けず日本も新たなトラクターの開発をして世界トップクラスまで昇りつめた。
M	トラクターの始まりは250年前からで当時は蒸気機関であったが、出力問題や蒸発への時間のかかりすぎから内燃機関へと移る。女性でも使える負担の少ないトラクター、大量生産型のものを作っていく普及が進む。トラクターの技術(土壌を走ることが出来る)から戦車を開発し、戦場で使っていた。
M	トラクターの世界史は様々な文化の歴史と結びつきがあり、20世紀はトラクターなしでは語れない。
E	トラクターは昔から今まで、そしてこれからも人々の、世界の役に立っている。その背景には様々な歴史が存在している。
E	トラクターの意味は、引くという事や、ドイツにおけるトラクターの歴史を、戦争等と関連づけて説明し、トラクターの利点、欠点、事故等を解説したり、どのようにしてこのような農業機械がどのように使われていったかを話していただいた。
D	トラクターがどのような生まれ方をし、変化していったか、またトラクターと社会との関連
D	トラクターの歴史(でき方)
D	すべての歴史にはトラクターが関わっている。トラクターは皆に愛され、育っていった。また、戦争にも同じことが言える。
D	トラクターの歴史で、今に至るまでどのように変化してきたのか、また、その時の時代によってトラクターの立ち位置はどのようなものか。
D	トラクターとはどのようなものか。トラクターの導入による農業の変化。
D	トラクターの歴史について戦争や研究者のことも交えた話
D	トラクターの歴史についてドイツ博物館の写真をしながら説明。ジョン・フローリッチの内燃機関トラクターや、ヘンリー・フォードによる大量生産など発明家について。民衆者、フォルクスワーゲン。
D	とてつもない発明をすれば政治も変えられる。
D	トラクターについて
D	トラクターがどう変わってきたか、年代ごとの特徴に関連したトラクターの歴史
D	トラクターは「引く」の意。トラクターの進化は歴史にそっている。トラクターは便利だが事故が多い。技術が政治を変えた。トラクターの見た目も重視されていった。トラクターに対して反対も多かった。トラクターには問題もあって、つらい時代もあった。日本はトラクター大国。
D	農業を楽にする上で馬を使っていたが、機械に変化していく事や、トラクターを使うことによる弊害や事故などを示して、その解決策を説明していた。
C	トラクターの歴史やトラクターと戦争の関わりなど
C	トラクターは世界を変えた。
C	技術というものは人々を助けること、トラクターに関しては女性でも使えたりする、だが、トラクターによって最初人が多くけがをしたり、大地への強姦と呼ばれるようなことにもなった。
C	トラクターは、農業に変革をもたらすことで、世界を変えていったが、初期のトラクターはまだ改良点が多いものであった。また、賛否が大きく分かれていた。その後、トラクターの改良に伴い、発展していった技術は、文化の基盤となった。20世紀における軍事、社会主義などの文化とトラクターは密接に結びついている。
C	トラクターの歴史について話されており、ドイツの博物館の中のトンネル?や飾ってあるトラクターの説明。科学技術について、歴史人物やトラクターを利用して話されていた。フォルクスワーゲンの歴史についても知れた。
A	トラクターの歴史について知ることによってどのようにして人類の発展に貢献していくのか、またトラクターの進化の過程。車のメーカーもトラクターを開発していた。トラクターは人類の文化と寄り添うようにして進化していった。20世紀の歴史はトラクターの歴史
M	
M	トラクターの話
D	トラクターの歴史について
C	トラクターがどのような考えで造られてきていたのか。また歴史、戦争などどのような関わりがあるのか。
A	トラクターの世界史

問2 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください

学科	学籍番号	内容
M		昔の人たちは人のために技術を発展させようとする人が多く、さらにそれが今の時代まで生かされていることがすごいと思った。
M		トラクターと聞いてすごいというイメージは全くなかったが、トラクターを進化させる形で様々な物が生まれたのはすごいと思った。
M		トラクターレースが面白そうだった。緑色のトラクターを見たことがなかったがとてもかっこよかった。
M		トラクターは仕事に使われるものとしてしか考えたことなかったけど、かっこよさを求めたりして面白かった。
M		とても興味深い内容でした。トラクターの詳しい歴史が知れて良かった。
M		トラクターの奥深さを知った。
M		トラクターの歴史が詳しくわかり、だいたいの内容はわかりましたが少し難しい内容もあったので少し調べてみようと思いました。
M		農業だけでなく、その他の文化など多くのことに関わっていることがわかった。トラクターの魅力など多くの人が関心を持っていることに驚いた。
M		今、普通に見ているトラクターにもいろいろな歴史があることがわかりました。歴史を知ることが大切だし、おもしろいなと思いました。
M		今日の話を聞いてトラクターの見方を含めて、いろいろな工業製品の見方が変わったなと思いました。
M		近代社会にも通ずるような話があっただけおもしろかった。
M		面白かった。興味を持った。
M		今は当たり前に使われているトラクターについて、賛成と反対があり それが色々な言い方をされていておもしろかった。
M		歴史が苦手、車やエンジンにもあまり興味もない僕なので、少し難しい内容だったが、とても面白かった。個人的には、トラクターに使われるエンジンの移り変わりが面白かった。
M		トラクターがなければ今のような人口になっていなかったということが驚きました。親が子供にトラクターを使わせないように説得させるのが大変そうだなと思いました。
M		現在作られているトラクターまで多くの歴史があることがわかりました。機械のことについて少し理解できたので良かったです。
M		思いの外、戦争と関係があり面白かった。工業とは正反対とも言える農業面でも科学技術が入って来ているのは驚いたし、トラクターを軸に世界が変わったのも驚いた。
M		トラクターについて今回のリベラルアーツで理解が少し深まった気がする。
M		蒸気機関から内燃機関になることで、環境や政治がとても変わるので、農業は大きな力を持っていると思った。
M		トラクターがどのように歴史に関わっているかもっと知りたいと思いました。トラクターと同じように歴史に深く関わったものや機械なども、もっと知りたいと思いました。
E		以前から自分が知っていた知識以上に知ることができてよかった。
E		トラクターの技術から戦車がつくられたなどの話を聞いて、他に何があるのか興味があった。
E		絵から、いつの時代の、どんな出来事を表現しているかが良く分かった。
E		トラクターが人間の生活を大きく変化させていると思わなかった。また、戦争とトラクターの密接な関係もわかったので良かった。
E		今のトラクターにも、意外に短所が多いということに驚いた。歴史は歴史（過去）だけでなく、未来にも関係してくる、ということを感じた。今のトラクターが完成するまでに様々な人の努力や過程があることを知った。人も結局たどっていくと、食料、それを作るのを助けたトラクター。それを考えると、トラクターってすごいなと思った。
E		トラクターの良いことだけでなく短所も話されていたので、すぐ頭に入って来やすかった。またその理由やその後についても知ることができて興味深かった。
E		知っている名前がたくさん出てきておもしろかった。トラクターがここまで深いとは知らなかった。おぼあちゃん家が奥出雲の亀島なので出てきて驚いた。
D		物の歴史を知るのを楽しんだと思いました。世界史や、位置が分からないと難しいと思った。話した人は車が好きなんだと分かった。
D		なぜトラクターに興味をもったのか
D		トラクターによって農業が進化していったのだとよくわかり、おもしろかった。
D		昔の人は、畑を耕すことも大変で、トラクターを発明し、政治まで変えていて、本当にすごい発明なのだなと思ったし、色々な困難があったのだと知り、簡単に大きな成果はあげられないのだと思った。
D		とてもわかりやすくおもしろい説明であった。ベンツやBMWなど身近な(?)ワードを出して親近感が少しわいた。
D		世界のトラクターの歴史や文化をたくさん知ることができた。今となっては、トラクターなしで生活できないほど日本が多く使っていることを知ってびっくりしました。
D		歴史は人の過去を追っていくとおもしろいことが分かった。おもしろかった。
D		最初の方のトラクターは、今のものと比べると見違えるほど違いびっくりした。トラクターは、20世紀に起こった有名な出来事に関連づいていて奥深いと思いが湧きました。車のメーカーも有名なところは、元をたどればトラクターなので、歴史を知ることは面白いと思いました。
D		時代ごとに、合った形を取りつつも最新の技術を取り入れていくことに驚いた。トラクターの話から、どの物事においてもその時代ごとに考えていくことが大切なのではないかと思った。
D		トラクターの普及・発展が社会に与えた影響がここまで大きいものだったとは知らなかった、おどろいた。
D		自分が思っていた以上にトラクターが歴史に深く関わっていたので驚いた。
D		トラクターが戦時中のアメリカ、中国、ソ連の政治や経済や武器などに大きな影響を与えたということに関心を持った。トラクターの改良者たちの高い技術力は、自分たちの専門科目や卒業後に生きてくるものだなと思った。
D		日本の食料自給率を上げるにはどうすればいいか
D		トラクターを批判する人はとても多かったということが分かった。国のトップに立つ人はトラクターにとっても関心を持つ人が多かったということが分かった。トラクターを改良し、戦車を開発したということが分かった。
D		機械専門だけでなく農業や社会にも関わりがあっただけでも幅広い分野の話で楽しめました。
D		トラクターは農業での活躍が主であると感じていたが 戦時中の戦車の原型であることにとても驚いた。今を変ええる機械だからこそ先人の開発に感謝しなければならないと感じた。
C		この講演を聞く前は、畑を耕す農業はとても大変というイメージが強かった。ですが、この話を聞き、昔の人の知識と努力のおかげがとても良くなっていることが分かりました。
C		確かに、ドイツの車は有名で、車を作る技術が発達していたからトラクターも作ることができたのかなと思った。トラクターを作った事は賛否両論あったと思うが、今ではなくてはならない物で、作ってくれてよかったと思う。
C		トラクターは農業だけに限らず戦争や歴史に関わっていたと考えられるとおもしろいと感じた。フォードら技術者、小説、漫画、ポスターを書いた人々は歴史を大きく動かした重要な人物だと知れた。
C		トラクターの歴史を知ることができ、そこから色々なことについて知ることができた。また、1つのことから派生して、いろいろなことを考えることができる考え方も学びになった。最後の文系と理系の分け隔てなく知識を深めたいです。
C		歴史は苦手だったので少し難しかったです。
C		最初はトラクターがどういふものか分からなかったけど、身近にトラクターという語句が入っているものがあると知り驚きました。時代の流れに沿って技術がさらに発達してほしいです。
C		トラクターの利点だけでなく悪い点と向き合い今後の技術に活かしていくべきだと思った。
C		新しい物が好きな若い人はトラクターにすごく賛成していたのに年を取った人は反対で今と似ていると思った。僕の父は農業をしているから何となくトラクターとは親近感があるなと思った。
C		技術者は、技術に対して悪い点をちゃんと見て、改善するようにしなければならぬと思う。人々の意見を聞く姿勢も大事だと思った。
C		トラクターが20世紀を支配している感じがすごいなと思いました。発明には時間やたくさんの苦労があると思うので、そのことに打ち込めるのがいいなと思いました。
C		簡単には良いものではないから何度も考えて行うことが大切と分かった。タイヤが今と昔で違っていたのがおもしろかったです。
C		「トラクターの世界史」と聞いて、少し難しい内容を想像していたけど、実はけっこう身近なものだと知れておもしろかった。
C		スライドが分かりやすかった。車やトラクターに興味がない私でも楽しく学べた。農業以外の面から説明されていたので、知識があまりなくてもきちんと理解できた。
A		BMWをベーエムペーと呼ぼうと思った。トラクターをカッコいいと思っていた人は素晴らしい感性を持っていると思う

A	いろいろな視点、考え方を覚ぶることが出来たのでよかったです。トラクターは農業以外にも使い方を考えて使うのがすごいと思いました。
A	私は特に戦争とトラクターとの関わり話を聞いておもしろいなと思いました。戦争のためにある物を進化させて戦争に使うものを作っていくのはおもしろいなと思った。
A	トラクターも車のような騒音や事故などの問題がたくさんあるのだと分かった。初期のトラクターは、車の型に近い造りだと思った。便利で新しい技術でも、それを危険視する人もいるのだと改めて分かった。「農民＝兵士」という考え方は、ヒトラーらしいなと思った。
A	トラクターの普及と歴史との関わりが理解できて面白かった。トラクターにすら美を求める人間は興味深いなと思った。
A	写真を多く使用していても想像しやすかったです。トラクターが時代とともに変化していき、いつの時代にどんな人が使い、どのような機能が必要とされていたのか、とても分かりました。僕はずっとトラクターはいいものだと思っていたけど、昔は悪いイメージがあったことは驚きました。
A	トラクターの重要さが理解できました。トラクターには長所はたくさんあるけど短所の騒音や振動というのとても共感できました。家の近くをトラクターが通る時とても振動がすごい時がありました。ただ労働力などを考えたらとても楽な物だったんだと知れました。
A	学生に話だけをするのではなく、学生に質問をしたり意見を求めたりして、自分も参加している感じがすごかったです。
A	トラクターは、機械だけでなく、「どうやって飼うの？」と言っていたのが印象に残った。トラクターを批判する小説があってもおもしろかった。いろいろな考え方があったなと思った。
A	藤原さんは、様々な写真や絵などから多くのことを読み取って優れた考えを見つけておられたのすごいなと思いました。
A	歴史の背景にトラクターが関わっているとは、思ってもいなかった。また、産業の歴史には欠かせないのだと今回を通してよく分かった。トラクターを運転する際は、事故に注意深くならなければいけない。
A	ただ農地を耕すことに、牛や馬を引いていた時代、蒸気機関を2両つなげて耕していた時代など、トラクターができる前までの農業の様子を知ることができた。
A	農業はトラクターのおかげで発展していくことができた分かった。技術は進んでいて、そんな新しい技術に手を出し、未来には常識となるように、安全性、利便性など考慮しないといけないと思う。
A	今までトラクターについての歴史との関わりは知らなかったし興味も全くなかったけど、これまでに習った歴史の裏側が知れておもしろかったです。
A	トラクターは、ただ農作業の手助けだけでなく、世界の人々の生活を助けていると分かりました。技術者が発明することは、簡単ではないけど、発明で国の政治、今では世界を支えていると分かっておもしろいなと思いました。
A	1つのこと（絵・広告）から歴史背景を読み取る力のすごさを感じました。また、トラクターと山陰の関わりについてお話しされたので、身近な話もあって興味が持てました。
M	トラクターと世界史を混ぜていたので、とても興味深く聴くことができた。世界のトラクターについて知ることができた。
M	トラクターを発明するのにはたくさんの技術者や人々が関わっていたことがわかって驚いた。しかも、トラクターの民衆化にはヒトラーが関わっていることが意外だった。日本での開発には、地元である安来のたたら製鉄が携わっていることがわかってすごいと思った。
M	トラクターの歴史の中になんか自動車も関わってきていて、自動車の開発にはトラクターの技術が深く関わってきているとわかった。トラクターにゴムタイヤが用いられてから前輪が傾いているように見えたのですがなぜですか。
M	トラクターとは単に畑を耕す機械ではあるが、現在見ることもできるトラクターには様々な時代背景があり、中には戦争や、ナチスなどの暗い内容もあることが分かった。また、そのような時代背景があったからこそ、今のトラクターがあることが分かった。
E	普段、目には良くするけど、そのトラクターに注目してどうやって出来てきたかなど考えたことがなかった。深く知ることができいい機会になった。
E	戦争と深く関わっていたり、政治や、環境問題などと密接な関係を持っていて、トラクターは歴史や社会を大きく変えた事を知って、とても興味深かった。今は当たり前にあるトラクターもこのような歴史をたどったと考えると興味深いと思った。
D	僕にとってトラクターとは、“遅い、もっと速く走れ！”と思うようなものだったが、トラクターがそんなにすごいものだったと知り、おもしろかった。
D	トラクターにこんな歴史があることにびっくりした。
D	トラクターにはあまり興味はなかったが、いろんな歴史と結びついているのはすごいと思った。
D	トラクターにこのような歴史があることに少し驚いた。また、今は車のメーカーとして有名な会社がトラクターを作っていたことにも驚いた。
D	機械と生き物がつながっていると知った。
D	色々なことに関心をもって残りの学生生活を充実させたいと思った。
D	タイトルを見てよく分からなかったが、始まってみると色々な話を混ぜて聞いておもしろかった。いい機会になった。
D	自分も発明により世界を変えたい
D	とても面白かった。
D	トラクターと戦争などの歴史背景との関わりが知れてよかった。
D	トラクターなんて、畑を耕すだけの機械だと思っていたけど、かなりの歴史を積んで進化したり、アメリカやドイツなどで様々な高層があったりと、かなり奥深い乗り物なんだとおもしろかった。
D	車などで有名な企業は実は農業用機械から始まっていた事にびっくりした。技術を広めていく上で芸術は重要な役割を示していた事が分かった。
C	ドイツの有名な車の会社（ボルシェ、フォルクスワーゲン）がトラクターをつくっていたという歴史は、初めて聞きました。また、人類の農業の発展はトラクターなしでは今のような効率にはならなかったということも初めて知りました
C	よかった。トラクターが好きになった。
C	トラクターが社会主義と関わっているとは知らなかった。
C	歴史をトラクターの発展という側面から見るという視点がとても興味深かった。トラクターは世界の発展に貢献したが、ダストボウルなどの環境問題も引き起こしてしまったという事例から、技術者も広い視点で物事を見ることが重要なのだと感じた。
C	トラクターについて専門の知識だけで話さず、様々な話を混ぜて話されていたので、楽しく、はてなマークがつくことなく聞けました。
A	普段意識して考えることのないトラクターについて、その歴史について知ること、人類の発展とのつながりや、トラクターの役割について知ることができてよかった。写真や絵が多くてわかりやすかったです
M	トラクターの誕生や昔のトラクターの構造がわかっておもしろかった。ベンツやボルシェ、フォードがトラクターを作っていたとは知らなかった。
M	
D	
C	知らなかったトラクターのつくられた理由や、ベンツ、ボルシェなどの車の会社とのつながりが知れて良かったと思いました。
A	トラクターという普段注目しないことについて触れて面白いなと思いました。

アンケート

Q 1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？（複数回答可）

回答1：講演内容に興味があったから

回答2：教養を深めようと思ったから

回答3：幅広い知識を得たいから

回答4：友達に参加するから

回答5：先生に勧められたから

回答6：成績に加点されるから

回答7：その他

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7（その他）
M							○	
M				○			○	
M							○	
M		○	○	○	○	○	○	
M		○					○	
M					○		○	
M						○	○	
M					○		○	
M				○			○	
M			○				○	
M				○	○		○	
M			○	○			○	
M						○	○	
M					○		○	
M					○	○	○	
M			○	○			○	
M					○		○	
M		○	○	○			○	
E						○	○	
E						○	○	
E						○	○	
E					○		○	
E				○			○	
E		○			○		○	
E			○		○	○	○	
D						○	○	
D					○		○	
D		○					○	
D						○	○	
D		○					○	
D		○				○	○	
D		○					○	
D		○					○	
D		○	○				○	
D		○					○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
D		○				○	○	
C			○			○	○	
C					○	○	○	
C							○	
C			○	○			○	
C					○		○	
C						○	○	
C					○		○	
C		○	○			○	○	
C							○	
C				○		○	○	
C				○		○	○	

C			○				
A	○	○			○		
A				○		○	
A	○						
A			○	○			
A					○		
A	○	○					
A		○		○		○	
A			○				○
A				○			○
A							○
A							○
A							○
A				○	○		○
A			○		○		再試験のレポートの代わりだから
M				○		○	
M					○	○	
M			○		○		
M	○	○	○				
E					○	○	
E	○		○				
D							○
D		○					○
D		○					○
D	○						○
D							○
D		○			○		○
D							○
D							○
D		○					○
D		○		○			○
D		○					○
C	○						
C	○		○				
C		○	○				○
C				○			
A			○				○
M	○						
M	○						
D	○						
C							無回答
A					○		

26 23 19 24 29 64

アンケート

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか？

回答1：よく理解できた

回答2：だいたい理解できた

回答3：あまり理解できなかった

回答4：全く理解できなかった

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			<input type="radio"/>			とてもわかりやすい説明ですぐ理解できた。
M		<input type="radio"/>				今につながる知識が多く理解しやすかったから
M			<input type="radio"/>			
M				<input type="radio"/>		話があまり入ってこなかったから。
M		<input type="radio"/>				写真などがあって分かりやすかったから。
M			<input type="radio"/>			ヨーロッパのトラクターの関わりがあまりわからなかったから。
M			<input type="radio"/>			少し理解できない難しい部分があったから。
M			<input type="radio"/>			順序よく、わかりやすく話を聞いた。
M		<input type="radio"/>				説明がわかりやすかったから
M			<input type="radio"/>			講師の人の話がわかりやすかったから
M		<input type="radio"/>				とても聞きやすかったから。
M		<input type="radio"/>				詳しく聞けたから
M			<input type="radio"/>			知らない一面を知ったから
M			<input type="radio"/>			とても難しいというわけではなかったから
M			<input type="radio"/>			画像が多かったから。
M				<input type="radio"/>		知識があまりない状態で講演を聞いたから
M		<input type="radio"/>				戦争と関係があったので、話が入りやすかった。
M			<input type="radio"/>			
M		<input type="radio"/>				わかりやすく話していた
M			<input type="radio"/>			話をしっかり聞けたから。
E			<input type="radio"/>			
E			<input type="radio"/>			
E			<input type="radio"/>			すごく詳しくあったが、専門的すぎて分からない所があった。
E			<input type="radio"/>			英語が多かったから、わかりにくいところもあった。
E			<input type="radio"/>			広告から読み取ることが難しかった。
E			<input type="radio"/>			内容が思ったより濃かった。
E			<input type="radio"/>			少し難しかったけど理解できたから。
D			<input type="radio"/>			歴史が出てきた所はちょっとわからなかった。
D			<input type="radio"/>			おもしろい話を聞いてよかった
D		<input type="radio"/>				
D			<input type="radio"/>			絵や写真などもありわかりやすかった。
D				<input type="radio"/>		トラクターにあまり興味がなかったため。
D			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			途中からおもしろくなったから。
D			<input type="radio"/>			理解できたから。
D		<input type="radio"/>				時代ごとに合う形で進化していったことがわかったから
D			<input type="radio"/>			分かりやすく話を進めてくださった。
D			<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>			写真や実際に体験できたことを多く話してくださったから
D			<input type="radio"/>			資料が見やすかった
D		<input type="radio"/>				様々な画像を使用して分かりやすく説明されたから。
D		<input type="radio"/>				詳しく説明して下さって難しく感じなかった
D			<input type="radio"/>			教科書から知ることのできない視点の歴史でとてもおもしろかった。産業や農業の面からもっと歴史に興味を持ってみたいと感じた。
C			<input type="radio"/>			少し詳しい所もあったけれどほとんど理解できました。
C		<input type="radio"/>				トラクターと、歴史を混ぜてお話しして下さって、分かりやすかった。
C			<input type="radio"/>			
C			<input type="radio"/>			詳しく説明してくれたから
C			<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>				分かりやすい説明だった
C			<input type="radio"/>			何となく聞いたことがある人名とか出てきたから。
C		<input type="radio"/>				説明がわかりやすかったから。
C			<input type="radio"/>			トラクターはあまり見たことも使ったこともないけど奥が深いなと思ったから。
C			<input type="radio"/>			少しだけ難しかったから。
C			<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>				いろいろな視点から解説していただいたので理解しやすかった。
A			<input type="radio"/>			楽しく聞くことができたから
A			<input type="radio"/>			スライドがわかりやすい
A			<input type="radio"/>			理解できてなかったら私はたぶんあきらめて寝てました。私が寝ていないということ は理解できていたからです。
A		<input type="radio"/>				トラクターの歴史と、それに対する社会の動きがよく分かった。

A			○		講師の方が熱心に語ってくださったから。
A		○			写真が多く理解しやすい
A		○			トラクターがどのように進化していったかが理解できたから
A			○		トラクターの歴史とそれ以外の歴史が何となくわかりました。
A		○			わかりやすかったから。
A			○		写真などが多く伝わりやすかったから
A			○		講話が分かりやすかったから。
A		○			トラクター1つで世界がつながっている感じがしておもしろかった。
A			○		しっかり聞いたから。
A		○			写真などがあり分かりやすかった。
A		○			
A		○			こちらへの問いかけが多く、内容が入ってきたから。
M		○			
M		○			1つの資料でたくさんのお話を話してくださったから。
M			○		歴史の中でたくさんのお話が入っており聞いていやすかったから。
M		○			写真と話の内容が合っていて講演の内容の理解がしやすかった。
E			○		講師の人の話がわかりやすかった。
E		○			写真やイラストが多く理解しやすかった。
D				○	寝てしまった
D			○		昔の写真がたくさん見られて楽しかった。
D			○		
D			○		スライドがたくさんあり分かりやすかった。
D			○		トラクターがどのように普及したか理解できた。
D		○			トラクターの長所や短所、様々な研究者の話聞いてわかりやすかった
D		○			トラクターについて色々聞いて理解できた。
D			○		話し上手だから
D			○		分かりやすかった
D			○		写真があつてわかりやすかったから
D			○		話がわかりやすくおもしろかった
D		○			
C			○		事前の知識はなかったが先生の話は聞きやすく、理解しやすかった
C		○			もともと興味があったから。
C				○	
C		○			スライドや講演内容が良くまとめられており、写真もあり分かりやすかったから。
C		○			難しい言葉が並ぶ演説ではなかったから
A			○		講師の方の話の流れがわかりやすかったから
M		○			
M			○		
D				○	
C			○		
A			○		

アンケート

Q 3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

回答1：深まった

回答2：やや深まった

回答3：あまり深まらなかった

回答4：深まらなかった

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			○			「下町ロケット」でもともと興味あったから深まりやすかった。
M			○			トラクターが技術を発達させたというのはとてもおもしろいと思ったから
M			○			
M				○		あまり面白くなかったから
M		○				トラクターの歴史なんて考えたことがなかったから
M		○				トラクターの歴史について知ったから
M			○			僕は車が好きなので少し興味がわきました
M				○		もともと興味がなかったから
M		○				歴史を知ることもおもしろいと思ったから。
M			○			
M		○				
M		○				機械に興味があるから
M			○			トラクターの歴史を知れたから
M			○			エンジンについて興味がわいた
M				○		
M			○			知らないことが多かったのもっと知りたいと思ったから
M			○			機械好きなので、今のトラクターになるまでの機械構造を見るのが面白かった。
M			○			
M			○			おもしろそうに話すので自分も興味が出た。
M			○			思いがけないことにトラクターが関わっていたから。
E			○			
E		○				
E			○			農業の観点から、歴史を考えるのは面白かった。
E			○			元々、農業にあまり興味がなかったけど、トラクターを通して農業も学べたから。
E			○			トラクターのことを考えたことはあまりなかったので、とても興味が湧いた。
E		○				久しぶりに歴史が面白かった。
E		○				思っていたより深かったから興味がそそられた。
D			○			田舎だから、トラクターは身近にあるので、関心が深まった。
D			○			知らないことだらけだったけどおもしろかった
D		○				
D			○			トラクターの歴史について初めて知った。
D			○			それなりに話が聞けたから
D			○			
D			○			戦争系がちょっと好きっぽいから。
D			○			理系なことはとても興味が湧く
D		○				今は普通となっているトラクターはさまざまな事故や、問題点があり、それを改良してできたところがおもしろかったから。
D		○				技術の発達が生の中に及ぼした影響に興味を引かれた
D			○			トラクターによって社会経済に大きな影響をもたらしたことに関心した。
D			○			知らないことが多かったから
D		○				トラクターから様々なものによって変わっていったということに興味を持ったから。
D		○				技術は文化と結びついていることがわかったから
D		○				独自の視点から物事を考えるのは楽しいと感じた。
C			○			トラクター（農業）についてくわしく知る機会だったので良かったです。
C		○				トラクター1つでたくさんの事を知ったから。
C			○			
C			○			トラクターを知るだけでいろいろなことが深く知れた
C				○		
C			○			
C		○				戦車が生まれるものになっていたのは驚いた
C			○			ボルシェとか車のことが出てきて、まさか高級な車をつくっている会社がトラクターをつくっているなんてびっくりしたし、もっと知りたくなった。

C			○		トラクターなどの技術が世界を変えたと考ええるとすごいと思ったから。
C			○		トラクター少しおもしろいなと思ったから。
C			○		
C		○			
C		○			家の周辺で良く見かけるトラクターについて今まで知らなかったことを知れたから。
A			○		お話がとても面白かったから
A		○			いろいろな考え方があるから。
A		○			トラクターと歴史の関わりを初めて知っておもしろかった
A		○			トラクターなどの農業用機械も、多くの人達の影響を受けているんだなと思った。
A			○		発明が政治をも変えてしまうのが面白かった。
A		○			
A		○			車やトラクター関係の物をもっと知りたいと思ったから
A			○		トラクターについて興味がなかったけど、歴史と関係があることが分かり、興味を持ちました。
A			○		身近に感じる話もあったから。
A			○		トラクターにここまでの歴史があることを知ったから
A			○		トラクターの背景を知れたから。
A		○			動物との合いの子であるという言葉に興味を持った。
A			○		教授の話し方が上手かったから。
A			○		いろいろなトラクターのことを知れたから
A			○		
A		○			ボルシェなどの、トラクターではない車がトラクターに大きく関係していて、身近なものにも関係しているんだなと思ったから。
M		○			
M		○			トラクターのことについて考えてもいなかったが、興味がわいてきた。
M		○			自動車に深く関わっていたので、もっと聞いたり調べてみたいと思った。
M		○			ボルシェについて今まで知ることができなかったことを知ることができた。
E			○		トラクター1つの歴史をしてみるだけでこんなにも色々な事があるのかと思った。
E		○			トラクターからいろいろな分野が影響を受けた事を知ったから
D				○	興味があまりなかったから
D			○		もう少し詳しく知りたいと思った。
D			○		
D			○		上記と同じ理由
D			○		機械の変化と歴史がわかったから。
D		○			歴史についてももっと勉強しようと思った
D			○		車のメーカーなど色々な話を聞けたから。
D				○	車自体に興味がない
D			○		車がかっこよかった
D			○		おもしろかったから
D			○		トラクターについて知れてよかった。
D			○		
C		○			トラクターを見る目が変わりました
C		○			トラクターにこんなにも歴史があるのか、とおもしろい話を聞いた。
C			○		トラクターが大地への強姦と呼ばれていたりしていた
C		○			トラクターが歴史と密接に関わっているということが興味深く感じたから
C			○		話を聞けば聞くほどもっと知りたくなった。
A			○		トラクターによって人類の進歩がなされていると知れたから
M		○			
M			○		
D				○	
C			○		
A			○		

アンケート

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか？

回答1：役立ちそう

回答2：やや役立ちそう

回答3：あまり役立たない

回答4：全く役立たない

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4	理由
M			○			知識を持っていることで役に立たないことはないから。
M			○			興味をもつことができたから
M			○			
M			○			歴史の内容は勉強になったから。
M			○			M科だから。
M			○			歴史を知ったから。
M			○			いつか農業をしてトラクターを使うことがあるから。
M				○		役立つかはわからない
M		○				歴史を知ることでこれからの手がかりになるかもしれないから。
M			○			
M			○			
M		○				M科だから
M				○		知っていても使う時がないから
M			○			興味があることはいいことと思うから
M			○			これからトラクターを見ると、今回を思い出せそうだから。
M			○			もっとこれから機械のこについて学ぶので少し機械について知ることができたから
M			○			家が農家でトラクターを所有しているので、別の視点からトラクターが見れそう。
M			○			
M			○			機械工学を学んでいるから
M			○			様々なものに生かせる知識だから。
E						無回答
E			○			
E			○			出身地は、農業をよく行っているから。
E			○			知識が身についたから。
E			○			トラクターのこと、というよりは物事の見方が変わったと思う。
E				○		でも、聞いて良かったと思います。
E		○				関心をもつことが役立ちそう
D		○				古いものから情報を得て、新しいものへより良いものを作る所が役になった話。
D				○		トラクターの歴史は役に立たないと思う
D		○				
D			○			昔の人の事を知ることは、新しいことに挑戦するときに役に立つと思ったから
D				○		トラクターには関わらない気がするから
D			○			
D		○				技術者にとって大切なことをたくさん知れたから。
D			○			歴史を知ることで、これからの技術に使えるそうだから。
D		○				これから出てくるであろう新しい技術もそれまでの過程を通して改良をしていくことが大切だと思った。
D			○			技術発展の応用
D		○				これから開発をしていく上でどのようなことを身につけておけば良いのかが何となくだ分かりました。
D			○			フローリッチやフォードの改良技術が専門科目において生きてくるから
D			○			将来を考えるヒントになったと思うから
D		○				これからの歴史の授業等で理解を深めることができると思ったから。
D		○				これからは様々な教養が必要だと知れたから
D			○			興味深い話だった。
C			○			おじ・おばが畑をしているから
C			○			トラクターを使う事はないと思うが、過去を選択するという事は役に立つと思ったから。
C			○			
C			○			ものの考え方などがとてもすごかった

C			<input type="radio"/>		環境にいい燃料をつくる案になりそう。
C			<input type="radio"/>		
C		<input type="radio"/>			当時の人々の反発から今後の対策を考えられると思った。
C			<input type="radio"/>		環境についての話などがあって、C科はそれに少し当てはまるから。
C			<input type="radio"/>		トラクターにかかわらず、人の意見を聞き入れる大切さを学んだから。
C			<input type="radio"/>		科学技術について考えることがこれからあると思うから。
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		歴史を学んでいく上で食について考えるのが大切だし、それを支えているトラクターについて学ぶことも大切だと思うから。
A			<input type="radio"/>		機械は歴史と深い関係にあるから。
A			<input type="radio"/>		いろいろな視点から見られるから
A			<input type="radio"/>		過去を振り返るのはいいことですよ。
A			<input type="radio"/>		文系も理系には必要だなと思った。
A			<input type="radio"/>		
A		<input type="radio"/>			
A		<input type="radio"/>			調べていきたいと思ったから
A		<input type="radio"/>			科学技術について知られたから。
A			<input type="radio"/>		本当の車好きを見分けられる
A			<input type="radio"/>		トラクターについての知識があるかないかでは考え方が変わると思うから。
A			<input type="radio"/>		歴史を学ぶ上で大切になりそうだから（産業の発達）
A		<input type="radio"/>			批判にも耳を傾け、よりよい方向へ向かっていくことが技術者として必要なんだなと思った。
A			<input type="radio"/>		歴史を知ることが未来につながるから。
A			<input type="radio"/>		知らなかった歴史が知れたから。
A		<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>		技術者としてのモチベーションにつながったから
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		町の中でトラクターを見たときに、軽くだが説明できそうだから。
M			<input type="radio"/>		
M		<input type="radio"/>			今まで知らなかったことを知ることができ、これから、友人たちとの会話の中で役に立ちそうです。
E			<input type="radio"/>		トラクターに限らず、他の働く車に興味を持つ結果になると思う。
E			<input type="radio"/>		
D				<input type="radio"/>	わからない
D			<input type="radio"/>		トラクターを見る目が変わった。
D			<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>		知っていて損はないと思う。
D				<input type="radio"/>	
D		<input type="radio"/>			興味を色々な所に向けるということに納得した
D			<input type="radio"/>		知識が増えたから
D				<input type="radio"/>	そんな気がした
D				<input type="radio"/>	
D			<input type="radio"/>		1つのことについて、知識の幅が広がるのはおもしろかった。
D			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		知っていて損はないと思った
C		<input type="radio"/>			よかった。
C			<input type="radio"/>		
C		<input type="radio"/>			トラクターという世界を大きく変えた技術の事例は、様々なものに当てはめられるのではないかと感じたから。
C			<input type="radio"/>		友達や祖父母に自慢できそう。
A			<input type="radio"/>		普段意識していないものに目を向けられるようになれそう。
M		<input type="radio"/>			
M			<input type="radio"/>		
D				<input type="radio"/>	
C				<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>		

アンケート

Q 5. 本日の講演内容のようなテーマについて学習する授業があれば受講したいですか？

回答1：受講したい

回答2：やや受講したい

回答3：あまり受講したくない

回答4：受講したくない

学科	学籍番号	回答1	回答2	回答3	回答4
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M				<input type="radio"/>	
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M				<input type="radio"/>	
M		<input type="radio"/>			
M			<input type="radio"/>		
M		<input type="radio"/>			
M		<input type="radio"/>			
M		<input type="radio"/>			
M				<input type="radio"/>	
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M		<input type="radio"/>			
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
E			<input type="radio"/>		
E		<input type="radio"/>			
E			<input type="radio"/>		
E			<input type="radio"/>		
E		<input type="radio"/>			
E			<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>		
D		<input type="radio"/>			
D		<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>		
D				<input type="radio"/>	
D			<input type="radio"/>		
D		<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>		
D		<input type="radio"/>			
D			<input type="radio"/>		
D		<input type="radio"/>			
D		<input type="radio"/>			
D		<input type="radio"/>			
D		<input type="radio"/>			
D		<input type="radio"/>			
C			<input type="radio"/>		
C		<input type="radio"/>			
C				<input type="radio"/>	

C			<input type="radio"/>		
C				<input type="radio"/>	
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		
C					
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>		
A		<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>		
A		<input type="radio"/>			
A			<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>		
A				<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>		
A				<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>		
A				<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>		
A				<input type="radio"/>	
A			<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
M		<input type="radio"/>			
E			<input type="radio"/>		
E		<input type="radio"/>			
D				<input type="radio"/>	
D			<input type="radio"/>		
D				<input type="radio"/>	
D			<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>		
D					<input type="radio"/>
D			<input type="radio"/>		
D			<input type="radio"/>		
D		<input type="radio"/>			
C			<input type="radio"/>		
C		<input type="radio"/>			
C		<input type="radio"/>			
C			<input type="radio"/>		
C			<input type="radio"/>		
A		<input type="radio"/>			
M			<input type="radio"/>		
M			<input type="radio"/>		
D				<input type="radio"/>	
C			<input type="radio"/>		
A			<input type="radio"/>		

無回答

24 64 11 1

C			○	○						
C		○	○	○	○					○
C		○			○					
C				○			○			
C			○				○			
C		○	○	○	○	○				
A			○	○	○					
A		○	○							
A			○							
A				○	○			○	○	
A			○	○	○	○	○			
A			○	○	○					
A			○	○	○	○				
A		○			○					
A		○	○	○	○	○		○	○	
A			○						○	
A		○	○			○				
A			○	○	○					
A			○	○	○	○	○			
M			○	○	○	○	○	○		
M			○	○						
M				○	○					
M		○	○	○	○					
E			○		○	○				
E			○		○					
D		○	○		○	○	○			
D		○	○							
D				○	○					
D			○			○				
D						○			○	
D		○	○	○	○	○	○	○	○	○
D				○						
D				○		○	○			
D			○	○	○					
D			○	○						
C			○		○					
C				○	○		○			
C		○	○		○	○	○			
C		○	○	○		○	○	○	○	○
C		○	○							
A			○		○					
M			○							
M		○	○			○	○			
D		○				○				
C			○	○	○					
A						○				

32

74

37

56

25

13

8

13

9

2019年度・第1回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

日時：2019年12月11日（水）
15時40分から

会場：合同講義室

演題：「世界の乾燥地と食料生産」

講師：鳥取大学 乾燥地研究センター
教授 坪 充 氏



<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/index.html>

主催：米子高専 リベラルアーツセンター

「リベラルアーツ講演会」(2019年12月11日):出席カード&アンケート

「世界の乾燥地と食料生産」

鳥取大学乾燥地研究センター教授 坪 充氏

学科:M・E・D・C・A・S 学年:[]年 学籍番号:[]名前:[]

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか?(複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから
2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから
4. 友人が参加するから
5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから
7. その他()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた
2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった
4. 全く理解できなかった

理由:)

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった
2. やや深まった
3. あまり深まらなかった
4. 深まらなかった

理由:)

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか?

1. 役立ちそう
2. やや役立ちそう
3. あまり役立たない
4. 全く役立たない

理由:)

Q5. あなたにとって「リベラルアーツ(教養)」とは何ですか?(複数回答可)

1. 豊かな心
2. 幅広い知識
3. 文化・芸術への理解
4. 知的好奇心
5. 社会常識
6. 他人に対するマナー
7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力
9. 地域の理解
10. その他()

Q6. 先日配布した「リベラルアーツセンターだより」(第3号)を読みましたか?

1. 読んだ
2. 目を通した程度
3. 読んでいない

講演会終了後、提出してください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？（複数回答可）

1. 講演内容に興味があったから
2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから
4. 友人が参加するから
5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから
7. その他

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	
1	1	M	<input type="radio"/>	自分にも関連するから					
2	1	M				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3	2	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
4	2	C	<input type="radio"/>						
5	3	M	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
6	3	M	<input type="radio"/>						
7	3	M						<input type="radio"/>	
8	3	M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
9	3	E				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
10	3	E					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
11	3	E						<input type="radio"/>	
12	3	E				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
13	3	D		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
14	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
15	3	D	<input type="radio"/>						
16	3	D	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
17	3	D		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
18	3	D		<input type="radio"/>					
19	3	D	<input type="radio"/>						
20	3	D						<input type="radio"/>	
21	3	D				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
22	3	D				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
23	3	D				<input type="radio"/>			
24	3	D		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
25	3	D	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			
26	3	D		<input type="radio"/>					
27	3	D				<input type="radio"/>			
28	3	D				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
29	3	D		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
30	3	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
31	3	C	<input type="radio"/>						
32	3	C						<input type="radio"/>	
33	3	C	<input type="radio"/>						
34	3	C	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
35	3	C						<input type="radio"/>	
36	3	C				<input type="radio"/>			
37	3	C				<input type="radio"/>			
38	3	C						<input type="radio"/>	
39	3	C			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
40	3	C	<input type="radio"/>						
41	4	C					<input type="radio"/>		
42	4	D					<input type="radio"/>		
43	4	D		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
44	4	D					<input type="radio"/>		
45	4	D					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
46	4	D	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
47	4	D					<input type="radio"/>		
48	5	C	<input type="radio"/>						
49	5	A			<input type="radio"/>				
50	5	A	<input type="radio"/>						
51	5	A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
			16	14	9	15	14	25	1

3. アンケート

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか？

1. よく理解できた
2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった
4. 全く理解できなかった

	学年	学科	1.	2.	3.	4.
1	1	M		○		
2	1	M		○		
3	2	E		○		
4	2	C		○		
5	3	M		○		
6	3	M	○			
7	3	M		○		
8	3	M		○		
9	3	E		○		
10	3	E	○			
11	3	E		○		
12	3	E		○		
13	3	D		○		
14	3	D		○		
15	3	D		○		
16	3	D		○		
17	3	D		○		
18	3	D	○			
19	3	D	○			
20	3	D		○		
21	3	D	○			
22	3	D		○		
23	3	D	○			
24	3	D	○			
25	3	D		○		
26	3	D	○			
27	3	D		○		
28	3	D	○			
29	3	D		○		
30	3	D		○		
31	3	C	○			
32	3	C		○		
33	3	C	○			
34	3	C		○		
35	3	C		○		
36	3	C			○	
37	3	C		○		
38	3	C		○		
39	3	C		○		
40	3	C	○			
41	4	C		○		
42	4	D		○		
43	4	D			○	
44	4	D			○	
45	4	D		○		
46	4	D	○			
47	4	D			○	
48	5	C	○			
49	5	A		○		
50	5	A		○		
51	5	A		○		
			14	33	4	0

3. アンケート

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

1. 深まった
2. やや深まった
3. あまり深まらなかった
4. 深まらなかった

	学年	学科	1.	2.	3.	4.
1	1	M		○		
2	1	M	○			
3	2	E		○		
4	2	C	○			
5	3	M		○		
6	3	M	○			
7	3	M		○		
8	3	M	○			
9	3	E		○		
10	3	E	○			
11	3	E			○	
12	3	E		○		
13	3	D		○		
14	3	D		○		
15	3	D	○			
16	3	D			○	
17	3	D		○		
18	3	D		○		
19	3	D	○			
20	3	D		○		
21	3	D		○		
22	3	D		○		
23	3	D		○		
24	3	D	○			
25	3	D		○		
26	3	D	○			
27	3	D		○		
28	3	D	○			
29	3	D		○		
30	3	D	○			
31	3	C	○			
32	3	C		○		
33	3	C	○			
34	3	C		○		
35	3	C		○		
36	3	C		○		
37	3	C		○		
38	3	C		○		
39	3	C		○		
40	3	C	○			
41	4	C		○		
42	4	D		○		
43	4	D			○	
44	4	D		○		
45	4	D		○		
46	4	D		○		
47	4	D			○	
48	5	C	○			
49	5	A		○		
50	5	A		○		
51	5	A		○		
			15	32	4	0

3. アンケート

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか？

1. 役立ちそう
2. やや役立ちそう
3. あまり役立たない
4. 全く役立たない

学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	1	M	○			
2	1	M	○			
3	2	E		○		
4	2	C	○			
5	3	M		○		
6	3	M			○	
7	3	M			○	
8	3	M		○		
9	3	E	○			
10	3	E	○			
11	3	E			○	
12	3	E		○		
13	3	D				○
14	3	D		○		
15	3	D	○			
16	3	D		○		
17	3	D		○		
18	3	D		○		
19	3	D	○			
20	3	D		○		
21	3	D			○	
22	3	D			○	
23	3	D			○	
24	3	D	○			
25	3	D			○	
26	3	D	○			
27	3	D		○		
28	3	D	○			
29	3	D		○		
30	3	D	○			
31	3	C	○			
32	3	C			○	
33	3	C		○		
34	3	C		○		
35	3	C		○		
36	3	C		○		
37	3	C		○		
38	3	C		○		
39	3	C			○	
40	3	C	○			
41	4	C		○		
42	4	D		○		
43	4	D			○	
44	4	D		○		
45	4	D			○	
46	4	D		○		
47	4	D			○	
48	5	C	○			
49	5	A		○		
50	5	A		○		
51	5	A		○		
			14	24	12	0

3. アンケート

Q5. あなたにとって「リベラルアーツ（教養）」とは何ですか？（複数回答可）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 豊かな心 | 6. 他人に対するマナー |
| 2. 幅広い知識 | 7. 物事を批判的にとらえる能力 |
| 3. 文化・芸術への理解 | 8. 問題解決能力 |
| 4. 知的好奇心 | 9. 地域の理解 |
| 5. 社会常識 | 10. その他 |

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
1	1	M		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2	1	M	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>		
3	2	E		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
4	2	C	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
5	3	M	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
6	3	M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
7	3	M	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
8	3	M		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
9	3	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
10	3	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
11	3	E			<input type="radio"/>						
12	3	E		<input type="radio"/>							
13	3	D		<input type="radio"/>							
14	3	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
15	3	D		<input type="radio"/>							
16	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
17	3	D	<input type="radio"/>								
18	3	D		<input type="radio"/>							
19	3	D		<input type="radio"/>							
20	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
21	3	D		<input type="radio"/>							
22	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
23	3	D		<input type="radio"/>							
24	3	D	<input type="radio"/>								
25	3	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
26	3	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
27	3	D		<input type="radio"/>							
28	3	D							<input type="radio"/>		
29	3	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
30	3	D	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>						
31	3	C			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
32	3	C		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
33	3	C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
34	3	C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
35	3	C	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
36	3	C	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
37	3	C	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
38	3	C		<input type="radio"/>							
39	3	C		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
40	3	C	<input type="radio"/>								
41	4	C		<input type="radio"/>							
42	4	D	<input type="radio"/>								
43	4	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
44	4	D		<input type="radio"/>							
45	4	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
46	4	D		<input type="radio"/>					<input type="radio"/>		
47	4	D		<input type="radio"/>							
48	5	C		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
49	5	A		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
50	5	A	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
51	5	A		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		

17 42 15 18 17 6 5 13 8 1

3. アンケート

Q6. 先日配布した「リベラルアーツセンターだより」(第3号)を読みましたか?

1. 読んだ
2. 目を通した程度
3. 読んでいない

学年	学科	1.	2.	3.	未記入	
1	1	M	○			
2	1	M	○			
3	2	E		○		
4	2	C			○	
5	3	M	○			
6	3	M			○	
7	3	M			○	
8	3	M			○	
9	3	E	○			
10	3	E	○			
11	3	E			○	
12	3	E		○		
13	3	D			○	
14	3	D		○		
15	3	D		○		
16	3	D		○		
17	3	D			○	
18	3	D			○	
19	3	D		○		
20	3	D			○	
21	3	D		○		
22	3	D		○		
23	3	D		○		
24	3	D		○		
25	3	D			○	
26	3	D		○		
27	3	D			○	
28	3	D		○		
29	3	D		○		
30	3	D			○	
31	3	C		○		
32	3	C			○	
33	3	C			○	
34	3	C		○		
35	3	C			○	
36	3	C			○	
37	3	C			○	
38	3	C			○	
39	3	C		○		
40	3	C			○	
41	4	C		○		
42	4	D		○		
43	4	D		○		
44	4	D			○	
45	4	D			○	
46	4	D		○		
47	4	D			○	
48	5	C		○		
49	5	A			○	
50	5	A			○	
51	5	A		○		
			5	22	23	1

2019年度・第2回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

日時：2020年1月23日（木）
15時40分から

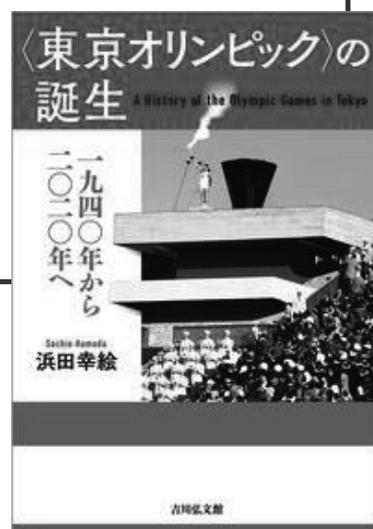
会場：合同講義室

演題：「メディアの変遷からみる
オリンピック

—ラジオ、映画、テレビ、インターネット—

講師：島根大学法文学部
准教授 浜田 幸絵 氏

主催：米子高専
リベラルアーツセンター



「リベラルアーツ講演会」(2020年1月23日):出席カード&アンケート

「メディアの変遷からみるオリンピック:ラジオ、映画、テレビ、インターネット」

島根大学法文学部准教授 浜田 幸絵 氏

学科:M・E・D・C・A・S 学年:[]年 学籍番号:[] 名前:[]

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか?(複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

理由:)

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった 3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

理由:)

Q4. 本日の講演内容は今後役に立ちそうですか?

1. 役立ちそう 2. やや役立ちそう 3. あまり役立たない 4. 全く役立たない

理由:)

Q5. 本日の講演を聴いて、研究者(大学教員等)も自分の将来の進路の一つとして考えてみようと思いましたか?

1. 思った 2. 少し思った 3. あまり思わなかった 4. 思わなかった

Q6. あなたにとって「リベラルアーツ(教養)」とは何ですか?(複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. 地域の理解 10. その他()

講演会終了後、提出してください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？（複数回答可）

1. 講演内容に興味があったから
2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから
4. 友人が参加するから
5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから
7. その他

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
1	2	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
2	2	E			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
3	2	E		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
4	2	E					<input type="radio"/>	
5	2	E			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
6	2	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
7	2	D				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
8	2	D					<input type="radio"/>	
9	2	D		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
10	2	D	<input type="radio"/>					
11	2	D			<input type="radio"/>			
12	2	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
13	2	D		<input type="radio"/>				
14	2	A			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
15	3	M		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
16	3	E	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
17	3	E		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
18	3	E					<input type="radio"/>	
19	3	E		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
20	3	D			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
21	3	D	<input type="radio"/>					
22	3	D			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
23	3	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
24	3	D			<input type="radio"/>			
25	3	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
26	3	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
27	3	D					<input type="radio"/>	
28	3	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
29	3	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
30	3	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
31	3	D		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
32	3	C					<input type="radio"/>	今年東京オリンピックがあるから
33	3	C				<input type="radio"/>		
34	3	C		<input type="radio"/>				
35	3	C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
36	3	C	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
37	3	C		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
38	3	C	<input type="radio"/>					
39	3	C			<input type="radio"/>			
40	3	C	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
41	3	C			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
42	3	C		<input type="radio"/>				
43	3	C	<input type="radio"/>					
44	3	C					<input type="radio"/>	
45	3	C		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
46	3	C					<input type="radio"/>	

13 18 10 15 13 31 1

3. アンケート

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか？

1. よく理解できた
2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった
4. 全く理解できなかった

学年	学科	1.	2.	3.	4.	理由
1	2	E		○		内容がとても分かりやすく聞き入れたため
2	2	E		○		映像で見ることができたので、理解しやすかった
3	2	E		○		昔のオリンピックについて知ることができた
4	2	E		○		
5	2	E		○		
6	2	E	○			講演の内容がよく分かり、私生活のことにも当てはめて考えることができたから
7	2	D		○		
8	2	D		○		オリンピックの歴史について少し興味が出た
9	2	D		○		古くてあまり見慣れていなかったり、初めての情報が多かったため
10	2	D		○		
11	2	D		○		初めての情報が多かったから
12	2	D	○			
13	2	D		○		メディアはその時代の影響を受けて伝えていたことがよく分かった
14	2	A		○		途中からだったので最初の方を聞けなかったから
15	3	M		○		昔と今のメディアを比べることが出来たため
16	3	E	○			パワーポイントが見やすかった
17	3	E	○			映像が使われていたから
18	3	E	○			はっきりした声と見やすいパワーポイント資料
19	3	E		○		分かりやすかった
20	3	D		○		時代背景の説明があり、理解しやすかった
21	3	D		○		「オリンピック」というなじみのあるテーマで取っ付きやすかった
22	3	D		○		映像や画像が多くあったから
23	3	D	○			僕のおじさんが昔1964年の東京オリンピックに料理人として選手村で働いていたので興味があったから
24	3	D		○		オリンピックと共にメディアの増加、伝達方法の変化であるため
25	3	D	○			話がとても面白かったから
26	3	D		○		最後は割と走っていましたが基本的に聞きやすかった
27	3	D		○		写真や動画があり、イメージできたから
28	3	D	○			過去のオリンピックのメディアの取り上げ方など様々なことを学ぶことができた
29	3	D	○			講師の方の説明とスライドなどの資料が充実していたから
30	3	D	○			歴史を順にたどっていったから
31	3	D	○			話がわかりやすく、キーワードがしぼられていたため
32	3	C		○		パワーポイントがあり、声が綺麗で聞き取りやすかったため
33	3	C		○		グラフや写真があって理解しやすかった
34	3	C		○		スライド等が分かりやすくまとめており見やすかった
35	3	C		○		映像がたくさんあって分かりやすかったから
36	3	C		○		遅れてきたから最初の方は詳しく聞くことができなかった
37	3	C		○		メディアがどのように変化してきたのかを知れたから
38	3	C	○			先生の話が分かりやすかった
39	3	C		○		今回の講演は私たちに分かりやすく浅く広くだったと思ったから
40	3	C		○		写真が多かったから
41	3	C		○		内容も講師の方も分かりやすかったから
42	3	C	○			具体例をよく出されていて、難しい言葉もあまりなかったから
43	3	C	○			パワポが分かりやすかったから
44	3	C		○		情報を得るにはメディアが不可欠だと感じたから
45	3	C		○		専門的な知識が少なく、身近な話題でおもしろかったから
46	3	C		○		スライドと説明がとてもわかりやすかったから

14 32 0 0

3. アンケート

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

1. 深まった
2. やや深まった
3. あまり深まらなかった
4. 深まらなかった

学年	学科	1.	2.	3.	4.	
1	2	E		○		
2	2	E		○		
3	2	E	○			
4	2	E			○	
5	2	E		○		
6	2	E		○		
7	2	D		○		
8	2	D		○		
9	2	D			○	
10	2	D		○		
11	2	D		○		
12	2	D	○			
13	2	D	○			
14	2	A		○		
15	3	M		○		
16	3	E		○		
17	3	E	○			
18	3	E		○		
19	3	E		○		
20	3	D		○		
21	3	D		○		
22	3	D		○		
23	3	D	○			
24	3	D		○		
25	3	D		○		
26	3	D		○		
27	3	D		○		
28	3	D		○		
29	3	D	○			
30	3	D	○			
31	3	D		○		
32	3	C		○		
33	3	C		○		
34	3	C	○			
35	3	C		○		
36	3	C	○			
37	3	C		○		
38	3	C	○			
39	3	C	○			
40	3	C		○		
41	3	C			○	
42	3	C	○			
43	3	C		○		
44	3	C		○		
45	3	C		○		
46	3	C	○			
			13	30	3	0

3. アンケート

Q4. 本日の講演内容はこれから役に立ちそうですか？

1. 役立ちそう
2. やや役立ちそう
3. あまり役立たない
4. 全く役立たない

学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	2	E		○		
2	2	E		○		
3	2	E		○		
4	2	E		○		
5	2	E		○		
6	2	E		○		
7	2	D		○		
8	2	D			○	
9	2	D		○		
10	2	D		○		
11	2	D		○		
12	2	D		○		
13	2	D		○		
14	2	A		○		
15	3	M		○		
16	3	E		○		
17	3	E	○			
18	3	E		○		
19	3	E		○		
20	3	D		○		
21	3	D			○	
22	3	D		○		
23	3	D	○			
24	3	D		○		
25	3	D		○		
26	3	D			○	
27	3	D		○		
28	3	D			○	
29	3	D	○			
30	3	D	○			
31	3	D	○			
32	3	C			○	
33	3	C			○	
34	3	C	○			
35	3	C		○		
36	3	C		○		
37	3	C		○		
38	3	C		○		
39	3	C		○		
40	3	C		○		
41	3	C		○		
42	3	C		○		
43	3	C			○	
44	3	C		○		
45	3	C		○		
46	3	C			○	
			6	32	8	0

3. アンケート

Q5. 本日の講演を聴いて、研究者（大学教員等）も自分の将来の進路の一つとして考えてみようと思
いましたか？

1. 思った
2. 少し思った
3. あまり思わなかった
4. 思わなかった

学年	学科	1.	2.	3.	4.	
1	2	E			○	
2	2	E	○			
3	2	E	○			
4	2	E			○	
5	2	E			○	
6	2	E	○			
7	2	D		○		
8	2	D			○	
9	2	D			○	
10	2	D		○		
11	2	D			○	
12	2	D			○	
13	2	D	○			
14	2	A	○			
15	3	M		○		
16	3	E	○			
17	3	E	○			
18	3	E		○		
19	3	E			○	
20	3	D		○		
21	3	D		○		
22	3	D		○		
23	3	D	○			
24	3	D		○		
25	3	D		○		
26	3	D		○		
27	3	D		○		
28	3	D			○	
29	3	D	○			
30	3	D		○		
31	3	D			○	
32	3	C	○			
33	3	C		○		
34	3	C		○		
35	3	C		○		
36	3	C		○		
37	3	C		○		
38	3	C	○			
39	3	C		○		
40	3	C			○	
41	3	C			○	
42	3	C		○		
43	3	C	○			
44	3	C	○			
45	3	C	○			
46	3	C		○		
			2	12	22	10

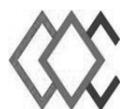
3. アンケート

Q6. あなたにとって「リベラルアーツ（教養）」とは何ですか？（複数回答可）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 豊かな心 | 6. 他人に対するマナー |
| 2. 幅広い知識 | 7. 物事を批判的にとらえる能力 |
| 3. 文化・芸術への理解 | 8. 問題解決能力 |
| 4. 知的好奇心 | 9. 地域の理解 |
| 5. 社会常識 | 10. その他 |

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	
1	2	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
2	2	E		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
3	2	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
4	2	E	<input type="radio"/>									
5	2	E		<input type="radio"/>								
6	2	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
7	2	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	話の話題
8	2	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
9	2	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
10	2	D	<input type="radio"/>							<input type="radio"/>		
11	2	D			<input type="radio"/>							
12	2	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>						
13	2	D		<input type="radio"/>								
14	2	A		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
15	3	M		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
16	3	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
17	3	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			
18	3	E		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
19	3	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>								
20	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
21	3	D	<input type="radio"/>									
22	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
23	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
24	3	D			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
25	3	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
26	3	D		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
27	3	D			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
28	3	D		<input type="radio"/>								
29	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
30	3	D	<input type="radio"/>									
31	3	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
32	3	C		<input type="radio"/>								
33	3	C			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
34	3	C		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>					
35	3	C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
36	3	C	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
37	3	C	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>								
38	3	C									<input type="radio"/>	人生
39	3	C	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>						
40	3	C	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
41	3	C		<input type="radio"/>								
42	3	C	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
43	3	C		<input type="radio"/>								
44	3	C				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				
45	3	C		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
46	3	C						<input type="radio"/>				
			17	33	17	22	16	7	7	8	8	2

2019年度・第3回



文部科学省

地(知)の拠点

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催します。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

日時：2020年1月31日（金）
15時40分から

会場：合同講義室

演題：「がん研究と人間力」

講師：鳥取大学医学部 副学部長
教授 岡田 太氏



主催：米子高専 リベラルアーツセンター・医工連携
研究センター・地域共同テクノセンター

共催：鳥取大学地(知)の拠点大学による地方創生推進室

「リベラルアーツ講演会」(2020年1月31日): 出席カード&アンケート

「がん研究と人間力」: 鳥取大学医学部副学部長・教授 岡田 太 氏

学科: M・E・D・C・A・S 学年: [] 年 学籍番号: [] 名前: []

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか? (複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他 ()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

〔理由: 〕

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった 3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

〔理由: 〕

Q4. 本日の講演を聴いて、「医工連携」への興味や関心が高まりましたか?

1. 大いに高まった 2. やや高まった 3. どちらともいえない
4. あまり高まらなかった 5. ほとんど高まらなかった

Q5. 鳥取大学の医科学専攻への進学も、進路の選択肢として考えてみようと思いましたか?

1. 思った 2. 少し思った 3. あまり思わなかった 4. 思わなかった

Q6. 自分の将来の進路の一つに、「研究者(大学教員等)」も考えてみようと思いましたか?

1. 思った 2. 少し思った 3. あまり思わなかった 4. 思わなかった

Q7. 本日の講演内容は今後役に立ちそうですか?

1. 役立ちそう 2. やや役立ちそう 3. あまり役立たない 4. 全く役立たない

〔理由: 〕

Q8. あなたにとって「リベラルアーツ(教養)」とは何ですか? (複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. 地域の理解 10. その他 ()

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？（複数回答可）

1. 講演内容に興味があったから
2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから
4. 友人が参加するから
5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから
7. その他

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	未記入
1	1	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
2	2	M				<input type="radio"/>			
3	2	M						<input type="radio"/>	
4	2	M			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5	2	M			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
6	2	M				<input type="radio"/>			
7	2	M						<input type="radio"/>	
8	2	M	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
9	2	M				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
10	2	M	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
11	2	M		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
12	2	M		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
13	2	M						<input type="radio"/>	
14	2	M					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
15	2	M	<input type="radio"/>						
16	2	M	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
17	2	M		<input type="radio"/>					
18	2	M				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
19	2	M	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
20	2	M	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
21	2	M				<input type="radio"/>			
22	2	M					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
23	2	M				<input type="radio"/>			
24	2	M				<input type="radio"/>			
25	2	M	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
26	2	M						<input type="radio"/>	
27	2	M					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
28	2	E	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
29	2	E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
30	2	E	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
31	2	E						<input type="radio"/>	
32	2	E		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
33	2	E						<input type="radio"/>	
34	2	D				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
35	2	D					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
36	2	D			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
37	2	D	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
38	2	D	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
39	2	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
40	2	D				<input type="radio"/>			
41	2	D	<input type="radio"/>						
42	2	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
43	2	C		<input type="radio"/>					
44	2	C					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
45	2	C					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
46	2	C	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	

47	2	C	○					○		
48	2	C					○	○		
49	2	C	○					○		
50	2	C	○					○		
51	2	C					○			
52	2	C							○	
53	2	C					○	○	○	
54	2	C							○	
55	2	C						○	○	
56	2	C				○	○	○	○	
57	2	C							○	
58	2	C	○					○		
59	2	C					○			
60	2	A					○	○		
61	2	A	○	○	○			○		
62	2	A	○		○	○	○	○		
63	2	A	○	○	○			○		
64	3	M				○				
65	3	M						○		
66	3	M					○		○	
67	3	M		○						
68	3	M	○						○	
69	3	M							○	
70	3	M	○	○	○			○	○	
71	3	M		○	○					
72	3	E	○				○		○	
73	3	E	○						○	
74	3	E	○						○	
75	3	E	○						○	
76	3	E							○	
77	3	E					○	○	○	
78	3	E						○		
79	3	E							○	
80	3	E							○	
81	3	E							○	
82	3	E	○						○	
83	3	E				○				
84	3	D	○						○	
85	3	D				○				
86	3	D	○	○	○	○	○	○	○	
87	3	D	○			○	○		○	
88	3	D					○		○	
89	3	D	○						○	
90	3	D					○		○	
91	3	D	○	○	○	○	○	○	○	
92	3	D							○	
93	3	D	○							
94	3	C							○	
95	3	C	○						○	
96	3	C	○							
97	3	C	○						○	
98	4	C								○
99	5	C	○		○			○		
100	5	C	○							
101	2	S	○							

42 17 26 30 32 69 0 1

3. アンケート

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか？

1. よく理解できた
2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった
4. 全く理解できなかった

	学年	学科	1.	2.	3.	4.	理由	未記入
1	1	E		<input type="radio"/>				
2	2	M			<input type="radio"/>			
3	2	M		<input type="radio"/>				
4	2	M		<input type="radio"/>				
5	2	M		<input type="radio"/>				
6	2	M			<input type="radio"/>			
7	2	M		<input type="radio"/>				
8	2	M	<input type="radio"/>					
9	2	M		<input type="radio"/>				
10	2	M		<input type="radio"/>				
11	2	M		<input type="radio"/>				
12	2	M		<input type="radio"/>				
13	2	M	<input type="radio"/>					
14	2	M		<input type="radio"/>				
15	2	M			<input type="radio"/>			
16	2	M		<input type="radio"/>				
17	2	M	<input type="radio"/>					
18	2	M		<input type="radio"/>				
19	2	M		<input type="radio"/>				
20	2	M		<input type="radio"/>				
21	2	M			<input type="radio"/>			
22	2	M			<input type="radio"/>			
23	2	M		<input type="radio"/>				
24	2	M		<input type="radio"/>				
25	2	M	<input type="radio"/>					
26	2	M		<input type="radio"/>				
27	2	M		<input type="radio"/>				
28	2	E			<input type="radio"/>			
29	2	E		<input type="radio"/>				
30	2	E		<input type="radio"/>				
31	2	E			<input type="radio"/>			
32	2	E		<input type="radio"/>				
33	2	E			<input type="radio"/>			
34	2	D		<input type="radio"/>				
35	2	D	<input type="radio"/>					
36	2	D			<input type="radio"/>			
37	2	D		<input type="radio"/>				
38	2	D		<input type="radio"/>				
39	2	D		<input type="radio"/>				
40	2	D			<input type="radio"/>			
41	2	D		<input type="radio"/>				
42	2	D	<input type="radio"/>					
43	2	C		<input type="radio"/>				
44	2	C		<input type="radio"/>				
45	2	C		<input type="radio"/>				
46	2	C		<input type="radio"/>				
47	2	C		<input type="radio"/>				

48	2	C		○				
49	2	C		○				
50	2	C		○				
51	2	C				○		
52	2	C		○				
53	2	C		○				
54	2	C				○		
55	2	C		○				
56	2	C		○				
57	2	C		○				
58	2	C	○					
59	2	C		○				
60	2	A		○				
61	2	A		○				
62	2	A		○				
63	2	A	○					
64	3	M		○				
65	3	M				○		
66	3	M		○				
67	3	M		○				
68	3	M	○					
69	3	M				○		
70	3	M	○					
71	3	M		○				
72	3	E		○				
73	3	E		○				
74	3	E		○				
75	3	E	○					
76	3	E		○				
77	3	E				○		
78	3	E		○				
79	3	E	○					
80	3	E				○		
81	3	E		○				
82	3	E	○					
83	3	E				○		
84	3	D		○				
85	3	D		○				
86	3	D				○		
87	3	D		○				
88	3	D	○					
89	3	D		○				
90	3	D		○				
91	3	D		○				
92	3	D		○				
93	3	D		○				
94	3	C				○		
95	3	C		○				
96	3	C	○					
97	3	C		○				
98	4	C						○
99	5	C	○					
100	5	C		○				
101	2	S	○					

17 64 17 2 0 1

3. アンケート

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

1. 深まった
2. やや深まった
3. あまり深まらなかった
4. 深まらなかった

学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	1	E	○			
2	2	M	○			
3	2	M		○		
4	2	M	○			
5	2	M		○		
6	2	M		○		
7	2	M		○		
8	2	M		○		
9	2	M		○		
10	2	M	○			
11	2	M		○		
12	2	M			○	
13	2	M	○			
14	2	M		○		
15	2	M			○	
16	2	M		○		
17	2	M	○			
18	2	M		○		
19	2	M	○			
20	2	M		○		
21	2	M			○	
22	2	M		○		
23	2	M		○		
24	2	M		○		
25	2	M		○		
26	2	M		○		
27	2	M		○		
28	2	E		○		
29	2	E		○		
30	2	E	○			
31	2	E			○	
32	2	E		○		
33	2	E			○	
34	2	D		○		
35	2	D		○		
36	2	D		○		
37	2	D		○		
38	2	D		○		
39	2	D		○		
40	2	D			○	
41	2	D		○		
42	2	D		○		
43	2	C		○		
44	2	C		○		
45	2	C	○			
46	2	C	○			
47	2	C	○			

48	2	C		○			
49	2	C		○			
50	2	C		○			
51	2	C				○	
52	2	C		○			
53	2	C		○			
54	2	C				○	
55	2	C		○			
56	2	C		○			
57	2	C		○			
58	2	C	○				
59	2	C		○			
60	2	A		○			
61	2	A	○				
62	2	A	○				
63	2	A	○				
64	3	M	○				
65	3	M		○			
66	3	M		○			
67	3	M	○				
68	3	M	○				
69	3	M		○			
70	3	M	○				
71	3	M		○			
72	3	E		○			
73	3	E	○				
74	3	E		○			
75	3	E	○				
76	3	E		○			
77	3	E			○		
78	3	E		○			
79	3	E	○				
80	3	E				○	
81	3	E		○			
82	3	E	○				
83	3	E		○			
84	3	D		○			
85	3	D		○			
86	3	D		○			
87	3	D		○			
88	3	D		○			
89	3	D		○			
90	3	D		○			
91	3	D		○			
92	3	D		○			
93	3	D	○				
94	3	C			○		
95	3	C		○			
96	3	C		○			
97	3	C		○			
98	4	C					○
99	5	C	○				
100	5	C	○				
101	2	S	○				

27 62 8 3 1

3. アンケート

Q4. 本日の講演を聴いて、「医工連携」への興味や関心が高まりましたか？

1. 大いに高まった
2. やや高まった
3. どちらともいえない
4. あまり高まらなかった
5. ほとんど高まらなかった

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	未記入
1	1	E		○			
2	2	M		○			
3	2	M		○			
4	2	M		○			
5	2	M		○			
6	2	M		○			
7	2	M		○			
8	2	M		○			
9	2	M		○			
10	2	M	○				
11	2	M		○			
12	2	M		○			
13	2	M	○				
14	2	M		○			
15	2	M				○	
16	2	M		○			
17	2	M	○				
18	2	M		○			
19	2	M		○			
20	2	M		○			
21	2	M				○	
22	2	M		○			
23	2	M		○			
24	2	M		○			
25	2	M		○			
26	2	M		○			
27	2	M		○			
28	2	E		○			
29	2	E		○			
30	2	E		○			
31	2	E			○		
32	2	E		○			
33	2	E		○			
34	2	D		○			
35	2	D		○			
36	2	D		○			
37	2	D		○			
38	2	D		○			
39	2	D		○			
40	2	D		○			
41	2	D		○			
42	2	D		○			
43	2	C		○			
44	2	C		○			
45	2	C					○
46	2	C		○			

47	2	C	○					
48	2	C		○				
49	2	C		○				
50	2	C			○			
51	2	C					○	
52	2	C			○			
53	2	C		○				
54	2	C					○	
55	2	C				○		
56	2	C		○				
57	2	C			○			
58	2	C	○					
59	2	C			○			
60	2	A			○			
61	2	A			○			
62	2	A		○				
63	2	A	○					
64	3	M	○					
65	3	M			○			
66	3	M		○				
67	3	M	○					
68	3	M				○		
69	3	M		○				
70	3	M	○					
71	3	M			○			
72	3	E		○				
73	3	E	○					
74	3	E		○				
75	3	E	○					
76	3	E				○		
77	3	E					○	
78	3	E		○				
79	3	E	○					
80	3	E			○			
81	3	E			○			
82	3	E	○					
83	3	E		○				
84	3	D		○				
85	3	D		○				
86	3	D		○				
87	3	D		○				
88	3	D		○				
89	3	D			○			
90	3	D		○				
91	3	D			○			
92	3	D		○				
93	3	D	○					
94	3	C	○					
95	3	C			○			
96	3	C		○				
97	3	C		○				
98	4	C						○
99	5	C	○					
100	5	C			○			
101	2	S		○				

16 43 31 4 5 2

3. アンケート

Q5. 鳥取大学の医科学専攻への進学も、進路の選択肢として考えてみようと思いましたが？

1. 思った
2. 少し思った
3. あまり思わなかった
4. 思わなかった

学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	1	E		○		
2	2	M			○	
3	2	M		○		
4	2	M		○		
5	2	M			○	
6	2	M			○	
7	2	M				○
8	2	M				○
9	2	M		○		
10	2	M	○			
11	2	M		○		
12	2	M			○	
13	2	M	○			
14	2	M				○
15	2	M				○
16	2	M			○	
17	2	M		○		
18	2	M		○		
19	2	M		○		
20	2	M			○	
21	2	M			○	
22	2	M		○		
23	2	M			○	
24	2	M			○	
25	2	M		○		
26	2	M		○		
27	2	M			○	
28	2	E				○
29	2	E		○		
30	2	E			○	
31	2	E			○	
32	2	E		○		
33	2	E				○
34	2	D				○
35	2	D	○			
36	2	D				○
37	2	D		○		
38	2	D				○
39	2	D		○		
40	2	D			○	
41	2	D			○	
42	2	D			○	
43	2	C		○		
44	2	C			○	
45	2	C		○		
46	2	C	○			
47	2	C		○		
48	2	C		○		
49	2	C			○	
50	2	C			○	
51	2	C				○
52	2	C		○		
53	2	C		○		

54	2	C		○			
55	2	C			○		
56	2	C		○			
57	2	C				○	
58	2	C	○				
59	2	C			○		
60	2	A			○		
61	2	A				○	
62	2	A		○			
63	2	A	○				
64	3	M		○			
65	3	M				○	
66	3	M		○			
67	3	M	○				
68	3	M				○	
69	3	M			○		
70	3	M		○			
71	3	M				○	
72	3	E		○			
73	3	E		○			
74	3	E			○		
75	3	E	○				
76	3	E				○	
77	3	E				○	
78	3	E	○				
79	3	E	○				
80	3	E			○		
81	3	E			○		
82	3	E		○			
83	3	E			○		
84	3	D		○			
85	3	D		○			
86	3	D			○		
87	3	D		○			
88	3	D		○			
89	3	D			○		
90	3	D		○			
91	3	D		○			
92	3	D		○			
93	3	D		○			
94	3	C		○			
95	3	C			○		
96	3	C		○			
97	3	C		○			
98	4	C					○
99	5	C			○		
100	5	C			○		
101	2	S			○		
			10	41	32	17	1

3. アンケート

Q6. 自分の将来の進路の一つに、「研究者（大学教員等）」も考えてみようと思いましたか？

1. 思った
2. 少し思った
3. あまり思わなかった
4. 思わなかった

学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	1	E		○		
2	2	M			○	
3	2	M		○		
4	2	M		○		
5	2	M		○		
6	2	M		○		
7	2	M			○	
8	2	M		○		
9	2	M		○		
10	2	M	○			
11	2	M			○	
12	2	M		○		
13	2	M		○		
14	2	M			○	
15	2	M		○		
16	2	M		○		
17	2	M		○		
18	2	M		○		
19	2	M		○		
20	2	M		○		
21	2	M		○		
22	2	M	○			
23	2	M		○		
24	2	M		○		
25	2	M		○		
26	2	M		○		
27	2	M		○		
28	2	E			○	
29	2	E		○		
30	2	E		○		
31	2	E		○		
32	2	E		○		
33	2	E			○	
34	2	D			○	
35	2	D	○			
36	2	D		○		
37	2	D		○		
38	2	D			○	
39	2	D		○		
40	2	D		○		
41	2	D		○		
42	2	D		○		
43	2	C		○		
44	2	C		○		
45	2	C		○		
46	2	C	○			
47	2	C		○		
48	2	C		○		
49	2	C			○	
50	2	C			○	
51	2	C			○	
52	2	C			○	
53	2	C		○		

54	2	C				○	
55	2	C		○			
56	2	C		○			
57	2	C			○		
58	2	C	○				
59	2	C			○		
60	2	A		○			
61	2	A					○
62	2	A		○			
63	2	A	○				
64	3	M	○				
65	3	M			○		
66	3	M		○			
67	3	M			○		
68	3	M		○			
69	3	M			○		
70	3	M					○
71	3	M				○	
72	3	E			○		
73	3	E			○		
74	3	E			○		
75	3	E	○				
76	3	E				○	
77	3	E				○	
78	3	E		○			
79	3	E		○			
80	3	E			○		
81	3	E			○		
82	3	E		○			
83	3	E				○	
84	3	D			○		
85	3	D		○			
86	3	D			○		
87	3	D	○				
88	3	D		○			
89	3	D			○		
90	3	D			○		
91	3	D		○			
92	3	D		○			
93	3	D			○		
94	3	C		○			
95	3	C		○			
96	3	C		○			
97	3	C		○			
98	4	C					○
99	5	C		○			
100	5	C		○			
101	2	S					○
			9	40	33	15	4

3. アンケート

Q7. 本日の講演内容は今後役に立ちそうですか？

1. 役立ちそう
2. やや役立ちそう
3. あまり役立たない
4. 全く役立たない

	学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	1	E	○				
2	2	M		○			
3	2	M		○			
4	2	M	○				
5	2	M	○				
6	2	M		○			
7	2	M	○				
8	2	M		○			
9	2	M		○			
10	2	M	○				
11	2	M		○			
12	2	M			○		
13	2	M	○				
14	2	M			○		
15	2	M				○	
16	2	M		○			
17	2	M	○				
18	2	M		○			
19	2	M		○			
20	2	M		○			
21	2	M			○		
22	2	M		○			
23	2	M		○			
24	2	M		○			
25	2	M		○			
26	2	M	○				
27	2	M		○			
28	2	E		○			
29	2	E		○			
30	2	E		○			
31	2	E	○				
32	2	E		○			
33	2	E		○			
34	2	D		○			
35	2	D	○				
36	2	D			○		
37	2	D		○			
38	2	D		○			
39	2	D		○			
40	2	D		○			
41	2	D		○			
42	2	D		○			
43	2	C		○			
44	2	C		○			
45	2	C		○			
46	2	C		○			
47	2	C	○				
48	2	C		○			

49	2	C	○					
50	2	C		○				
51	2	C	○					
52	2	C		○				
53	2	C		○				
54	2	C		○				
55	2	C	○					
56	2	C		○				
57	2	C		○				
58	2	C	○					
59	2	C		○				
60	2	A		○				
61	2	A			○			
62	2	A		○				
63	2	A	○					
64	3	M		○				
65	3	M			○			
66	3	M	○					
67	3	M		○				
68	3	M		○				
69	3	M		○				
70	3	M		○				
71	3	M		○				
72	3	E		○				
73	3	E		○				
74	3	E		○				
75	3	E	○					
76	3	E		○				
77	3	E			○			
78	3	E			○			
79	3	E		○				
80	3	E			○			
81	3	E		○				
82	3	E		○				
83	3	E		○				
84	3	D	○					
85	3	D		○				
86	3	D		○				
87	3	D		○				
88	3	D		○				
89	3	D		○				
90	3	D		○				
91	3	D	○					
92	3	D		○				
93	3	D		○				
94	3	C		○				
95	3	C		○				
96	3	C		○				
97	3	C		○				
98	4	C						○
99	5	C	○					
100	5	C		○				
101	2	S	○					

22 68 9 1 1

3. アンケート

Q8. あなたにとって「リベラルアーツ（教養）」とは何ですか？（複数回答可）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 豊かな心 | 6. 他人に対するマナー |
| 2. 幅広い知識 | 7. 物事を批判的にとらえる能力 |
| 3. 文化・芸術への理解 | 8. 問題解決能力 |
| 4. 知的好奇心 | 9. 地域の理解 |
| 5. 社会常識 | 10. その他（ ） |

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10. ()	未記入
1	E		○			○			○			
2	M	○										
3	M		○									
4	M		○	○	○	○			○			
5	M		○		○	○						
6	M	○	○		○	○	○		○			
7	M										○	
8	M		○		○				○			
9	M	○	○			○		○	○			
10	M	○	○	○	○							
11	M		○						○			
12	M		○		○							
13	M		○									
14	M	○	○					○				
15	M		○		○							
16	M	○	○	○	○							
17	M	○	○	○								
18	M		○		○							
19	M		○		○				○			
20	M	○	○									
21	M				○							
22	M					○						
23	M	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
24	M	○	○	○		○			○			
25	M					○						
26	M					○						
27	M		○		○	○						
28	E				○	○						
29	E	○	○		○							
30	E		○		○				○			
31	E	○										
32	E		○									
33	E	○										
34	D		○		○	○						
35	D		○									
36	D					○	○		○			
37	D	○	○	○		○						
38	D		○									
39	D		○		○	○						
40	D		○									
41	D		○									
42	D	○	○					○	○			
43	C	○	○									
44	C		○		○							
45	C				○							
46	C		○	○	○	○	○					
47	C		○									
48	C		○									
49	C			○	○							
50	C	○	○	○	○						○	本を読む
51	C										○	分からない
52	C		○	○	○							

2019年度・第4回

リベラルアーツ講演会

本校では、技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、国際・経営などに関する講演会や講座等を開催しています。誰でも受講できますので、当日会場にお集まりください。

日時：2020年2月14日（金）
12時50分～（5・6限）

会場：合同講義室

演題：
「科学者たちが残した言葉を読む」

講師：
東京工業大学
リベラルアーツ研究教育院講師
多久和 理実 氏

主催：米子高専リベラルアーツセンター

「リベラルアーツ講演会」(2020年2月14日): 出席カード&アンケート

「科学者たちが残した言葉を読む」

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院講師 多久和 理実 氏

学科: M・E・D・C・A・S 学年: [] 年 学籍番号: [] 名前: []

1. 本日の講演内容を要約してください。

2. 本日の講演を聴いて、質問・意見・感想などを書いてください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか? (複数回答可)

1. 講演内容に興味があったから 2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから 4. 友人が参加するから 5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから 7. その他 ()

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか?

1. よく理解できた 2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった

理由:)

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか?

1. 深まった 2. やや深まった 3. あまり深まらなかった 4. 深まらなかった

理由:)

Q4. 本日の講演内容は今後役に立ちそうですか?

1. 役立ちそう 2. やや役立ちそう 3. あまり役立たない 4. 全く役立たない

理由:)

Q5. 自分の将来の進路の一つに、「研究者(大学教員等)」も考えてみようと思いませんか?

1. 思った 2. 少し思った 3. あまり思わなかった 4. 思わなかった

Q6. あなたにとって「リベラルアーツ(教養)」とは何ですか? (複数回答可)

1. 豊かな心 2. 幅広い知識 3. 文化・芸術への理解 4. 知的好奇心
5. 社会常識 6. 他人に対するマナー 7. 物事を批判的にとらえる能力
8. 問題解決能力 9. 地域の理解 10. その他 ()

講演会終了後、提出してください。

3. アンケート

Q1. 本日の講演会に参加した理由は何ですか？（複数回答可）

1. 講演内容に興味があったから
2. 教養を深めようと思ったから
3. 幅広い知識を得たいから
4. 友人が参加するから
5. 先生に勧められたから
6. 成績に加点されるから
7. その他

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	未記入
1	1	M	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
2	1	M					<input type="radio"/>		
3	1	M	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
4	1	M			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
5	1	M			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
6	1	M			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
7	1	E					<input type="radio"/>		
8	1	E		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
9	1	E	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
10	1	E	<input type="radio"/>						
11	1	E	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
12	1	E					<input type="radio"/>		
13	1	D	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				
14	1	D			<input type="radio"/>				
15	1	D					<input type="radio"/>		
16	1	D				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
17	1	D			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
18	1	D			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
19	2	E	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
20	2	E					<input type="radio"/>		
21	2	E		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
22	2	D				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
23	2	D		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
24	2	M					<input type="radio"/>		
25	2	M		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
26	2	M				<input type="radio"/>			
27	2	M					<input type="radio"/>		
28	2	M	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		
29	2	M					<input type="radio"/>		
30	2	M	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
31	2	M					<input type="radio"/>		

32	2	M	○								
33	2	M					○	○			
34	2	M				○		○			
35	2	M			○	○					
36	2	M		○		○		○			
37	2	M			○						
38	2	M				○	○	○			
39	2	M						○			
40	2	M	○	○	○		○	○			
41	2	M		○	○						
42	2	M						○			
43	3	E						○			
44	3	E		○		○					
45	3	E						○			
46	3	E						○			
47	3	E				○		○			
48	3	E						○			
49	3	E						○			
50	3	D			○						
51	3	D			○			○			
52	3	D	○	○	○	○	○	○			
53	3	D				○					
54	3	D	○			○		○			
55	3	D	○					○			
56	3	D	○			○					
57	3	D						○			
58	3	D	○	○							
59	3	D	○					○			
60	3	D				○					
61	3	D	○	○	○			○			
62	3	D	○								
63	3	D	○								
64	3	C						○			
65	3	C						○			
66	3	C				○		○			
67	4	E			○						
68	4	E				○		○			
69	4	D	○				○				
70	4	D		○	○	○	○	○			
71	4	C	○								
				22	13	15	19	13	46	1	0

3. アンケート

Q2. 本日の講演内容は理解できましたか？

1. よく理解できた
2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった
4. 全く理解できなかった

	学年	学科	1.	2.	3.	4.	理由	未記入
1	1	M		○				
2	1	M	○					
3	1	M		○				
4	1	M		○				
5	1	M		○				
6	1	M		○				
7	1	E		○				
8	1	E		○				
9	1	E	○					
10	1	E	○					
11	1	E	○					
12	1	E		○				
13	1	D		○				
14	1	D		○				
15	1	D		○				
16	1	D		○				
17	1	D		○				
18	1	D		○				
19	2	E	○					
20	2	E		○				
21	2	E			○			
22	2	D		○				
23	2	D		○				
24	2	M		○				
25	2	M		○				
26	2	M		○				
27	2	M		○				
28	2	M	○					
29	2	M	○					
30	2	M	○					
31	2	M		○				
32	2	M	○					
33	2	M			○			

34	2	M	○					
35	2	M		○				
36	2	M		○				
37	2	M		○				
38	2	M		○				
39	2	M	○					
40	2	M		○				
41	2	M	○					
42	2	M		○				
43	3	E		○				
44	3	E		○				
45	3	E		○				
46	3	E	○					
47	3	E	○					
48	3	E		○				
49	3	E		○				
50	3	D		○				
51	3	D		○				
52	3	D		○				
53	3	D		○				
54	3	D		○				
55	3	D	○					
56	3	D		○				
57	3	D		○				
58	3	D		○				
59	3	D	○					
60	3	D		○				
61	3	D		○				
62	3	D	○					
63	3	D		○				
64	3	C		○				
65	3	C	○					
66	3	C		○				
67	4	E		○				
68	4	E	○					
69	4	D		○				
70	4	D		○				
71	4	C	○					
			20	49	2	0	0	0

3. アンケート

Q3. 本日の講演内容について興味・関心は深まりましたか？

1. 深まった
2. やや深まった
3. あまり深まらなかった
4. 深まらなかった

	学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	1	M		○			
2	1	M	○				
3	1	M		○			
4	1	M	○				
5	1	M	○				
6	1	M		○			
7	1	E		○			
8	1	E		○			
9	1	E	○				
10	1	E	○				
11	1	E		○			
12	1	E		○			
13	1	D		○			
14	1	D		○			
15	1	D	○				
16	1	D		○			
17	1	D		○			
18	1	D		○			
19	2	E		○			
20	2	E		○			
21	2	E		○			
22	2	D		○			
23	2	D		○			
24	2	M		○			
25	2	M	○				
26	2	M		○			
27	2	M			○		
28	2	M		○			
29	2	M		○			
30	2	M	○				
31	2	M	○				
32	2	M	○				
33	2	M	○				
34	2	M	○				

35	2	M		○			
36	2	M		○			
37	2	M	○				
38	2	M	○				
39	2	M	○				
40	2	M	○				
41	2	M		○			
42	2	M		○			
43	3	E		○			
44	3	E		○			
45	3	E		○			
46	3	E	○				
47	3	E		○			
48	3	E		○			
49	3	E		○			
50	3	D		○			
51	3	D		○			
52	3	D		○			
53	3	D		○			
54	3	D		○			
55	3	D	○				
56	3	D		○			
57	3	D		○			
58	3	D	○				
59	3	D		○			
60	3	D		○			
61	3	D	○				
62	3	D	○				
63	3	D		○			
64	3	C		○			
65	3	C	○				
66	3	C		○			
67	4	E		○			
68	4	E		○			
69	4	D	○				
70	4	D		○			
71	4	C	○				
			24	46	1	0	0

3. アンケート

Q4. 本日の講演内容は今後役に立ちそうですか？

1. 役立ちそう
2. やや役立ちそう
3. あまり役立たない
4. 全く役立たない

	学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	未記入
1	1	M			○			
2	1	M			○			
3	1	M	○					
4	1	M	○					
5	1	M		○				
6	1	M		○				
7	1	E		○				
8	1	E	○					
9	1	E	○					
10	1	E	○					
11	1	E	○					
12	1	E		○				
13	1	D		○				
14	1	D		○				
15	1	D		○				
16	1	D		○				
17	1	D		○				
18	1	D		○				
19	2	E		○				
20	2	E		○				
21	2	E			○			
22	2	D		○				
23	2	D		○				
24	2	M		○				
25	2	M		○				
26	2	M		○				
27	2	M			○			
28	2	M	○					
29	2	M		○				
30	2	M	○					
31	2	M	○					
32	2	M	○					
33	2	M	○					

34	2	M				○		
35	2	M		○				
36	2	M			○			
37	2	M	○					
38	2	M		○				
39	2	M		○				
40	2	M		○				
41	2	M		○				
42	2	M		○				
43	3	E		○				
44	3	E		○				
45	3	E		○				
46	3	E	○					
47	3	E		○				
48	3	E		○				
49	3	E		○				
50	3	D		○				
51	3	D	○					
52	3	D		○				
53	3	D		○				
54	3	D		○				
55	3	D	○					
56	3	D		○				
57	3	D			○			
58	3	D		○				
59	3	D	○					
60	3	D		○				
61	3	D	○					
62	3	D	○					
63	3	D			○			
64	3	C		○				
65	3	C	○					
66	3	C		○				
67	4	E		○				
68	4	E		○				
69	4	D		○				
70	4	D		○				
71	4	C	○					
			20	43	7	1	0	

3. アンケート

Q5. 自分の将来の進路の一つに、「研究者（大学教員等）」も考えてみようと思いましたか？

1. 思った
2. 少し思った
3. あまり思わなかった
4. 思わなかった

	学年	学科	1.	2.	3.	4.	未記入
1	1	M				○	
2	1	M			○		
3	1	M		○			
4	1	M		○			
5	1	M		○			
6	1	M	○				
7	1	E			○		
8	1	E		○			
9	1	E	○				
10	1	E			○		
11	1	E	○				
12	1	E		○			
13	1	D			○		
14	1	D		○			
15	1	D			○		
16	1	D		○			
17	1	D					○
18	1	D		○			
19	2	E		○			
20	2	E		○			
21	2	E				○	
22	2	D			○		
23	2	D		○			
24	2	M		○			
25	2	M		○			
26	2	M			○		
27	2	M				○	
28	2	M		○			
29	2	M		○			
30	2	M	○				
31	2	M		○			
32	2	M	○				
33	2	M		○			
34	2	M				○	
35	2	M		○			

36	2	M				○	
37	2	M			○		
38	2	M			○		
39	2	M	○				
40	2	M	○				
41	2	M			○		
42	2	M		○			
43	3	E		○			
44	3	E		○			
45	3	E		○			
46	3	E			○		
47	3	E		○			
48	3	E			○		
49	3	E			○		
50	3	D				○	
51	3	D		○			
52	3	D			○		
53	3	D				○	
54	3	D		○			
55	3	D	○				
56	3	D		○			
57	3	D			○		
58	3	D		○			
59	3	D				○	
60	3	D			○		
61	3	D		○			
62	3	D		○			
63	3	D				○	
64	3	C		○			
65	3	C		○			
66	3	C		○			
67	4	E		○			
68	4	E		○			
69	4	D		○			
70	4	D		○			
71	4	C	○				
			9	36	16	9	1

3. アンケート

Q6. あなたにとって「リベラルアーツ（教養）」とは何ですか？（複数回答可）

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. 豊かな心 | 6. 他人に対するマナー |
| 2. 幅広い知識 | 7. 物事を批判的にとらえる能力 |
| 3. 文化・芸術への理解 | 8. 問題解決能力 |
| 4. 知的好奇心 | 9. 地域の理解 |
| 5. 社会常識 | 10. その他（ ） |

学年	学科	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	()	未記入
1	1	M							○				
2	1	M		○		○							
3	1	M		○		○							
4	1	M		○		○							
5	1	M		○					○				
6	1	M		○		○	○		○				
7	1	E	○	○		○							
8	1	E		○									
9	1	E		○		○							
10	1	E		○		○	○			○			
11	1	E		○		○							
12	1	E		○		○							
13	1	D				○							
14	1	D				○							
15	1	D		○		○			○				
16	1	D		○		○				○			
17	1	D		○	○				○	○			
18	1	D		○		○							
19	2	E		○	○			○					
20	2	E		○									
21	2	E			○	○							
22	2	D		○									
23	2	D		○	○	○			○	○			
24	2	M		○									
25	2	M					○	○					
26	2	M		○							○		
27	2	M	○	○	○	○	○	○	○	○			
28	2	M											○
29	2	M		○									
30	2	M	○	○	○		○						
31	2	M				○							
32	2	M		○		○							
33	2	M		○		○							

34	2	M	○	○		○							
35	2	M		○		○							
36	2	M	○	○									
37	2	M		○	○		○		○	○			
38	2	M	○		○	○							
39	2	M		○				○					
40	2	M	○	○	○	○	○				○		
41	2	M	○	○									
42	2	M		○									
43	3	E				○							
44	3	E		○	○	○	○				○		
45	3	E				○				○			
46	3	E		○									
47	3	E		○									
48	3	E		○							○		
49	3	E		○								○	
50	3	D		○									
51	3	D	○	○		○	○			○			
52	3	D	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
53	3	D					○						
54	3	D		○			○	○					
55	3	D	○					○			○		
56	3	D		○		○							
57	3	D	○										
58	3	D	○	○	○	○				○			
59	3	D		○		○							
60	3	D	○	○									
61	3	D	○	○		○			○	○			
62	3	D	○										
63	3	D		○	○								
64	3	C	○										
65	3	C		○			○			○			
66	3	C		○		○							
67	4	E		○		○			○				
68	4	E	○	○			○	○					
69	4	D		○	○	○							
70	4	D		○	○	○							
71	4	C		○		○	○				○		

18 56 15 38 15 10 13 13 3 1

(3) リベラルアーツ特別講演

2018年5月8日(火)10時30分～12時に合同講義室で、ブラウン大学地球環境惑星科学科上級研究員の廣井孝弘氏による「はやぶさ・はやぶさ2と宇宙創成の神秘」の講演を、5M・5E・4M・4E・3Cの学生を対象に行いました。



2018年11月9日(金)12時50分～14時20分にアカデミックシアターで、日本政策投資銀行松江事務所長の上定昭仁氏による「故郷への恩返しを胸に ～故郷を離れ故郷を知る～」の講演を、3D・2E・2Dの学生が聴きました。



(4) リベラルアーツ談話会

本談話会では、深い趣味を持つ学生を講師とし、趣味の話題について講演してもらいます。その後、教員がその話題を時事問題や社会問題などと関連づけて発展させ、講演を聞きに来た学生の皆さんに議論してもらいます。その目的は、何か結論を出すことではなく、様々な視点や立場があることを認識し、問題意識を共有してもらうことです。

2017年度の学生の満足度は98%でした。

2018年度の学生の満足度は97%でした。

2019年度、第8回は、4年機械工学科の横山裕也君に有名なスポーツカーである日産スカイラインGT-Rを紹介してもらい、どんなスポーツカー（広い意味では製品）がユーザーから支持されるかということについて議論しました。第9回は、5年物質工学科の杉本メグさんに映画のゴジラが時代の世相を映す鏡になっていることを紹介してもらいました。参加した学生の皆さんの満足度は非常に高く、両方とも100%でした。さらに、両方とも講師は自ら立候補してくれました。

回	開催日	講師	演題
第1回	2017年5月31日(水)	4M 小原 海斗	「京阪電車の魅力について」
第2回	2017年6月21日(水)	5M 塚田亮太郎	「写真の魅力（飛行機を通して）」
第3回	2017年7月25日(火)	5E 永井 俊一	「戦艦が残した教訓 大艦巨砲主義の呪縛」
第4回	2017年12月14日(木)	5E 西尾 有輝	「数学者ガウスの光と影 巧遅は拙速に如かず？」
第5回	2018年4月24日(水)	1S 宅野 将司	「弱者が強者に勝つには？ 軍事から学ぶランチェスター経営戦略とは？」
第6回	2018年11月19日(月)	5D 小牧 遼太	「あなたの常識は正しいか？ —ゲーテルの不完全性定理とは？」
第7回	2018年12月17日(月)	5D 高津こなつ	「本当の私は誰？ —小説描写の変遷で見るペルソナ」
第8回	2019年5月27日(月)	4M 横山 裕也	「伝説のスポーツカー 日産スカイラインGT-R」
第9回	2019年7月19日(金)	5C 杉本 メグ	「ゴジラは私達に何を語るか？」



(5) 研究会／講演会

当センターで研究会を随時開催し、高専リベラルアーツとは何かについて探求しました(出入り自由)。

回	年月日	内容
第1回	2016年4月7日	リベラルアーツセンター設立式について、「リベラルアーツ」とは何かについて議論
第2回	2016年5月6日	「リベラルアーツ」とは何か、各科推薦のリベラルアーツ図書について議論
第3回	2016年5月21日(リベラルアーツセンター設立式)	高専におけるリベラルアーツとは何かについて議論
第4回	2016年7月7日	リベラルアーツ研究費獲得に向けて、リベラルアーツ研究のテーマについて議論(ワークショップ)
第5回	2016年7月28日	前回のワークショップのまとめについて、今後の研究の進め方について議論

外部講師を招いた講演会も開催し、議論を深めました。

第1回：2017年3月1日(水)に鳥取大学医学部保健学科の安藤泰至准教授(宗教学)を講師に開催。



(6) 高専リベラルアーツ教育研究会

高専におけるリベラルアーツ教育のあり方やカリキュラムなどについて講師を招いた研究会を開催しました。

【2017年度】

回	開催日	講師・演題	参加者数
第1回	2017年12月15日(金)	中永 廣樹・日本海情報ビジネス専門学校校長（本校非常勤講師、元・鳥取県教育長） 「教養とは何か、教養はなぜ必要か」	教職員 12名
第2回	2018年1月29日(月)	近藤 賢・株式会社リアセック取締役COO 「ジェネリックスキル測定・育成ツール「PROG」のご案内」	教職員 11名
第3回	2018年3月9日(金)	渡部 容子・近畿大学教授（元・鳥取短期大学教授） 「工業高校・専門学校・高専・大学の理系学部等の意義・実態・接続関係と「教養教育」について」	教職員 9名



【2018年度】

回	開催日	講師・演題	参加者数
第1回	2018年11月20日(火)	原 豊二/ノートルダム清心女子大学 文学部准教授(元本校教員) 「揺れ動く「リベラルアーツ」教育」	教職員5名
第2回	2018年12月13日(火)	宮重 徹也/富山高専国際ビジネス学科 教授 「国際ビジネス学科」に関する座談 会」	教職員9名



【2019年度】

回	開催日	講師／演題	参加者数
第1回	2019年10月7日(月)	米子高専・鈴鹿高専名誉教授 齊藤 正美氏 「グローバル化社会の技術者に求め られる創造性とは」	教職員等20名
第2回	2020年1月16日(木)	㈱NTT データユニバーシティ取締役 角 正樹氏 「技術者・研究者に求められるリベラ ルアーツ 「ビッグデータ」情報の集 め方と活かし方」	教職員等17名

第1回は、本校元校長の齊藤正美名誉教授による講演で、副題は「高専におけるリベラ

ルアーツ教育研究の方向性を考える」というものでした。グローバル化社会の技術者には、深い科学技術の知識の他、特に職業人としての教養と美意識及びアート観に裏打ちされた創造性が求められると述べられました。中永・元鳥取県教育長や永井・今井書店グループ相談役、熊谷・本校名誉教授らにもご参加いただき、講演後引き続き議論が交わされました。



第2回は、本校卒業生でNTTデータユニバーシティ取締役の角正樹氏による講演に始まり、その内容を題材に参加者が自由に意見を出し合う形で進められました。今後、高専教育でも重要性が増すビッグデータ、データ分析の着眼点から、高専卒の技術者の長・短所とリベラルアーツの必要性、技術や研究でいかに自らの枠を広げるかにまで話が及び、熱心な話し合いが展開されました。終了後、研究会の内容を学生も聴けるようにしてほしい、校内外のもっと多くの人に参加できる機会があれば良いという意見もあり、このような議論の継続とその成果の高専教育への実装が期待されます。



(7) 高専リベラルアーツ教育研究交流会

第1回を本校と津山高専の共催で、2017年12月26日(火)に津山高専で開催しました。下記の7件の講演・発表が行われ、有意義な会となりました。全国の高専にも呼び掛け、鶴岡、和歌山、呉、弓削、神戸からの参加がありました(参加者26名)。

【講演・発表プログラム】

佐藤 誠 (津山高専総合理工学科) 「津山高専における1学年物理教育」

小林 玉青 (米子高専教養教育科) 「専門学科との連携による物理実験の充実」

松田 修 (津山高専総合理工学科) 「AI時代に向けて直観力を重視し発想力を育成する
数学教育指導法について」

荒木 祥一 (津山高専総合理工学科) 「高等専門学校における教養教育としての体育の役割」

石原のり子 (神戸高専一般科) 講演: 「教養教育の拡充を目指した神戸高専一般科の取り組み」

竹内 彰継 (米子高専教養教育科) 「米子高専のリベラルアーツ談話会の紹介」

青砥 正彦 (米子高専教養教育科) 「各種検定の単位化による教養教育の充実について」



2017年度、津山高専で第1回を開催し、2018年度は米子で第2回を開催しました。2019年3月8日（金）に米子コンベンションセンターで、今回新たに松江高専・呉高専にご参加いただき、下記のプログラムで行い、参加者は17名でした。

【基調講演】

米子高専・校長 氷室 昭三「高専教育におけるリベラルアーツについて」

【各高専からの現状報告・意見交換】

- | | | |
|-------|---------------|-------|
| ①津山高専 | 教養教育推進室長 | 吉田 英治 |
| ②松江高専 | 人文科学科長・数理科学科長 | 森山 恭行 |
| ③呉 高専 | 人文社会系分野代表 | 木原 滋哉 |
| ④米子高専 | 教養教育科長 | 竹内 彰継 |

【研究発表】

- ①「津山高専総合理工学科への改組と英語カリキュラム改訂」
山口 裕美（津山高専・総合理工学科（電気電子システム系）准教授）
- ②「松江高専学生の学習特性とそれに対応した学習支援について」
森田 正利（松江高専・学生相談室長、人文科学科教授）
- ③「リベラルアーツとアクティブ・ラーニング」
木原 滋哉（呉高専・人文社会系分野教授）
- ④「米子高専の教養向上の取り組み
— “KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」 —
布施 圭司（米子高専・リベラルアーツセンター長、教養教育科教授）

各高専からの現状報告・意見交換によって共通点や異なる点、独自の課題解決の取り組みなどを知ることができました。研究発表も各高専から1件ずつお願いし、有意義な会となりました。

参加者の主な感想・意見を紹介します。「他校の現状と実例が参考になった」、「自校の教育について振り返る機会になった」、「情報を共有することは大切だと再確認した」、「意見交換の時間を積極的に設けるとよいのでは」、「具体的な授業の工夫などに関する発表がもっとあればよいと思う」、「教科・科目ごとの交流・情報交換に（あまり交流がない教科・科目について）、この交流会を活用するとよいのでは」、「工学系の専門分野の方からの意見もあれば、内容が広がっていくのでは」、「参加高専数を増やすことと、教養教育以外を担当する専門学科の教員にも参加してもらい、多くの教員にリベラルアーツの必要性を考えてもらえればよいと思う」。（順不同）



基調講演の様子



各高専からの現状報告・意見交換の様子

2017年度に津山高専で第1回を開催し、2018年度は米子で第2回を開催しました。2019年度、第3回を岡山コンベンションセンターで2019年9月13日（金）に開催し、新たに広島・徳山・宇部・大島の各高専にご参加いただき、中国地区8高専になりました。下記のプログラムで、弓削商船からもご参加いただき、参加者は18名でした。

【プログラム】

1. 開会挨拶

米子高専リベラルアーツセンター長 川邊 博

2. 交流会の概要説明

3. 中国地区8高専からの現状報告・質疑

①松江 ②津山 ③広島商船 ④呉 ⑤徳山 ⑥宇部 ⑦大島商船 ⑧米子

1) 各高専における一般科目・教養教育の現状と課題

2) 他高専への質問

3) 中国地区高専や全国高専で連携して取り組んだらよいのではないかとと思われること

4) その他

4. 講演

津山高専副校長・教務主事 藪木 登 氏

「高専卒業生に必要なリベラルアーツ」

5. 意見交換

6. 今後の交流会について

7. 閉会

※ 情報交換会

各高専（教養教育科長等）から、改組やカリキュラム改訂に伴う特色ある科目の紹介や実施上の課題などがそれぞれ報告されました。

また、津山高専の藪木教務主事から「高専卒業生に必要なリベラルアーツ」と題してご講演いただきました。

参加者からは、「なかなか知ることができない他高専の様子を知ることができて大変有意義だった」、「他高専の専門学科と一般科目の協働の様子が分かり、参考になった」という感想をいただくとともに、現状報告と情報収集にとどまらず、先進校の取り組み内容・実践事例の紹介・報告、共通する課題やポイントを絞って話し合う、「リベラルアーツとは何か」を深められる活動もあると良い、テーマ・目標の設定が重要であるといったご指摘もいただいているところです。

2020年度に次回（第4回）を中国地区8高専に新たな参加校も加え開催したいと考えております。



センター長あいさつ



各高専からの現状報告



津山高専・薮木教務主事（左）の講演

(8) 日本高専学会

①日本高専学会主催・当センター共催「第19回シンポジウム」

日本高専学会との共催により、2017年2月11日(土)にユニティ(神戸研究学園都市・大学共同利用施設)でシンポジウムを開催しました。下記の5名が発表しました。

テーマ:「リベラルアーツで学生の心に火を付けよう」

原口 治(福井高専・一般科目(英語)教授)

「高専教育と教養」

谷野 圭亮(大阪府立大学高専・一般科目(英語)講師)

「府大高専における教育用SNS "Edmodo"を利用した反転授業の実践」

加藤 博和(米子高専・教養教育科(社会)准教授)

「高専における市民性育成」

堀畑 佳宏(米子高専・教養教育科(数学)講師)

「教養と抽象化能力」

森 佳奈枝(福岡大大学院人文科学研究科・博士課程前期)

「学生に求める前に教員についての再考を」

②日本高専学会主催・当センター共催「第23回年会」

開催概要

今回のテーマは、「高専の教養教育—リベラルアーツが高専を面白くする」で、その基調講演に岩本晃代・崇城大学教授から「工業教育の将来を考える—高専・工業高校・理工系大学の独自性と連携・接続」と題して話していただきました。

高専の創設から現在も多くの実践的・創造的技術者を社会に送り続け、高く評価され、現在は海外の制度にまで影響を及ぼしていると話されました。また、教養教育は、工業教育の将来を考えるための重要な視座の一つであり、一貫教育の特色を活かした「高専の教養教育」は、工業高校や大学等、他の技術者養成の学校においても参考になることを示されました。

パネルディスカッションでは、パネリストの杉山明・津山高専教養教育推進室長に「グローバル人材育成のための教養教育」について、角正樹・NTTデータユニバーシティ取締役には卒業生・企業からの視点で、「技術者、研究者に必要とされる「人間力」～リベラルアーツの学び方、教え方～」について、布施圭司・米子高専リベラルアーツセンター長には「今後の社会と高専の教養」と題して話していただきました。また、加藤博和・副センター長からは、米子高専が2016年12月に実施した企業・大学へのアンケート調査の結果を紹介していただきました。

コーディネータから、1991(平成3)年の大綱化以降、教養教育が軽視されていること、高専における教養教育は高等教育機関としての一般教育に重きが置かれておらず、中等教

育機関としての普通教育に重きが置かれていること、2011（平成23）年の中教審答申で高専卒業生のコミュニケーション能力が期待値に比べて評価が低いことなどの問題点を指摘し、フロアとの活発な意見交換を行いました。

最後に、高度成長期の労働力不足に備えて即戦力の学生を育てるとして創設された20世紀型の高専から、21世紀型の高専をつくるには、中世以来のヨーロッパ社会の伝統の下でつくられたリベラルアーツ教育論や1950年代のアメリカでつくられたジェネラルエデュケーションの理念を超え、現代の科学論・文明論的ひろがりのもとに構築する必要があり、ジェネリックスキルを身につけさせる教育モデルをつくると結びました。



パネルディスカッション

コーディネータ：氷室昭三・米子高専校長

パネリスト：

岩本晃代・崇城大学教授

山下 哲・木更津高専教授（基礎学系（数学））

杉山 明・津山高専教養教育推進室長（総合理工学科情報システム系（国語）教授）

角 正樹・NTT データユニバーシティ取締役

布施圭司・米子高専リベラルアーツセンター長（教養教育科（社会）教授、図書館長）

司会：加藤博和・米子高専リベラルアーツセンター副センター長



(左から) コーディネータの氷室昭三・米子高専校長、パネリストの岩本教授、山下哲・木更津高専教授、杉山室長、角取締役、布施センター長

(9) その他

①「身近な植物画」展

学生の教養を高める取り組みの一環として、2017年11月7日（火）～12日（日）に図書館交流プラザで開催しました。植物画（ボタニカルアート）は、植物の標本画が起源で、できるだけ忠実に植物の特徴を描くとともに、芸術的な美を表現しようとするものです。

今後、技術者になって行くためには、文化や芸術に造詣が深いことは必須になって行くと思われます。そして技術者でなくとも、文化や芸術と無縁の生活では無味乾燥な毎日になるのではないのでしょうか。



ボタニカルアート作家のいわたさいこ氏による解説トーク

②「簿記講座」の開講

経営・ビジネスに関する知識やスキルを身につけて、経営・ビジネスにも明るい技術者になってもらいたいと考え、4・5年生を対象に、「日商簿記3級」の検定試験合格を目指した講座を開講しました。

外部講師（㈱インサイト・池田真莉香氏）による全12回（2017年12月14日～18年2月2日、16時10分～18時40分）の講座で、27名が受講しました。受講の動機は、資格取得やスキルアップ、簿記への興味などが多く、受講してみて、「全く知らない分野について学べた」、「とても新鮮に感じた」などの感想が寄せられました。実際に9名が3級（2月25日実施）を受検し、2名が合格しました。



5. “KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ

「リベラルアーツ教育」が採択

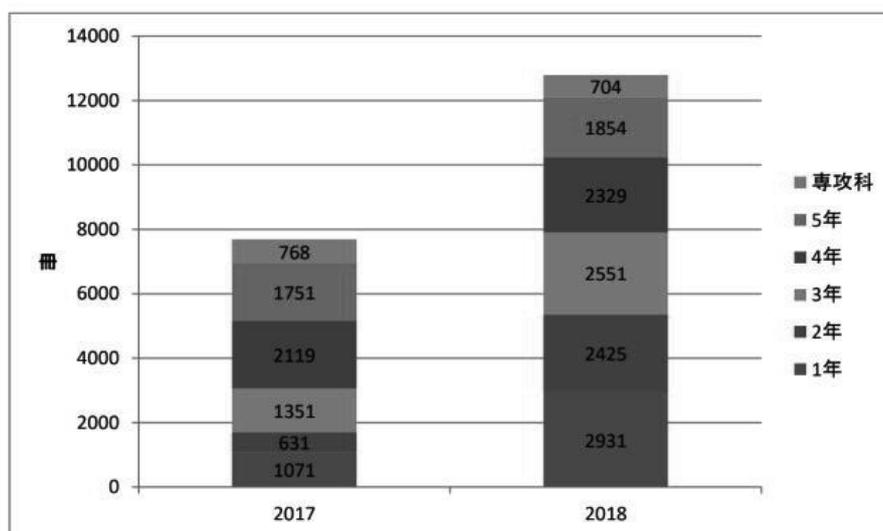
文部科学省が募集した「“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ」に、本校が応募した「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」が採択され、2017年度に講演会などを実施しました。

「リベラルアーツ教育」を推進

文部科学省が募集した「“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ」で採択されている「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」の支援を受け、引き続き2018年度も講演会、研究会や研究交流会などを実施し図書の実用も図りました。

教養の向上、図書館利用の促進のため、①各学科・科からの図書推薦、②学生からのリクエスト募集、③読書会、④ビブリオバトル、⑤全教員による「学生時代に読むとためになる本」の推薦、⑥英語科による英語書籍の多読・多聴の推進、⑦国語科・社会科・物理科による「読書カード」の導入、⑧学生寮の自学自習時間を利用した読書習慣の意識づけ、⑨新刊図書紹介方法の見直しにより、学生自身の自発的な図書館利用と自学自習機会の増大を図りました。

学生の図書貸出冊数は2017年度の7,691冊から2018年度（2月末時点）は12,794冊に増加し、“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ事業で目標としていた10,500冊を達成することができました。



学年別図書貸出冊数

注：2018年度は2018年4月～19年2月の合計

“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブによる 医工連携・リベラルアーツ教育推進のご紹介

本校では、昨年度より標記の文部科学省の競争的補助金を得て、カリキュラムの改編・充実も見据えた教育プログラムを実施しています。地域に根差した、先端的・実践的・汎用の人材の育成の取り組みをご紹介します(本校ホームページの「学校の取り組み」でも“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブについて紹介していますのでご覧ください)。

第4次産業革命対応型医工連携教育 システムの構築

医学と工学を結び付けた「医工連携教育システム」の開発により、融合複合的技術者や新産業・地元産業を牽引する人材の育成を目指しています!

〈主な取り組み〉

「医工連携・ヒューマンデザイン教育」

今年度、4年生向けに医療・介護福祉機器の開発につながる技術を学ぶ全学科共通選択科目「フロンティア工学セミナー」(学修1単位)を8月に集中講義形式で実施します。

昨年度後期には、鳥取大学医学部教員を含む外部講師による4回のトライアル講義を実演しました。



トライアル講義の様子

「数理・データサイエンス教育」

既存科目「情報リテラシ」等で、昨年度後期、試行的に単元として実施しました。今年度以降、「数理・データサイエンス教育」を組み込んだ科目に変更するよう検討を進めています。

「複合社会技術論」

専攻科1年生向けに、医工連携教育を組み入れた形で科目変更を行い、昨年度から開講しています。

〈成果・今年度の取り組み〉

学生の卒業研究・特別研究における医工連携研究テーマ数の増加

平成28年度の0件から29年度は18件(テーマ)に増加しており、今年度も継続的に取り組んでいます。

医工連携関連の外部資金の増加

平成28年度の160万円から29年度は267万円に増加しています。

今年度も、医工連携研究センターを中心に、学外に向けて医工連携研究に関する情報を継続的に発信し、地域及び産業界へ取り組みの浸透を図っています。



医工連携研究センター

新時代のジェネリックスキル養成のための リベラルアーツ教育

協調的問題解決やセルフコントロールなどのジェネリック

スキルを身につけ、世界と関わり合い地域づくりができる技術者や地域企業の国際化に寄与できる人材の育成を目指しています!

〈主な取り組み〉

「地域学」

昨年度は、既存の取り組みである「オープンファクトリー」を拡充して希望者に夏季休業期間中に実施しました。今年度から、2年生全員が参加する校外研修旅行(オープンファクトリー、10月)の中で実施します。

「経営・国際教育」

高学年の教養教育の充実を図るため、昨年度後期は、既存の「文学」・「社会科学」の単元として実施しました。

また、昨年度、全学生を対象とした「リベラルアーツ講演会」を4回開催し、経営・国際などに関するテーマの講演を聴いて理解を深めました。今年度も継続して実施していきます。



講演会の様子

〈さらなる取り組み〉

学生の図書貸出冊数の増加に向けて

教養の向上、図書館利用の促進のため、①各学科・科からの図書推薦、②学生からのリクエスト募集、③読書会、④ビブリオバトル、⑤全教員による「学生時代に読むとためになる本」の推薦、⑥英語科による英語書籍の多読・多聴の推進、⑦国語科・社会科による「読書カード」の導入、⑧学生寮の自学自習時間を利用した読書習慣の意識づけ、⑨新刊図書紹介方法の見直しにより、学生自身の自発的な図書館利用(平成28年度:8900冊、29年度:7700冊)及び自学自習機会の増大を図っています。

「放課後TOEIC講座」受講者のスコアアップに向けて

今年度、講座の開講回数を10回から12回へ、1回60分から1回75分へと拡大しています。4年生には、全員が履修する既存科目「英語総合演習」に加え、英語教育ソフトウェアを使った特別プログラムを提供(CALL教室を開放し自由に利用)し、自学自習による英語能力のさらなる向上を促しています。



リベラルアーツ図書



講座の様子

6. 広報・情報発信

(1) 『リベラルアーツセンターだより』

2016年度末に第1号を発行し、以降、毎年度末に第2号、第3号、第4号を発行しました（次ページ以降に収録）。

(2) ホームページ

リベラルアーツセンターのホームページを開設し、随時更新しています（「新着情報」のページを p.185 に掲載）

(3) 新聞記事

- ・「創造的人材育成へ／教養センターきょう設立」『日本海新聞』2016年5月21日付（渡部ちぐみ記者）
- ・「実践的な教養教育に力／米子高専「リベラルアーツセンター」／全国に先駆け校内に立ち上げ 幅広い知識を学ぶ」『山陰中央新報』2016年5月22日付（山根行雄記者）
- ・「リベラルアーツ談話会始まる／講師は学生 芸術論や文化論語り合う／第2回 カメラの魅力紹介」『山陰中央新報』2017年6月30日付（陰山篤志記者）
- ・「米子高専で水俣病講演会／技術者の責任の重さ学ぶ」『山陰中央新報』2017年12月6日付（陰山篤志記者）
- ・「巧遅か拙速か 米子高専で学生が議論 天才数学者テーマに」『日本海新聞』2017年12月23日付（尾上明記者）
- ・「米子高専「リベラルアーツセンター」設立3年／技術プラス教養も／学生に自主性、視野広く」『日本海新聞』2018年5月12日付（足立篤史記者）

(4) 学校要覧

本校『学校要覧』（令和元年度）に掲載している「リベラルアーツセンター」のページを抜粋し収録します（p.186）。

高専における一般教養教育について

校長 氷室 昭三



高専は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的」(学校教育法第115条)として設置された学校である。大学の目的のように「知的、道徳的」な能力の育成は文言として表れていないものの、「職業に必要な能力」が社会人として必要な知的、道徳的能力を含んでいると解釈できる。

もちろん、技術者においても人間や社会のことが分かなければ良い仕事はできない。しかし、高専において一般的に教養科目の人気があまり高くないのは、学生が興味をもてない分野の科目だからであろう。効率が優先される現代社会では、一見非効率的にも見える一般教養教育だが、本来は触れることのない専門分野以外の知識や考え方などに触れることにより、ものの見方や考え方を広げ、専門教育での学びをより充実させ、多様な角度から物事を見ることができるようにするものである。

2011(平成23)年1月に出された中教審答申では、「高専の卒業者は、企業からその専門的知識やコンピュータ活用能力、誠実さなどが評価されている一方で、コミュニケーション能力については期待値に比べて評価が低いこと」が指摘された。このコミュニケーション能力の育成とは、単に英語で会話ができることにとどまらず、グローバル化した社会の中では相手の文化等を知り、自分の文化等について相手に伝えることが求められる。そのために教員は、企業が求める期待値を超えるような一般教養を身につけさせる努力が必要であり、それを可能にするような一般教養教育を行うことが求められる。

実際に、授業や部活動などから高専生は多くの一般教養を学んでいるものの、そのことを学生は自覚していないことが多い。まずは学生自身にそのことを自覚させることが大切である。そのためには教員の教養力が重要である。教員は、学生が学ぶことを楽しいと思うきっかけを作ることに関わるべきであり、そのきっかけを通して学生は自主的、継続的に学習するようになると思われる。

高専の場合、5年間あるいは7年間という限られた時間の中での一般教養教育の在り方があるはずである。例えば、高専の低学年は青年期にあたり、一貫教育とはいえず、提供する教育内容が発達の段階に応じたものでなければ効果が得られない。各学年に応じた一般教養の関わりを構築していかなければならない。



最後に、一般教養教育の重要性が専門学科の教員に浸透していない現状があるが、創造性やエンジニアリングデザイン能力等と同様に一般教養教育は高専の教育において重要であるという高専独自の教育を構築できるように努力していかなければならない。

具体的には、「環境論」「人権論」「生命論」「宇宙論」といった新たな視点から一般教養教育を考えるのもよい。例えば、「生命論」で言うと、人間の根幹に関わる命の大切さは、一般科目、専門科目の教員それぞれが学生に教えることができる。つまり、教員が専門に立脚しながらも教養教育に関わっていくという姿勢が重要であり、一般教養教育は一般科目・専門科目の双方の立場から教えるのである。



設立式

2016年5月21日(土)に本校図書館情報センターでリベラルアーツセンターの設立式を開催しました。本校を含む16高専から約60名、本校学生約80名、中学校、図書館、マスコミ関係者の参加がありました。



プログラム

■ 開会挨拶

米子工業高等専門学校校長 氷室 昭三

■ 基調講演：「いま、何故リベラルアーツか」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

■ トークセッション：「リベラルアーツとは何か」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

石川工業高等専門学校建築学科教授 道地 慶子

米子工業高等専門学校教養教育科教授 川邊 博

コーディネータ：米子工業高等専門学校

リベラルアーツセンター副センター長 加藤 博和

■ 閉会挨拶

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター長
熊谷 昌彦

■ 施設見学

説明：米子工業高等専門学校建築学科准教授
高増 佳子

■ 研究会

■ 情報交換会

役割・スタッフ紹介

リベラルアーツセンターは下記の3つの役割を担っております。

- (1) アクティブ・リベラルアーツを実践し統括する活動拠点
- (2) 高専教育と学生の活動を地域・社会に発信する広報拠点
- (3) 高専制度・教育の特色、技術者に必要な教養教育などについての研究拠点

2017年4月現在

役職	氏名	所属	備考
センター長	布施 圭司	教養教育科教授	図書館長
副センター長	加藤 博和	教養教育科准教授	広報室長
センター員	松本 正己	電気情報工学科教授	情報教育センター長
〃	竹内 彰継	教養教育科教授	教養教育科長
〃	川邊 博	教養教育科教授	
〃	中島美智子	教養教育科准教授	
〃	辻本 桜介	教養教育科助教	
センター事務	福岡 久光	学生課長	
〃	濱田 泰之	学生課学術情報係長	



全国高専フォーラム・オーガナイズドセッション

2016年8月26日（金）に岡山大学津島キャンパスでオーガナイズドセッション「高専におけるリベラルアーツ教育について」（オーガナイザー：熊谷昌彦・米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター長）を開催しました。参加者は56名（本校23名、他高専等全国から33名）でした。

プログラム

■ 挨拶

米子工業高等専門学校校長 氷室 昭三

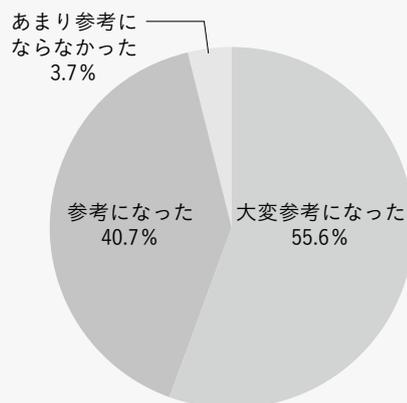
■ 基調講演：「高専におけるリベラルアーツ教育 一本格的研究の必要性について」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

■ パネルディスカッション

宇部工業高等専門学校校長 三谷 知世
株式会社NTTデータユニバーシティ取締役 角 正樹
広島大学高等教育研究開発センター准教授 村澤 昌崇
米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

■ セッションに対する参加者の評価（n=27）



研究会・講演会

研究会を開催し、「高専におけるリベラルアーツとは何か」などについて探求しています。2016年度は5回開催し、具体的な研究テーマをワークショップなどを通じて検討しました。①高専制度、②工学教育、③アクティブ・ラーニングに関する研究グループでの活動も行っています。

また、外部講師を招いた講演会も開催し、議論を深めています。2016年度は、鳥取大学医学部保健学科の安藤泰至准教授（宗教学）を講師に2017年3月1日（水）に開催しました。

広島大学高等教育研究開発センターなどとの連携も図っています（同センターの2016年度国際共同研究推進事業（共同利用（個人研究支援型））に採択）。



読書会

2016年度は5回開催し、学科、学年を超えて国内外の文学作品や評論などを読み、語り合っています。



共催事業

■ 高専数学教育シンポジウム

高専生による数学研究の発表の場として年1回開催されています。2016年度は、10月1日（土）に米子コンベンションセンターで開催され、5件の発表と質疑応答、学生同士の活発な議論が行われました。



リベラルアーツ図書／センター蔵書の紹介

本校図書館交流プラザに「リベラルアーツコーナー」を設置しています。2016年4月現在、581冊の図書が配架されています（米子高専後援会より受贈）。教員による推薦書のポップも並んでいます。

また、リベラルアーツセンターには高等教育や教育工学に関する専門書・学術書などを整備しています。



研究発表：シンポジウム

日本高専学会との共催により、2017年2月11日（土）にユニティ（神戸研究学園都市・大学共同利用施設）でシンポジウムを開催しました。下記の5名が発表しました。

■ テーマ：「リベラルアーツで学生の心に火を付けよう」

- 原口 治（福井工業高等専門学校・一般科目（英語）教授）
「高専教育と教養」
- 堀畑 佳宏（米子工業高等専門学校・教養教育科（数学）講師）
「教養と抽象化能力」
- 谷野 圭亮（大阪府立大学工業高等専門学校・一般科目（英語）講師）
「府大高専における教育用SNS“Edmodo”を利用した反転授業の実践」
- 森 佳奈枝（福岡大学大学院人文科学研究科・博士課程前期）
「学生に求める前に教員についての再考を」
- 加藤 博和（米子工業高等専門学校・教養教育科（社会）准教授）
「高専における市民性育成」

2017年9月2日（土）・3日（日）は本校を会場に、日本高専学会年会（テーマ：「高専の教養教育—リベラルアーツが高専を面白くする—」）を共催します。

これからの教養と高専

リベラルアーツセンター長 布施 圭 司

現在、社会人としての基礎知識・基礎能力として、社会人基礎力（経済産業省）、学士力（文部科学省）、就職基礎能力（厚生労働省）などが考案されている。これらは社会で活躍するための汎用的技能（ジェネリックスキル）の例と言え、一つの共通点として、基礎的知識の習得に加えて、他の人とコミュニケーションを取りながら課題に取り組む「協働性」や、変化に応じて機敏に対応できる「柔軟性」が必要とされていることが挙げられる。協働性と柔軟性が重視されるのは、社会の変化が早く一つの考え方では行き詰まってしまう状況を反映していると思われる。平成29年度の科学技術白書などでも目標として掲げられている「オープンイノベーション」も、広く多様な考え方の協働・融合がイノベーション（革新）には必要だという認識に基づいている。オープンイノベーションとは、ある組織が、自前の知識や技能だけでなく、組織外と連携をはかりつつ、技術革新、さらには社会的価値（生活、消費のモデルとしておく）の創造をはかるものである。生産・政治・教育などの目標が明確であれば、例えば明治の近代化、戦後の経済成長など、それぞれの組織・個人がそれを目指して活動すればよく、自ずから連携や相乗効果が生まれていたと思われる。社会の変化が早く目標が必ずしも明確でない時には、各組織・各個人がそれぞれ考えるだけでは、時代を読み誤ったり、発展しなかったりする。

協働性と柔軟性を向上させるには、視野を広げ、多様な考え方を受容し、臨機応変に思考様式を切り替えられることが必要であり、そのためには教養・リベラルアーツ（教科としての教養としておく）が重要だと言えよう。ある時の課題解決に役に立たない知識・技能が、新たな事態には役に立つことがあるし、何より多様な人々と協働するには、狭い視野・考え方では不可能である。第二次世界大戦後の日本は、特に高等専門学校はその典型と言えるが、教養・リベラルアーツ軽視、「実学」重視の傾向が顕著と思われる。役に立たない知識・技能は無駄だということである。この考え方は、明確な課題を差し置いて浮世離れした学問・芸術ばかりではいけない、という意味で正しい。しかし実学を提唱した福沢諭吉は、すぐに役に立つ知識・技能のみを念頭に置いていたわけではない。福沢の『学問のすすめ』には実学の具体例として、読み書きそろばんだけでなく、地理、究理学（物理学）、歴史、経済、修身（道徳）などが挙げられている。「福澤がいう実学はすぐに役立つ学問ではなく、「科学（サイヤンス）」を指します」と、慶應義塾大学のホームページにある。ここでいう「科学」は、そのつどの利害や、先入観・思い込みを排して、現実在即して理性的に問題を解決してゆく、合理的精神と考えることができる。そして、実学の目標は「独立自尊」、自立した人格になること、である。そのためには日々の糧を得て生活を自分で築くことも大事だが、何より他者と協働しつつ自ら考える態度が重要である。

高専は実践的技術者の教育に特化しており、カリキュラムや行事などで、教養・リベラルアーツは十分には顧慮されていない。この方式は経済発展・生活向上に貢献したと言えるが、時代の流れが不明確な時代には変化する必要がある。ただ、考えて見れば高校や大学も、教養教育で十分に実を挙げているかは疑問である。すぐに役に立つ「実学」（誤解された実学、狭い実学）重視の風潮の中で、視野を広げ人間性を向上させることは後回しだったと言っても言い過ぎではないのではないか。とはいえ、高校、大学、社会を責めているのではない。時代的に教養を真剣に考えない状況だったと思うのである。米子高専のリベラルアーツセンターの活動は、講演会・研究会・シンポジウムによる教養に関する研究、読書会・展覧会による学生の教養向上が中心で、カリキュラムや行事などの見直しには至っていない。しかし、今後の方向性として教養・リベラルアーツ重視という理念が掲げられたことは大きな意味があると言えよう。

最後に、高専が当初から掲げている地域密着は、社会が多様化し、大量生産から個別のニーズに応じた小規模生産がより重視される時代には、大きな可能性があることを付け加えて置きたい。地域（個性性と言ってもよい）に軸足を置いた教養・リベラルアーツについて今後さらに明確化して行くべきと思われる。



「“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ」に「リベラルアーツ教育」が採択

文部科学省が募集した「“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ」に、本校が応募した「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」が採択され、2017年度に下記の講演会などを実施しました。

本校は、全国に先駆けて「リベラルアーツセンター」を設置しています。本センターは、リベラルアーツ教育を実践し統括するための活動拠点であり、その活動を地域・社会に発信する広報や、リベラルアーツについて研究する役割も担っています。

「リベラルアーツ講演会」

技術者としての視野を広げ、教養を深めるため、学生を対象に、国際・経営などに関する講演会を下表のように開催しました。第1回では、「水俣病は、なお終わっていないこと」、「初期の失敗が、今日の歴史につながっていること」などについて理解を深めました。

第2回では、宇宙医学（宇宙空間における医学）とは何かについて興味深いお話を伺いました。リベラルアーツ教育の重要性や能動的学習の大切さについても示唆を受けました。

第3回では、「経営」は経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を管理することであり、経営戦略やマーケティングも重要であることを具体的な事例を交えて講義していただきました。

第4回は、電子制御工学科4・5年の補講と連携して開催し、これからのエンジニアが備えておくべき能力についてご自身の経験も踏まえた講演でした。

2018年度も講演会や講座などを計画しています。学生の皆さんの積極的な受講を期待します。

(文責：加藤博和)

回	日時	講師・演題	参加者数
第1回	2017年12月4日(月) 16時10分～17時40分	花田 昌宣・熊本学園大学水俣学研究センター長 「技術者/科学者の役割と反省:水俣病事件から学ぶこと」	学生 49名・ 教職員15名
第2回*	2018年1月22日(月) 16時10分～17時40分	河合 康明・鳥取大学医学部長特別補佐 「宇宙医学への招待」	学生 78名・ 教職員14名
第3回	2018年2月20日(火) 10時30分～12時00分	吉田 高文・公立鳥取環境大学経営学部教授 「経営学の基礎を学ぶ」	学生 52名・ 教職員3名
第4回	2018年2月22日(木) 12時50分～14時20分	山下 清吾・豊田高専環境都市工学科教授 「エンジニアにとって大切なもの」	学生 60名・ 教職員3名

*第2回は、医工連携研究センターと共催。

講演内容について興味・関心が深まったと回答した学生の割合



第1回の様子



第2回の様子



第3回の様子



第4回の様子

「日本高専学会第23回年会講演会」を米子高専で開催(2017年9月2日(土)~3日(日))

今回のテーマは、「高専の教養教育—リベラルアーツが高専を面白くする」で、その基調講演に岩本晃代・崇城大学教授から「工業教育の将来を考える—高専・工業高校・理工系大学の独自性と連携・接続」と題して話していただきました。

高専の創設から現在も多くの実践的・創造的技術者を社会に送り続け、高く評価され、現在は海外の制度にまで影響を及ぼしていると話されました。また、教養教育は、工業教育の将来を考えるための重要な視座の一つであり、一貫教育の特色を活かした「高専の教養教育」は、工業高校や大学等、他の技術者養成の学校においても参考になることを示されました。

パネルディスカッションでは、パネリストの杉山明・津山高専教養教育推進室長に「グローバル人材育成のための教養教育」について、角正樹・NTTデータユニバーシティ取締役には卒業生・企業からの視点で、「技術者、研究者に必要とされる「人間力」〜リベラルアーツの学び方、教え方〜」について、布施圭司・米子高専リベラルアーツセンター長には「今後の社会と高専

の教養」と題して話していただきました。また、加藤博和・副センター長からは、米子高専が2016年12月に実施した企業・大学へのアンケート調査の結果を紹介していただきました。

コーディネータから、1991（平成3）年の大綱化以降、教養教育が軽視されていること、高専における教養教育は高等教育機関としての一般教育に重きが置かれておらず、中等教育機関としての普通教育に重きが置かれていること、2011（平成23）年の中教審答申で高専卒業生のコミュニケーション能力が期待値に比べて評価が低いことなどの問題点を指摘し、フロアとの活発な意見交換を行いました。

最後に、高度成長期の労働力不足に備えて即戦力の学生を育てるとして創設された20世紀型の高専から、21世紀型の高専をつくるには、中世以来のヨーロッパ社会の伝統の下でつくられたリベラルアーツ教育論や1950年代のアメリカでつくられたジェネラルエデュケーションの理念を超え、現代の科学論・文明論的ひろがりのもとに構築する必要があり、ジェネリックスキルを身につけさせる教育モデルをつくと結びました。

(文責：氷室昭三)



基調講演



パネルディスカッション

(左から) コーディネータの氷室昭三・米子高専校長、パネリストの岩本教授、山下哲・木更津高専教授、杉山室長、角取締役、布施センター長

「高専リベラルアーツ教育研究会」

高専におけるリベラルアーツ教育のあり方やカリキュラムなどについて講師を招いた研究会を下表のように開催しました。



回	開催日	講師・演題	参加者数
第1回	2017年12月15日(金)	中永 廣樹・日本海情報ビジネス専門学校校長 (本校非常勤講師、元・鳥取県教育長) 「教養とは何か、教養はなぜ必要か」	教職員12名
第2回	2018年1月29日(月)	近藤 賢・株式会社リアセック取締役COO 「ジェネリックスキル測定・育成ツール「PROG」のご案内」	教職員11名
第3回	2018年3月9日(金)	渡部 容子・近畿大学教授(元・鳥取短期大学教授) 「工業高校・専門学校・高専・大学の理系学部等の意義・実態・接続関係と「教養教育」について」	教職員9名

「高専リベラルアーツ教育研究交流会」

第1回を本校と津山高専の共催で、2017年12月26日(火)に津山高専で開催しました。右記の7件の講演・発表が行われ、有意義な会となりました。

全国の高専にも呼び掛け、鶴岡、和歌山、呉、弓削、神戸からの参加がありました(参加者26名)。

今後も発展的に継続していく予定です。



講演・発表プログラム

- 佐藤 誠(津山高専総合理工学科)
「津山高専における1学年物理教育」
- 小林 玉青(米子高専教養教育科)
「専門学科との連携による物理実験の充実」
- 松田 修(津山高専総合理工学科)
「AI時代に向けて直観力を重視し発想力を育成する数学教育指導法について」
- 荒木 祥一(津山高専総合理工学科)
「高等専門学校における教養教育としての体育の役割」
- 石原のり子(神戸高専一般科)
「教養教育の拡充を目指した神戸高専一般科の取り組み」
(講演)
- 竹内 彰継(米子高専教養教育科)
「米子高専のリベラルアーツ談話会の紹介」
- 青砥 正彦(米子高専教養教育科)
「各種検定の単位化による教養教育の充実について」

「身近な植物画」展

学生の教養を高める取り組みの一環として、2017年11月7日（火）～12日（日）に図書館交流プラザで開催しました。

植物画（ボタニカルアート）は、植物の標本画が起源で、できるだけ忠実に植物の特徴を描くとともに、芸術的な美を表現しようとするものです。

今後、技術者になって行くためには、文化や芸術に造詣が深いことは必須になって行くと思われます。そして技術者ではなくとも、文化や芸術と無縁の生活では無味乾燥な毎日になるのではないのでしょうか。

（文責：布施圭司）



ボタニカルアート作家のいわたさいこ氏による解説トーク

「簿記講座」の開講

経営・ビジネスに関する知識やスキルを身につけて、経営・ビジネスにも明るい技術者になってもらいたいと考え、4・5年生を対象に、「日商簿記3級」の検定試験合格を目指した講座を開講しました。

外部講師（株インサイト・池田真莉香氏）による全12回（2017年12月14日～18年2月2日、16時10分～18時40分）の講座で、27名が受講しました。

受講の動機は、資格取得やスキルアップ、簿記への興味などが多く、受講してみて、「全く知らない分野について学べた」、「とても新鮮に感じた」などの感想が寄せられました。

実際に9名が3級（2月25日実施）を受検し、2名が合格しました。

（文責：加藤博和）



受講の様子

スタッフ紹介

（2018年度）

役職	氏名	備考
センター長	布施 圭司	図書館長・教養教育科教授
副センター長	加藤 博和	教養教育科教授
センター員	松本 正己	情報教育センター長・電気情報工学科教授
〃	田中 晋	広報室長・物質工学科教授
〃	竹内 彰継	教養教育科長・教授
〃	青砥 正彦	教養教育科准教授
〃	原田 桃子	教養教育科助教
事務職員	景山 修司	学生課長
〃	角田 真理	学生課学術情報係長



「リベラルアーツ談話会」

本談話会では、深い趣味を持つ学生を講師とし、趣味の話題について講演してもらいます。その後、教員がその話題を時事問題や社会問題などと関連付けて発展させ、講演を聞きに来た学生の皆さんに議論してもらいます。その目的は、何か結論を出すことではなく、様々な視点や立場があることを認識してもらい、問題意識を共有してもらうことです。

2017年度は下表のように開催しました。例えば第1回では、鉄道ファンの学生に関西の私鉄である「京阪電車」を紹介してもらいました。話題の発展では「講師はなぜ京阪電車に魅力を感じたのか」という疑問から「魅力とは何か」という哲学的問題を扱いました。

学生の満足度は98%でした。この結果を追い風に、2018年度もより充実した談話会の開催を目指していきますので、学生の皆さんはぜひ参加してください。
(文責：竹内彰継)



第1回の様子



第2回の様子

回	開催日	講師	演題
第1回	2017年5月31日(水)	機械工学科4年 小原 海斗	「京阪電車の魅力について」
第2回	2017年6月21日(水)	機械工学科5年 塚田亮太郎	「写真の魅力(飛行機を通して)」
第3回	2017年7月25日(火)	電気情報工学科5年 永井 俊一	「戦艦が残した教訓 大艦巨砲主義の呪縛」
第4回	2017年12月14日(木)	電気情報工学科5年 西尾 有輝	「数学者ガウスの光と影 巧遅は拙速に如かず？」

「リベラルアーツ図書」の充実

読書をしよう!

図書館に、リベラルアーツ図書を集めた「リベラルアーツコーナー」を設置しています。

2017年度に新たに212冊が購入され(後援会より)、現在約800冊が配架されています。教員による推薦書のポップも並んでいます。

また、高等教育や教育工学に関する専門書も整備しています。



「読書会」

2017年度は熊谷昌彦名誉教授を主宰者に6回開催し、学科、学年を超えて、下記の作品を読みました。

有川浩『レインツリーの国』、芥川龍之介『侏儒の言葉』、太宰治『人間失格』、吉本ばなな『キッチン』、星野道夫『長い旅の途上』、円城塔『道化師の蝶』、竹内薫『理系バカと文系バカ』

2018年度もポスター等で案内しています。気軽にご参加ください。

「“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブ」で「リベラルアーツ教育」を推進

本校は、全国に先駆けて「リベラルアーツセンター」を設置しています。当センターは、①リベラルアーツ教育を実践し統括するための活動拠点であり、②その活動を地域・社会に発信する広報や、③リベラルアーツについて研究する役割も担っています。

文部科学省が募集した「“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブ」で採択されている「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」の支援を受け、引き続き2018年度も講演会、研究会や研究交流会などを実施し、図書の充実も図りました。

「リベラルアーツ講演会」

技術者に必要な教養を身につけ、豊かな人間性を涵養するとともに、技術者としての視野を広げ、高専生のキャリア形成に役立つよう、学生向けの講演会を、国際・経営などのテーマで次ページ下表のように4回開催しました。

第1回(平和学)では、原爆被爆被害とは被爆直後から現在まで継続する身体的・精神的・社会的被害の総称で、これらの被害は相互に深く関連し合っているため、原爆被爆被害の全体像の解明には諸研究分野の学際的協力が不可欠であると述べられ、残された課題を提示されました。

学生は、「今の科学でも分からないことの方が多いということに驚いた。内容が難しかったが、難しいからこそ興味湧いた」(3年D科)、「科学的に説明できる身体的被害を重視しがちだが、被災者の不安などの精神的な被害、差別などの社会的な被害も含め判断していく必要があると理解できた」(3C)、「いろいろな角度から考えることができたので、自分のためになった」(3A)、「平和について考えていく上でもっと詳しく知りたいと思った」(4C)などの感想を持っていました。

第2回(経営学)では、企業(組織)における様々な経営方法(従業員の管理方法)について話されました。技術者も多くが企業(組織)で働くことになりましたが、世の中には様々な企業(組織)があります。

講師の宮重教授は広島商船高専流通情報工学科を卒業後、信州大学経済学部へ編入学され、製薬会社勤務を経て富山商船高専(現・富山高専)に着任されたユニークな経歴の方で、「トークが面白くて、聞いていて楽しかった」という感想が多く寄せられ、「初めて聞いた内容で、とても興味深かった。経営学も学んでみたい」(3M)、「自分自身とりあえず大企業に就ければいいと思っていたが、考え直してみようかと思った」(3D)、「自分のマインドをシフトする勇気が生まれた」(3E)といった講演会になりました。



第1回の様子

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合

95.0%



第2回の様子

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合

93.8%

第3回（社会学）では、少子高齢化、ジェンダー格差、「リーダーシップとリベラルアーツ」などが論じられました。学生の感想に、「変化や少数への敏感さを身につけていきたい。想像力、発想力を鍛えて自ら発信していける人になりたい」（4M）とありました。

今回は講師を交えた座談会も企画し、3年・4年担任のご協力で女子学生を中心に26名が講演会を聴講後引き続き参加しました。森田・男女共同参画室長が事前に準備された4つの設問に対するアンケート結果の集計データや個別の意見を取り上げて意見交換を行い、「とても良かった」11名、「まあ良かった」10名という結果でした。



第3回：講演会の様子

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合



第3回：座談会の様子

第4回（農業史）では、トラクターの歴史が語られました。

1年生の受講者が多く、「トラクターが人間の生活を大きく変化させていることや、戦争とトラクターの密接な関係も分かった」（IE）、「技術の発達が生世の中に及ぼした影響に興味を引かれた」（ID）、「トラクターと同じように歴史に深く関わったものや機械などももっと知りたい」（IM）、「文系も理系には必要だと思った」（IA）など興味・関心を深めることができました。

貴重な写真を多数提示され、また「日本での開発には地元である安来のたたら製鉄が関わっていた」（3M）ことなどを紹介され、身近に感じられたようです。

演題と同名の著書が中公新書より2017年に刊行されていて、同書は図書館に配架してあります。



第4回の様子

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合

回	日時	講師・演題	参加者数
第1回	2018年10月26日（金） 16時10分～17時40分	川野 徳幸／広島大学平和センター長・教授 「原爆被爆（被ばく）被害とは何か —科学でわかったこと、わからないこと—」	学生20名・教職員14名
第2回	2018年12月12日（水） 16時10分～17時40分	宮重 徹也／富山高専国際ビジネス学科教授 「技術者と企業」	学生32名・教職員4名
第3回*	2019年1月23日（水） 講演会：16時10分～17時10分 座談会：17時20分～18時20分	白波瀬佐和子／東京大学副学長・大学院人文 社会系研究科教授 「少子高齢社会のリーダーとリベラルアーツ」	講演会：学生47名、教職員11名 座談会：学生26名、教職員9名
第4回	2019年2月20日（木） 8時50分～10時20分	藤原 辰史／京都大学人文科学研究所准教授 「トラクターの世界史」	学生101名・教職員5名

*第3回は、男女共同参画室、キャリア支援室、国際交流支援室と共催、FD研修会（男女共同参画）と併催。

2019年度も講演会などを計画しています。皆さんの積極的な受講を期待します。

「リベラルアーツ特別講演」の実施



2018年5月8日（火）10時30分～12時に合同講義室で、ブラウン大学地球環境惑星科学科上級研究員の廣井孝弘氏による「はやぶさ・はやぶさ2と宇宙創成の神秘」の講演を、5M・5E・4M・4E・3Cの学生を対象に行いました。

11月9日（金）12時50分～14時20分にアカデミックシアターで、日本政策投資銀行松江事務所長の上定昭仁氏による「故郷への恩返しを胸に ～故郷を離れ故郷を知る～」の講演を、3D・2E・2Dの学生が聴きました。



「リベラルアーツ談話会」

本談話会では、深い趣味を持つ学生を講師とし、趣味の話題について講演してもらいます。その後、教員がその話題を時事問題や社会問題などと関連付けて発展させ、講演を聞きに来た学生の皆さんに議論してもらいます。その目的は、何か結論を出すことではなく、様々な視点や立場があることを認識してもらい、問題意識を共有してもらうことです。

2018年度は下表のように3回開催しました。学生の満足度は97%でした。

この結果を追い風に、2019年度もより充実した談話会の開催を目指していきますので、学生の皆さんはぜひ参加してください。



第5回の様子

回	開催日	講師	演題
第5回	2018年4月24日（水）	IS 宅野 将司	「弱者が強者に勝つには？ 軍事から学ぶランチェスター経営戦略とは？」
第6回	2018年11月19日（月）	5D 小牧 遼太	「あなたの常識は正しいか？ —ゲーテルの不完全性定理とは？」
第7回	2018年12月17日（月）	5D 高津こなつ	「本当の私は誰？ —小説描写の変遷で見るペルソナ」

『日本海新聞』2018年5月12日付に、談話会などの活動を紹介した記事：「米子高専「リベラルアーツセンター」設立3年／技術プラス教養も／学生に自主性、視野広く」（足立篤史記者）が掲載されました。



「読書会」、「ビブリオバトル」

読書会は、2018年度は4回開催し、学科や学年を越えて下記の本を読みました。

『羊と鋼の森』（宮下奈都）、『告白』（湊かなえ）、
『ゼロ弾きのゴージュ』・『よだかの星』他（宮沢賢治）、
『か「」く「」し「」ご「」と「』（住野よる）

「ビブリオバトル」は、発表参加者から面白い本を紹介してもらい、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に会場で投票を行って「チャンプ本」を決定する催しです。

本校では学生図書委員会の主催で、2018年12月19日（水）の放課後にアカデミックシアターで開催されました。



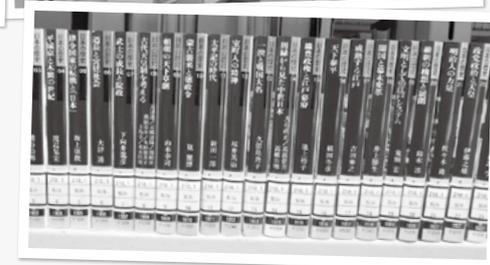
発表参加者

「リベラルアーツ図書」の充実

図書館に、リベラルアーツ図書（約800冊）を集めた「リベラルアーツコーナー」を設置しています。

2018年度はさらに500冊の図書を購入了。講談社学術文庫（330冊）、英語多読・TOEIC参考書（60冊）、その他（110冊）です。図書館に来てみてください。

読書を
しよう!



教養の向上、図書館利用の促進のため、①各学科・科からの図書推薦、②学生からのリクエスト募集、③読書会、④ビブリオバトル、⑤全教員による「学生時代に読むとためになる本」の推薦、⑥英語科による英語書籍の多読・多聴の推進、⑦国語科・社会科・物理科による「読書カード」の導入、⑧学生寮の自学自習時間を利用した読書習慣の意識づけ、⑨新刊図書紹介方法の見直しにより、学生自身の自発的な図書館利用と自学自習機会の増大を図りました。

学生の図書貸出冊数は2017年度の7,691冊から2018年度（2月末時点）は12,794冊に増加し、目標としていた10,500冊を達成することができました。



「高専リベラルアーツ教育研究会」

高専におけるリベラルアーツ教育のあり方やカリキュラムなどについて講師を招いた研究会を下表のように2回開催し熱心に討議しました。



第1回の様子



第2回の様子

回	開催日	講師・演題	参加者数
第1回	2018年11月20日(火)	原 豊二/ノートルダム清心女子大学文学部准教授(元・本校教員) 「揺れ動く「リベラルアーツ」教育」	教職員5名
第2回	2018年12月13日(火)	宮重 徹也/富山高専国際ビジネス学科教授 「「国際ビジネス学科」に関する座談会」	教職員9名

論文紹介

- 『日本高専学会誌』第23巻第3号(日本高専学会、2018年7月、pp. 7-12)に、竹内彰継・布施圭司・加藤博和・中島美智子・大野政人・堀畑佳宏・辻本桜介・権田岳の共著による「米子高専のリベラルアーツ談話会の紹介」が掲載されました。
- 『工学教育』第66巻第6号(日本工学教育協会、2018年11月、pp. 98-103)に、竹内彰継・布施圭司・加藤博和・中島美智子・大野政人・堀畑佳宏・辻本桜介の共著による「米子高専のリベラルアーツ談話会」が掲載されました。

スタッフ紹介(2019年度)

役職	氏名	備考
センター長	川邊 博	図書館長・教養教育科教授
副センター長	加藤 博和	教養教育科教授
センター員	田中 晋	広報室長・物質工学科教授
	松本 正己	情報教育センター長・電気情報工学科教授
	布施 圭司	教養教育科長・教授
	竹内 彰継	校長補佐(教務)補・教養教育科教授
	青砥 正彦	教養教育科准教授
	原田 桃子	教養教育科助教
職員	景山 修司	学生課長
	西本 真理	学生課学術情報係長



「高専リベラルアーツ教育研究交流会」

昨年度、津山高専で第1回を開催し、今年度は米子で第2回を開催しました。2019年3月8日（金）に米子コンベンションセンターで、今回新たに松江高専・呉高専にご参加いただき、下記のプログラムで行い、参加者は17名でした。

各高専からの現状報告・意見交換によって共通点や異なる点、独自の課題解決の取り組みなどを知ることができました。研究発表も各高専から1件ずつお願いし、有意義な会となりました。

参加者の主な感想・意見を紹介します。「他校の現状と実例が参考になった」、「自校の教育について振り返る機会になった」、「情報を共有することは大切だと再確認した」、「意見交換の時間を積極的に設けるとよいのでは」、「具体的な授業の工夫などに関する発表がもっとあればよいと思う」、「教科・科目ごとの交流・情報交換に（あまり交流がない教科・科目について）、この交流会を活用するとよいのでは」、「工学系の専門分野の方からの意見もあれば、内容が広がっていくのでは」、「参加高専数を増やすことと、教養教育以外を担当する専門学科の教員にも参加してもらい、多くの教員にリベラルアーツの必要性を考えてもらえればよいと思う」。(順不同)

今後も中国地区や全国の高専等に呼び掛け、全高専のセンターを目指して発展的に継続開催していく予定です。



基調講演の様子



各高専からの現状報告・意見交換の様子

基調講演

- 米子高専・校長 氷室 昭三
「高専教育におけるリベラルアーツについて」

各高専からの現状報告・意見交換

- ① 津山高専 教養教育推進室長 吉田 英治
- ② 松江高専 人文科学科長・数理科学科長 森山 恭行
- ③ 呉 高専 人文社会系分野代表 木原 滋哉
- ④ 米子高専 教養教育科長 竹内 彰継

研究発表

- ①「津山高専総合理工学科への改組と英語カリキュラム改訂」
山口 裕美
(津山高専・総合理工学科（電気電子システム系）准教授)
- ②「松江高専学生の学習特性とそれに対応した学習支援について」
森田 正利
(松江高専・学生相談室長、人文科学科教授)
- ③「リベラルアーツとアクティブ・ラーニング」
木原 滋哉
(呉高専・人文社会系分野教授)
- ④「米子高専の教養向上の取り組み
—“KOSEN(高専) 4.0” イニシアティブ「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」—」
布施 圭司
(米子高専・リベラルアーツセンター長、教養教育科教授)

編集後記

今年度（2018年度）で本校にリベラルアーツセンターが設置されて3年が経ちました。新制大学発足時に「一般教育」(general education) が導入され、2019年で70年になります。1991年の大学設置基準大綱化後、当時の国立大学で「教養部」廃止が相次ぎました。全学的体制で一般教育の後継の教育が行われるようになりました。高専は1962年に法制化され、「一般科目」を置いています。大学とは異なる高専の「リベラルアーツ」とは何か？その定義をきちんとしていないまま看板を掲げておりますが、いわば自分自身がアクティブ・ラーニングをしているように、学生向けの講演会や教職員対象の研究会などを企画し実施してきました。研究交流会では、高専ごとに特色のある（であろう）一般科目のカリキュラムや組織を前提に連携を図り結びつきを強めることができなかつたと試み、今回は4高専で開催することができました。高専リベラルアーツに引き続き主体的に関わっていこうと思います。(加)

「高専のリベラルアーツ」を考える

リベラルアーツセンター長 川 邊 博

「リベラルアーツ」とはもともと古代ギリシャにおいて、「自由」人として生きるため、人間を束縛から解放するための諸学問（文法、修辞学、論理学、算術、幾何、天文、音楽）であった。グローバル化時代を意識した現代の大学における「リベラルアーツ」は、単純化していうと、例えば語学力を得れば言葉や感覚の壁が取り払われ、世界に打って出るための「自由」を獲得するということであろうか。では、いまの時代において「高専のリベラルアーツ」はどのような特徴をもつであろうか。

日本の経済成長は科学技術力の向上に伴うものであったが、科学の発展により学問分野の細分化が進むと、1990年代には専門重視と教養軽視の流れで、分野間の障壁が高くなる一方で専門知識の共有は後回しにされた。ところが、専門性が社会や教養と距離を置いたこの時期に合わせて日本経済が停滞し、2000年代以降新興国の科学技術力の追い上げを受けた経緯がある。成長著しい時代には、学んだ「専門的知識と技術」のとおり仕事すれば成果が得られていた。それに対して、グローバル化と多様化が進む現代社会において、「専門的知識と技術」を身につけただけでは、複雑化する問題や多様な考え方への対処、激しい時代の変化への対応、新しい価値の創造といった未来を切り開く「自由」が得られるとは限らないのである。ここにおいて教養が見直され、専門性を関連付けて全体を見渡す教養化の重要性が省みられたのだろう。

この「自由」を獲得する手がかりの第一は、ある分野における新しい考えは、他分野の考え方を取り入れ、適用することによって生み出されることである。第二に、多様な意見を理解し調和させる能力は、各分野の知識の間の共通性を理解する能力と同じ性格を持つものである。第三に、激しい時代の変化に対応することは、近い分野の知識に限らず、一見かけ離れた分野の知識も積極的に取り込むような飛躍的な「発想」を要する。これらの共通のキーワードは「融合」である。特に文理融合、文系的「発想」に期待が向けられ、いまや高専においても、文系的能力は工学において活かされるべきものになりつつある。

さて、学生のみなさんには、自分の「専門的知識と技術」を基盤として、他分野を理解し自分の分野と関連付ける柔軟性を、また、授業でも科目を越えた知識を結びつけて融合する「発想」を大切にしてほしいと思います。価値が多様化する中で、学校の勉強は全員が同じ内容を決まった時間の中で学ぶ制限された活動ではありますが、その不自由ともいえる学びで盤石



な基礎を築くからこそ、自分の意欲による「自由」な学びに喜びを感じられるものです。定期試験を無事に終えたとき、試験と全く関係のない勉強や読書をしたくなる気持ちを、平時にも持ち続けて放課後少しの時間でも図書館で過ごす習慣を取り入れてください。読書でも芸術でも、強制的ない学びの「自由」を感じながら、自分の蓄積した知識と融合して織り重ねてゆく主体的な学びが「高専のリベラルアーツ」ではないでしょうか。



「リベラルアーツ講演会」

技術者に必要な教養を身につけ、豊かな人間性を涵養するとともに、技術者としての視野を広げ、キャリア形成に役立つよう、学生向けの講演会を下表のように4回開催しました。

回	開催日時	講師/演題	参加者数
第1回	2019年12月11日(水) 15時40分～17時10分	鳥取大学乾燥地研究センター教授 坪 充氏 「世界の乾燥地と食料生産」	学生 51名 教職員 9名
第2回	2020年1月23日(木) 15時40分～17時10分	島根大学法文学部准教授 浜田 幸絵氏 「メディアの変遷からみるオリンピック ーラジオ、映画、テレビ、インターネット」	学生 46名 教職員 7名
第3回*	2020年1月31日(金) 15時40分～17時10分	鳥取大学医学部副学部長・教授 岡田 太氏 「がん研究と人間力」	学生 101名 教職員11名
第4回	2020年2月14日(金) 12時50分～14時20分	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院講師 多久和理実氏 「科学者たちが残した言葉を読む」	学生 72名 教職員 7名

*第3回は、医工連携研究センター・地域共同テクノセンター並びに鳥取大学地(知)の拠点大学による地方創生推進室との共催。

講演内容が「理解できた」と回答した割合



第1回の様子

92.2%



第2回の様子

100%



第3回の様子

81.0%



第4回の様子

97.2%

受講した学生の感想等を次ページに掲載し紹介します(数字は学年を、アルファベットはM:機械工学科、E:電気情報工学科、D:電子制御工学科、C:物質工学科、A:建築学科を表します)。

今年度、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(男女共同参画推進室)による支援を受けて、講演会を4回にわたり開催できました。地域に根差しつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し輩出する仕組みを構築する一環として、女子学生・女性教職員も多数参加しました。約半数の学生が「自分の将来の進路の一つに研究者(大学教員等)も考えてみようと思った」と回答しています(第2～4回のアンケート結果)。

第1回

感想

- ・世界の自然災害 [1967~1991年] による死亡者350万人の約4割が干ばつによる災害だと知り、干ばつは思っていたよりも恐ろしいものだと知った。(3C)
- ・世界の乾燥地や食料生産について詳しく知ることができたので良かった。鳥取大学乾燥地研究センターにもっと興味を持った。干ばつによって起こる影響は食料問題だけだと思っていたが、経済や社会にまで影響を及ぼすことは初めて知った。世界を知った上で日本を見れば、日本も変えることができるのではないかと思ひ、研究してみたいと思った。(3C)
- ・世界で助け合いながら食料危機を乗り越えなければいけないと思った。その土地で異なる気候や特徴があるから、それに合った農業をしてよりよい生産につなげることが大切だと思った。(3C)
- ・乾燥地でのコメ栽培は今まで聞いたことがなく面白いチャレンジだと思った。(3M)
- ・食料問題を解決するためには農業技術だけでなく、農業を取り巻く環境についても分析し改善していく必要がある

と感じた。講演を聞いて農業以外の幅広い知識も身につけていき、食料問題の改善に貢献したいと思った。(5C)

- ・建築の分野でどのように貢献できるのか考える良いきっかけになった。(5A)

「興味・関心が深まった」と回答した割合→92.2%

- ・日本の食料自給率が低く、他国からの輸入に頼らざるを得ないという状況を具体的な数値で見て、他人事ではなく自分たちがもっと向き合っていかなければならない問題だと感じたから。(1M)
- ・農業が工学と関わっているようなところもあって面白かったから。AIやIoTが関連していたから。(3D)
- ・生産性の向上は機械によって解決できると考えるので、その方法と影響について考えたいと思ったから。(3D)



学生からの質問・意見の様子

第2回

感想

- ・昔のオリンピックの実際の映像を見て現代と違い過ぎていて驚いた。(3D)
- ・ロンドン大会の映像では綱引きをしていたり、女性がスカートをはいて競技していたり全く違うもので驚いた。(3C)
- ・昔はオリンピックの情景を描写して、それを日本に持ち帰ってからラジオで放送していたという話を聞いて少し驚いた。(3D)
- ・ラジオやテレビの普及によって観客が減るという考えがあったのが面白かった。(2A)
- ・今回と前回の東京オリンピックも比べてみると面白いと思った。(2D)

- ・今につながる話を聞くことができ良かった。リアルタイムで映像を見ることができるといこと=どれだけ技術が進んだのかを実感することができた。(2E)

「興味・関心が深まった」と回答した割合→93.5%

- ・もうすぐオリンピックが始まる中で、こういう時代の流れを知ることができたから。(2D)
- ・自分の知らないオリンピックの様子が見られて、過去と現在のオリンピックについてもっと知りたいと感じたから。(3C)
- ・今後のオリンピックの報道の仕方にどんな変化があるか、もしくはないかが気になったから。(3D)

第3回

感想

- ・がん研究の進歩や苦勞を知ることができて面白かった。また鳥取大学の医科学専攻についても知ることができ良かった。(2M)
- ・「病理は辛抱だ」という言葉が私には響いた。今の勉強やこれからの研究についても努力をする人が報われるということが分かった。(2C)
- ・何度も試行錯誤をすることで一つのものに対する答えを見つけることができるということが分かった。また、悩んでいるとき、勇気と決断力さえあれば新しい見方が生まれてくると分かった。(2D)
- ・多くの恩師に出会い、自分の進む道を模索しながら地位を確立してこられたことにとっても感銘を受けた。(2M)
- ・炎症発がんの仕組みとウイルスによる治療について興味があった。(2C)
- ・卒業研究でがんの効果的な治療薬の合成をテーマに研究

を進めている。私も実験を行う立場として、形無しな研究をするのではなく、新たな発見を報告できるように自発的に取り組みたいと思った。(5C)

「興味・関心が深まった」と回答した割合→89.0%

- ・研究は人間力によってつくられ、学問だけではなく幅広い人、知識が必要だと感じたから。(2D)
- ・主にがんに効く薬を将来つくりたいと思って米子高専に入学したので、今回話が聞けて良かった。その目標を忘れかけていたが、思い出してとても興味を持ったから。(2C)
- ・今日の話のような研究をやってみたいと思ったから。(2C)

- 「医工連携」への興味・関心が高まった→60人 (60.6%)
- 医科学専攻への進学も選択肢として考えてみようと思った→51人 (51.0%)

第4回

感想

- ・ニュートンが、虹がなぜ七色なのかを証明する上で、音楽と結びつけてとらえており、驚いた。(3M)
- ・面白かった。考えたこともないようなことばかりで、何度もうごい!と思って楽しかった。こういった感覚で研究や学問に取り組めたらいいなと思った。(3M)
- ・1年生にも分かりやすく話してくださって有り難かった。(1M)
- ・今まで「なぜ歴史を学ぶ必要があるのか」と思っていたが、昔の考え方などを知って現代でも一つだけでなく複数の視点で見ることを養うことがその理由の一つなのだと知った。(1D)
- ・科学者たちのバックグラウンドにこれまであまり興味はなかったが、今回の講演でとても興味を持てた。(3M)

「興味・関心が深まった」と回答した割合→98.6%

- ・教科書にない話を聞くことができたから。(3M)
- ・光や色について歴史的、文化的に見てみるのも面白いと思ったから。(3D)
- ・歴史上の科学者が、自分が知っている以上に様々なことをしていてそれについて知ろうと思ったから。(3C)
- ・科学史についてもっと知りたくなったから。(4C)



学生からの質問・意見の様子

2020年度も講演会などを計画しています。皆さんの積極的な参加を期待します。

「リベラルアーツ談話会」

本談話会では、深い趣味を持つ学生を講師とし、趣味の話題について講演してもらいます。その後、教員がその話題を時事問題や社会問題などと関連づけて発展させ、講演を聞きに来た学生の皆さんに議論してもらいます。その目的は、何か結論を出すことではなく、様々な視点や立場があることを認識し、問題意識を共有してもらうことです。

2019年度は下表のような談話会を開催しました。

第8回は、4年機械工学科の横山裕也君に有名なスポーツカーである日産スカイラインGT-Rを紹介してもらい、どんなスポーツカー（広い意味では製品）がユーザーから支持されるかということについて議論しました。第9回は、5年物質工学科の杉本メグさんに映画のゴジラが時代の世相を映す鏡になっていることを紹介してもらいました。参加した学生の皆さんの満足度は非常に高く、両方とも100%でした。さらに、両方とも講師は自ら立候補してくれました。

2020年度もより充実した談話会の開催を目指していきますので、談話会の講師を希望する学生の皆さんはリベラルアーツセンター（教養教育科・竹内）へ連絡をお願いします。

回	開催日	講師	演題
第8回	2019年5月27日（月）	4M 横山 裕也	「伝説のスポーツカー 日産スカイラインGT-R」
第9回	2019年7月19日（金）	5C 杉本 メグ	「ゴジラは私達に何を語るか？」

注：回数は2017年度からの通算。

「リベラルアーツ図書」～読書のススメ～

図書館に、リベラルアーツに関する図書を集めた「リベラルアーツコーナー」を設置しています。図書館に来て手に取って触れてみてください。

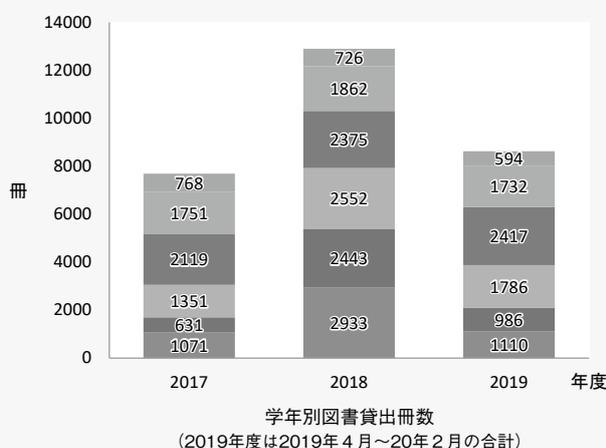


リベラルアーツコーナー（交流プラザ）

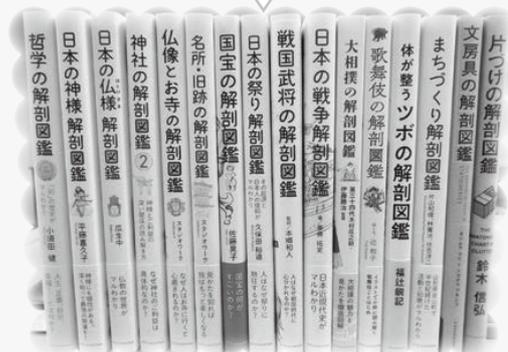


リベラルアーツコーナー

学生の図書貸出冊数は、2019年度（2月末現在）は8,625冊でした。2018年度の12,891冊に比べて減少しています。2017年度（7,691冊）からの推移をグラフで示します。学生自身の自発的な図書館利用に努めてほしいと思います。



2019年度購入図書



「高専リベラルアーツ教育研究会」

高専におけるリベラルアーツ教育やカリキュラムのあり方などについて講師を招いた研究会を下表のように2回開催しました。

回	開催日	講師／演題	参加者数
第1回	2019年10月7日(月)	米子高専・鈴鹿高専名誉教授 齊藤 正美氏 「グローバル化社会の技術者に求められる創造性とは」	教職員等20名
第2回	2020年1月16日(木)	(株)NTTデータユニバーシティ取締役 角 正樹氏 「技術者・研究者に求められるリベラルアーツ『ビッグデータ』情報の集め方と活かし方」	教職員等17名

第1回は、本校元校長の齊藤正美名誉教授による講演で、「高専におけるリベラルアーツ教育研究の方向性を考える」というものでした。グローバル化社会の技術者には、深い科学技術の知識の他、特に職業人としての教養と美意識及びアート観に裏打ちされた創造性が求められると述べられました。中永・元鳥取県教育長や永井・今井書店グループ相談役、熊谷・本校名誉教授らにもご参加いただき、講演後引き続き議論が交わされました。

第2回は、本校卒業生でNTTデータユニバーシティ取締役の角正樹氏による講演に始まり、その内容を題材に参加者が自由に意見を出し合う形で進められました。今後、高専教育でも重要性が増すビッグデータ、データ分析の着眼点から、高専卒の技術者の長・短所とリベラルアーツの必要性、技術や研究でいかに自らの枠を広げるかにまで話が及び、熱心な話し合いが展開されました。終了後、研究会の内容を学生も聴けるようにしてほしい、校内外のもっと多くの人が参加できる機会があれば良いという意見もあり、このような議論の継続とその成果の高専教育への実装が期待されます。



第1回の様子



第2回の様子

スタッフ紹介 (2020年度)

役職	氏名	備考
センター長	川邊 博	図書館長(教養教育科)
副センター長	加藤 博和	(教養教育科)
センター員	倉田 久靖	情報教育センター長(教養教育科)
	竹内 彰継	広報室長(教養教育科)
	青砥 正彦	国際交流支援室長(教養教育科)
職員		学生課長
		学生課学術情報係長



「高専リベラルアーツ教育研究交流会」

2017年度に津山高専で第1回を開催し、昨年度は米子で第2回を開催しました。今年度、第3回を岡山コンベンションセンターで2019年9月13日（金）に開催し、新たに広島商船・徳山・宇部・大島商船の各高専にご参加いただき、中国地区8高専が揃いました。下記のプログラムで、弓削商船からもご参加いただき、参加者は18名でした。

各高専（教養教科長等）から、改組やカリキュラム改訂に伴う特色ある科目や実施上の課題などについてそれぞれ報告がありました。

また、津山高専の藪木教務主事から「高専卒業生に必要なリベラルアーツ」と題してご講演いただきました。

参加者からは、「なかなか知ることのできない他高専の様子を知ることができて大変有意義だった」、「他高専の専門学科と一般科目の協働の様子が分かり、参考になった」という感想をいただくとともに、現状報告と情報収集にとどまらず、先進校の取り組み内容・実践事例の紹介・報告、共通する課題やポイントを絞った話し合い、「リベラルアーツとは何か」を深められる活動もあると良い、テーマ・目標の設定が重要であるといったご指摘もいただいているところです。

2020年度に次回（第4回）を中国地区8高専に新たな参加校も加え開催したいと考えております。

1. 開会挨拶

■米子高専リベラルアーツセンター長 川邊 博

2. 交流会の概要説明

3. 中国地区8高専からの現状報告・質疑

①松江 ②津山 ③広島商船 ④呉 ⑤徳山 ⑥宇部
⑦大島商船 ⑧米子

- 1) 各高専における一般科目・教養教育の現状と課題
- 2) 他高専への質問
- 3) 中国地区高専や全国高専で連携して取り組んだらよいのではないかとと思われること
- 4) その他

4. 講演

■津山高専副校長・教務主事 藪木 登氏
「高専卒業生に必要なリベラルアーツ」

5. 意見交換

6. 今後の交流会について

7. 閉会

※ 情報交換会



センター長あいさつ



各高専からの現状報告



津山高専・藪木教務主事（左）の講演

編集後記

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の中、編集作業をしております。その影響は現時点では見通せない状況ですが、早期の終息を願うものです。さて、学生向け講演会では県内の高等教育機関である鳥取大学から講師をお招きし、グローバル・ローカルの視点で、農・工や医・工といった融合・複合的なアプローチについても考えることができました。隣県の島根大学からは東京オリ・パラを前にメディア史の、そして遠路、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院から科学史の、それぞれ女性研究者にお越しいただきました。いずれの回も「図や写真が多く、説明が分かりやすかった」と多くの学生に好評でした。各大学や大学院の説明も盛り込んでいただき、進路（キャリア）の参考にもなりました。12～2月に集中的に開催しましたが、来年度こそ年度前半から開催できればと思います。本校が高専リベラルアーツの文字通りセンターになろうと他高専に呼び掛けて開催している研究交流会は、中国地区全8高専の参加を得て第3回を数えることができました。このネットワークを充実・発展していけるよう何か新機軸を打ち出したところです（加）

トップページ
新着情報
センター概要
センターだより
講演会
談話会
研究会
研究交流会
論文・レポート等
開催行事報告
読書会
図書紹介
取り組み
KOSEN（高専）4.0
共催事業
リンク

米子高専 リバラルアーツセンター

〒683-8502
鳥取県米子市彦名町4448
TEL 0859-24-5028
FAX 0859-24-5269

リバラルアーツセンター（新着情報）

トピックス

- 2020.1.31 [リバラルアーツ講演会「がん研究と人間力」を開催しました。](#)

- 2019.8.30 [「第3回 高専リバラルアーツ教育研究交流会」を開催します。](#)
平成29年度に第1回を津山高専で開催し、昨年度は米子で第2回を開催しました。今年度は岡山で9月13日に開催いたします。どなたでもご参加いただけます。

- 2019.3.29 [『リバラルアーツセンターだより』第3号を発行しました。](#)

- 2019.3.29 「“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ」で採択されている「新時代のジェネリックスキル養成のためのリバラルアーツ教育」の支援を受け、引き続き事業を実施しました。

- 2018.3.26 [『リバラルアーツセンターだより』第2号を発行しました。](#)

- 2018.3.26 「“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ」に、本校が応募した「新時代のジェネリックスキル養成のためのリバラルアーツ教育」が採択され、事業を実施しました。
[本校ホームページ“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ](#)をご参照ください。

- 2018.3.26 リバラルアーツセンターの情報を更新しました。

- 2017.3.31 [『リバラルアーツセンターだより』第1号を発行しました。](#)

- 2017.3.21 リバラルアーツセンターのホームページを開設しました。

イベント（ご案内）

- 2019.8.30 [「第3回 高専リバラルアーツ教育研究交流会」を開催します。](#)
日時：2019年9月13日(金) 午後1時30分～5時
会場：岡山コンベンションセンター 401会議室
(プログラム)
中国地区8高専からの現状報告
①松江高専 ②津山高専 ③広島商船高専 ④呉高専
⑤徳山高専 ⑥宇部高専 ⑦大島商船高専 ⑧米子高専
講演
津山高専・教務主事（副校長） 荻木 登 氏
「高専上級生とリバラルアーツ（仮）」
意見交換
情報交換会（午後5時～、会費制・要申込）



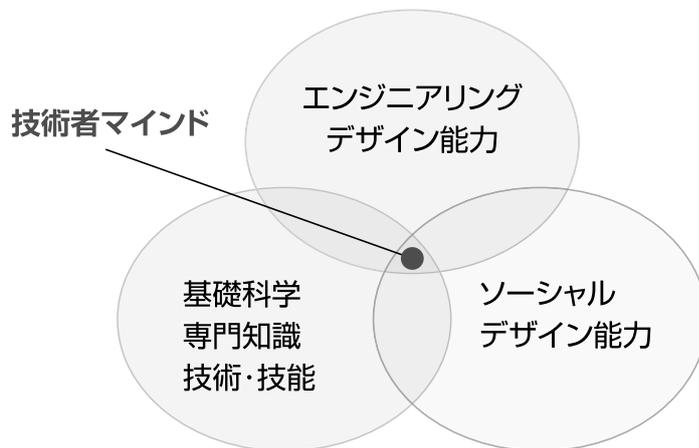
12 リベラルアーツセンター

創造力を育成するために、専門的な知識や技術に加えて、リベラルアーツや幅広い総合知識が重要です。今後、そのような面に配慮した教育カリキュラムと教育環境の整備が求められます。高専教育におけるリベラルアーツとは、技術者・産業人としての実践的な教養と言い換えることができます。実践的な教養(アクティブリベラルアーツ)とは、人間や社会に関する深い理解と見識であり、また実践を通して得られる洞察力と感性、広い視野、社会性などを培うための学術・教養・実践活動です。以上のことを理念及び趣旨とし、米子高専リベラルアーツセンターを平成28年度から設置しています。

【リベラルアーツセンターの使命と役割】

- (1) アクティブリベラルアーツを実践し統括するための校内活動拠点
- (2) 高専教育と学生の活動を地域・社会に発信する機関(広報活動の拠点)
- (3) 高専制度・高専教育の特色、これからの産業を担う技術者に必要な教養教育とは何か等、について研究する機関

科学技術成熟社会、経済グローバル化時代の 技術者等が備えるべき資質と能力



■ ソーシャルデザイン能力

実践に裏付けられた創造力、洞察力、独創性、広い視野、社会性などの力を基礎として、社会的価値あるものをデザインできる力

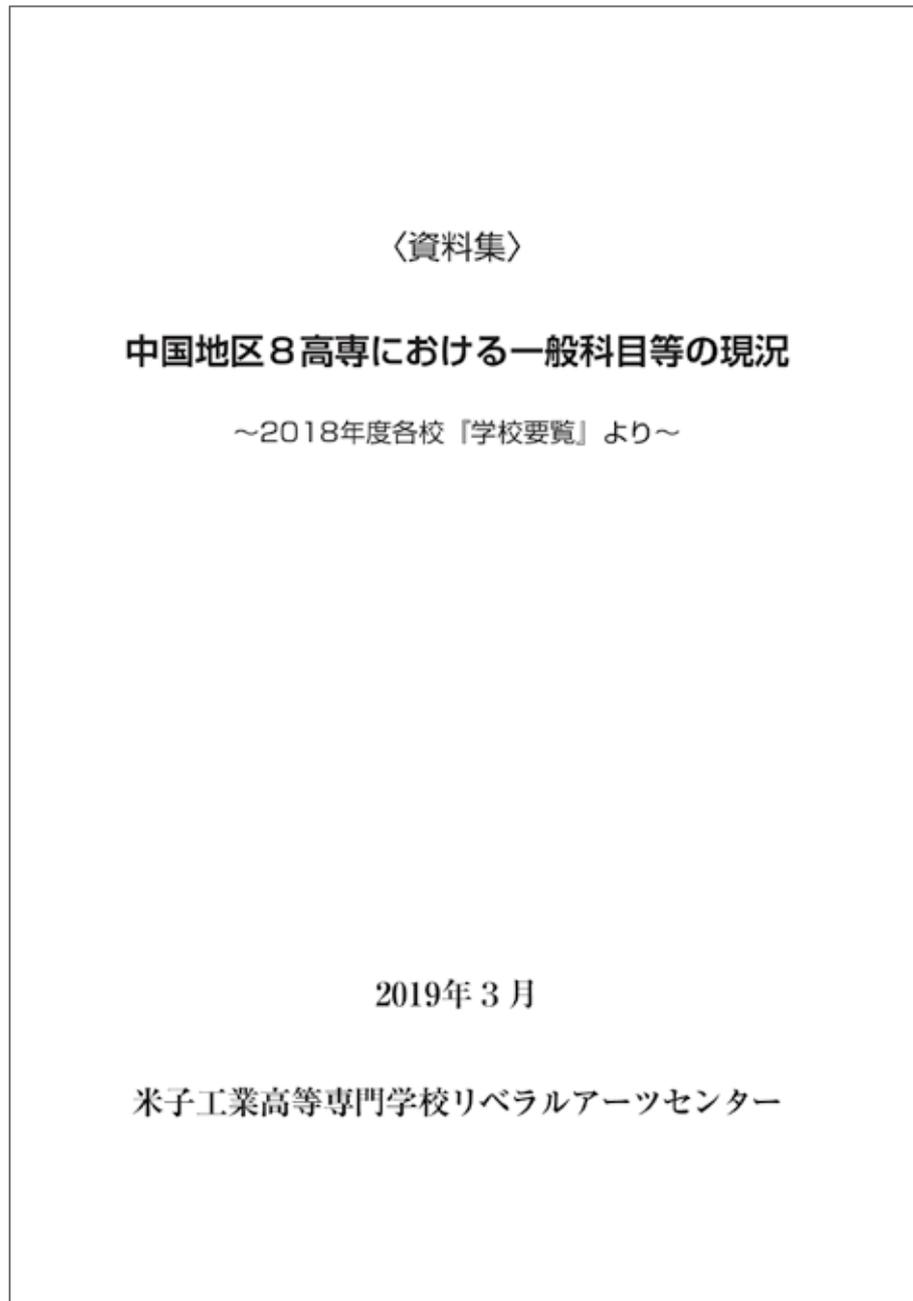
■ アクティブリベラルアーツ

実践に裏付けられた上記の各力を培うための実践活動や芸術・教養



7. 刊行物

資料集として、『中国地区8高専における一般科目等の現況～2018年度各校『学校要覧』より～』を編集し2019年3月に発行（50部）しました。



8. 論文発表

これまでに下記の論文が掲載されました。

- ①竹内彰継・布施圭司・加藤博和・中島美智子・大野政人・堀畑佳宏・辻本桜介・権田岳
「米子高専のリベラルアーツ談話会の紹介」、『日本高専学会誌』第23巻第3号（日本高専学会）、2018年7月、pp.7-12
- ②竹内彰継・布施圭司・加藤博和・中島美智子・大野政人・堀畑佳宏・辻本桜介「米子高専のリベラルアーツ談話会」、『工学教育』第66巻第6号（日本工学教育協会）、2018年11月、pp.98-103
- ③M.Aoto, A.Takeuchi, K.Fuse, H.Kato, Y.Horihata, M.Harada, K.Ohba, M.Nakashima, M.Ohno, and O.Tsujimoto, “Introduction of “Liberal Arts Discourse Meeting” at National Institute of Technology, Yonago College” *The 13th International Symposium on Advances in Technology Education (ISATE 2019 Technical Program Committee, National Institute of Technology (KOSEN), Tokuyama College)*, 2019年12月, pp.224-229

9. リベラルアーツ図書

「リベラルアーツ図書」の充実

図書館に、リベラルアーツ図書を集めた「リベラルアーツコーナー」を設置しています。2017年度に新しく212冊が購入され（後援会より）、現在約800冊が配架されています。教員による推薦書のポップも並んでいます。

また、高等教育や教育工学に関する専門書も整備しています。

2018年度はさらに500冊の図書を購入しました。講談社学術文庫（330冊）、英語多読・TOEIC参考書（60冊）、その他（110冊）です。





「読書会」

2016年度は5回開催し、学科、学年を越えて国内外の文学作品や評論などを読み、語り合いました。

2017年度は6回開催し、学科、学年を越えて、下記の作品を読みました。

有川浩『レインツリーの国』、芥川龍之介『侏儒の言葉』、太宰治『人間失格』、吉本ばなな『キッチン』、星野道夫『長い旅の途上』、円城塔『道化師の蝶』、竹内薫『理系バカと文系バカ』

2018年度は4回開催し、学科や学年を越えて、下記の本を読みました。

『羊と鋼の森』(宮下奈都)、『告白』(湊かなえ)、『セロ弾きのゴーシュ』・『よだかの星』
他(宮沢賢治)、『か「」く「」し「」ご「」と「』(住野よる)

「ビブリオバトル」

発表参加者から面白い本を紹介してもらい、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に会場で投票を行って『チャンプ本』を決定する催しです。本校では学生図書委員会の主催で、2018年12月19日(水)の放課後にアカデミックシアターで開催されました。

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター

事業報告書 2016-2019

2020（令和2）年3月31日発行

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448

TEL : 0859-24-5028（学生課学術情報係）

E-mail : gakujo@yonago-k.ac.jp

URL : https://www.yonago-k.ac.jp/tosho/liberal_arts.html